

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	大学院の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	ガッコウホウジンクルメコウギョウダイガク 学校法人久留米工業大学								
フリガナ大学の名称	クルメコウギョウダイガクダイガクイン 久留米工業大学大学院 (Kurume Institute of Technology graduate school)								
大学本部の位置	福岡県久留米市上津町2228-66								
大学の目的	本学大学院は、学部における一般的並びに専門的な学識経験の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。								
新設学部等の目的	本学は、社会のニーズを踏まえ、地元企業・自治体との連携による「地域課題解決型AI教育プログラム」を令和2年度から工学部に全学導入し、令和5年度からは、大学院においても副専攻プログラム「地域課題解決型高度AI教育プログラム」を導入し、AI・データサイエンスの知識・技術を修得した高度情報専門人材の育成に向けて、カリキュラムの高度化を図った。その結果、令和3年度以降、本学大学院電子情報システム工学専攻は入学希望者が定員を上回っており、次年度以降も電子情報システム工学専攻への入学希望者が増加することが見込まれているため、地域のニーズを踏まえた高度情報専門人材養成を使命として、入学定員20名、収容定員40名へと定員の変更を行いたい。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	工学研究科 (Graduate School of Engineering) 電子情報システム工学専攻 (Major in Electronic Information Systems Engineering)  計	2年	20人 (10)	-	40人 (20)	修士(工学) 【Master of Engineering】	工学関係	令和7年 4月 第1年次	福岡県久留米市 上津町2228-66
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	○入学定員を変更する場合 工学研究科 電子情報システム工学専攻【定員増】 (10) (令和7年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
新設	学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)
			教授	准教授	講師	助教	計		
	電子情報システム工学専攻		7人 (7)	7人 (7)	0人 (0)	1人 (1)	15人 (15)	0人 (0)	0人 (0)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		-	-	-	-	-	/	/
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		-	-	-	-	-		
	小計（a～b）		-	-	-	-	-		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		-	-	-	-	-		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		-	-	-	-	-			
計（a～d）		-	-	-	-	-			
計		7 (7)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)		
分									

既	エネルギーシステム工学専攻		10 (10)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	0 (0)
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
	小計（a～b）		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
	計（a～d）		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
設	モビリティシステム工学専攻		5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
	小計（a～b）		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
	計（a～d）		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
分	計		15 (15)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計		22 (22)	16 (16)	0 (0)	1 (1)	39 (39)	0 (0)	0 (0)
職 種			専 属		そ の 他		計		
事 務 職 員			29人 (29)		20人 (20)		49人 (49)		
技 術 職 員			5 (5)		0 (0)		5 (5)		
図 書 館 職 員			1 (1)		2 (2)		3 (3)		
そ の 他 の 職 員			0 (0)		1 (1)		1 (1)		
指 導 補 助 者			0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計			35 (35)		23 (23)		58 (58)		
校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地		82,504㎡	0㎡	0㎡		82,504㎡		
	そ の 他		29,883㎡	0㎡	0㎡		29,883㎡		
	合 計		112,387㎡	0㎡	0㎡		112,387㎡		
校 舎			専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計		
			112,387㎡ (112,387㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		112,387㎡ (112,387㎡)		
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		教 員 研 究 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
	計								
ス ポー ツ 施 設 等			ス ポー ツ 施 設		講 堂		厚 生 補 導 施 設		
			㎡		㎡		㎡		

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子書籍を含む
	教員1人当り研究費等		1,699千円	1,699千円					
	共同研究費等		4,400千円	4,400千円					
	図書購入費	2,200千円	2,200千円	2,200千円					
	設備購入費	286,746千円	286,746千円	286,746千円					
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		930千円	820千円	0千円	0千円	0千円	0千円		
学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等								
大学等の名称	久留米工業大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
工学部						0.97 《0.94》		福岡県久留米市上津町2228-66	
機械システム工学科	4	50	3年次 4	208	学士(工学)	0.97 《0.93》	1976年		令和5年度入学定員減(10人)
交通機械工学科	4	60	3年次 8	276	学士(工学)	0.74 《0.72》	1976年		
建築・設備工学科	4	80	3年次 4	328	学士(工学)	1.03 《0.99》	1976年		
情報ネットワーク工学科	4	90	3年次 4	348	学士(工学)	1.10 《1.07》	1985年		令和5年度入学定員増(10人)
教育創造工学科	4	40	3年次 -	160	学士(工学)	0.93	2007年		
大学院						1.17		同上	
エネルギーシステム工学専攻	2	5	-	10	修士(工学)	1.60	1995年		
電子情報システム工学専攻	2	10	-	15	修士(工学)	1.06	1995年		令和6年度入学定員増(5人)
モビリティシステム工学専攻	2	5	-	10	修士(工学)	0.90	2007年		
附属施設の概要	<p>名称：学術情報センター(図書館・情報館) 目的：学術情報センターは、図書、雑誌等の情報提供を行う図書館機能と情報教育をサポートする情報処理・情報通信機能を併せ持ち、本学における教育・研究活動を支援することを目的とする。 所在地：福岡県久留米市上津町2228-66 設置年月：平成26年4月 規模：2,126.48㎡(1,271.68㎡・854.8㎡)</p> <p>名称：インテリジェント・モビリティ研究所 目的：インテリジェント・モビリティ研究の推進を図るとともに、その研究成果を社会に貢献することを目的とする。 所在地：福岡県久留米市上津町2228-66 設置年月：平成27年12月 規模：796.30㎡</p> <p>名称：航空宇宙実習棟(AEC:Aerospace Education Center) 目的：「先端交通機械」「航空宇宙開発」「航空機整備」の高度な先端情報技術や航空宇宙工学を学ぶことを目的とした教育施設。 所在地：福岡県久留米市上津町2228-66 設置年月：平成31年3月 規模：976.25㎡</p> <p>名称：AI応用研究所 目的：AI技術による地域産業の課題解決やAI技術者の育成を目的とする。 所在地：福岡県久留米市上津町2228-66 設置年月：令和2年4月 規模：86.28㎡</p>								

(注)

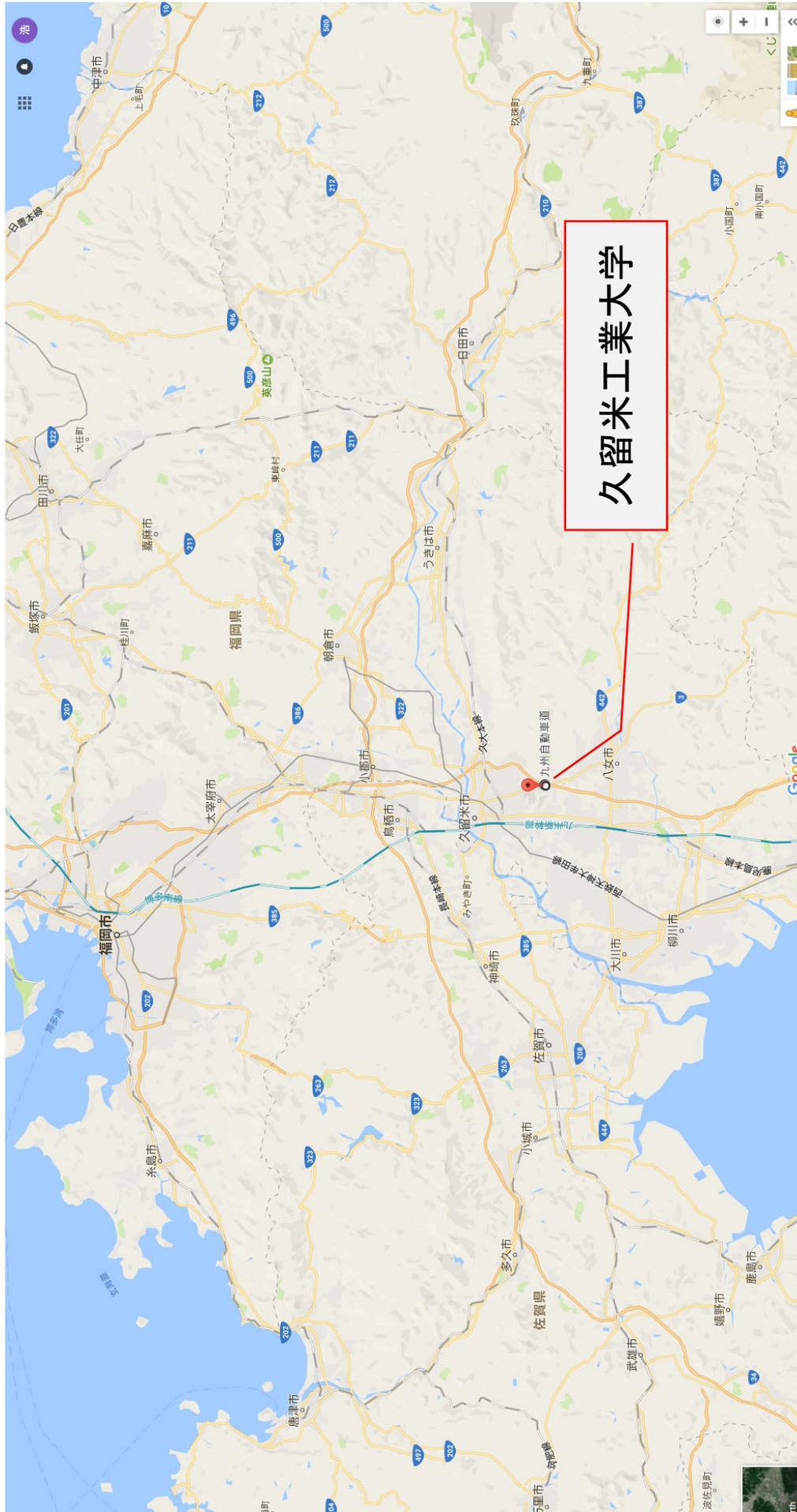
- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。

- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」，「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 7 空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

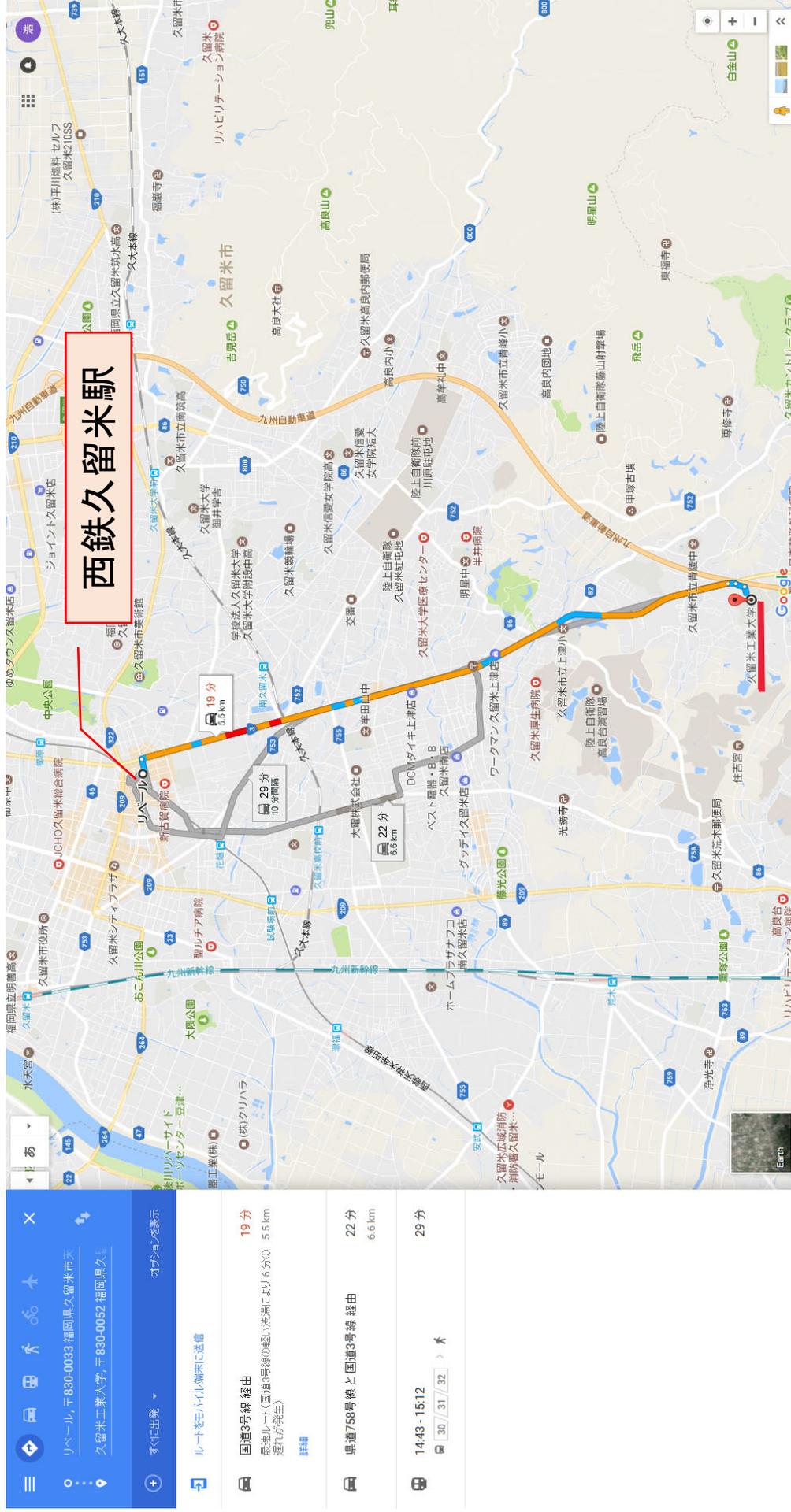
## 学校法人久留米工業大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
久留米工業大学大学院				久留米工業大学大学院				
工学研究科				工学研究科				
エネルギーシステム工学専攻	5	-	10	エネルギーシステム工学専攻	5	-	10	
電子情報システム工学専攻	10	-	20	電子情報システム工学専攻	20	-	40	定員変更(10)
モビリティシステム工学専攻	5	-	10	モビリティシステム工学専攻	5	-	10	
計				計				
20				30				
-				-				
40				60				

(1) 都道府県における位置関係の図面



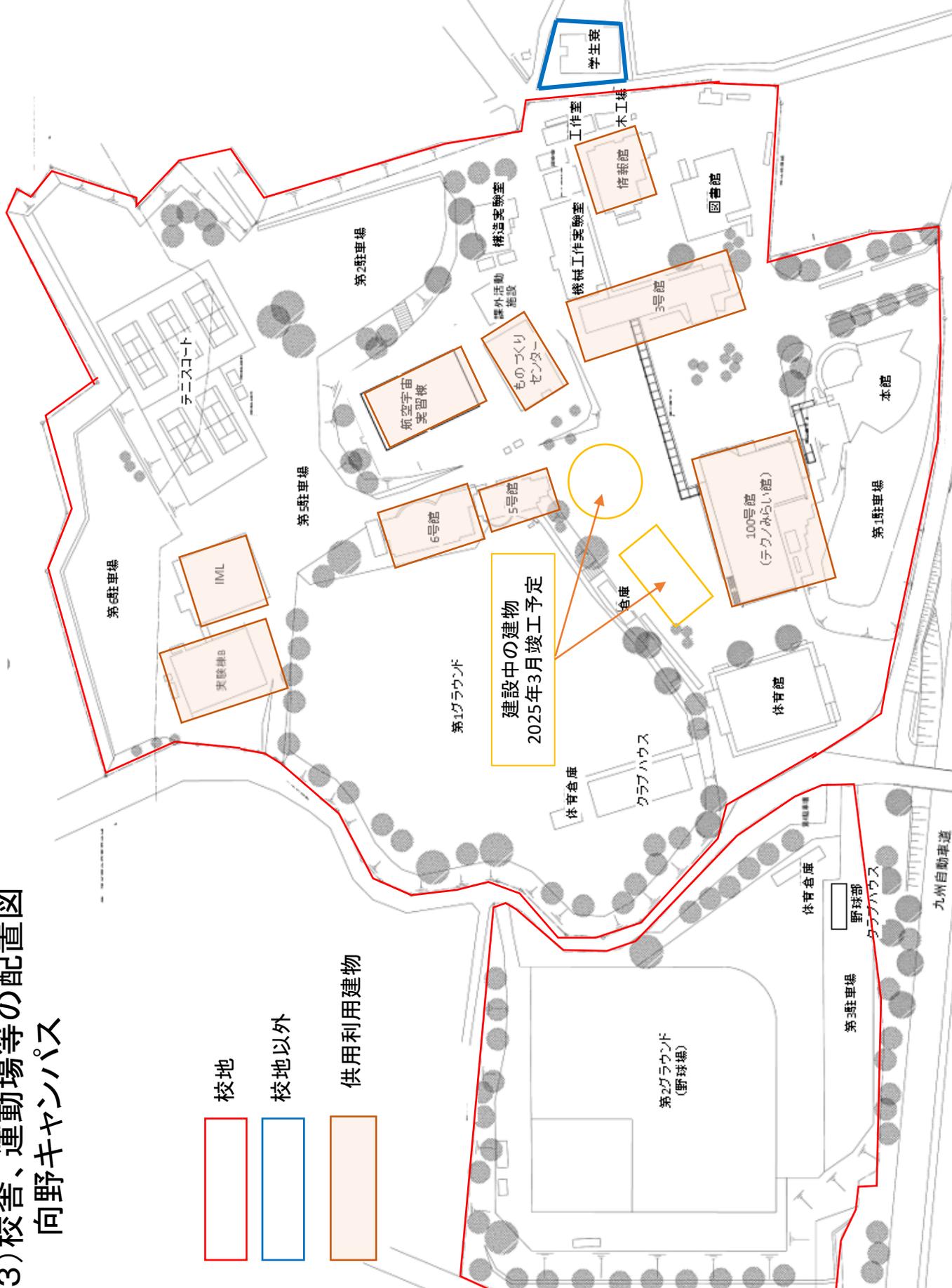
## (2) 最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



※車で約19分  
距離5.9km

### (3)校舎、運動場等の配置図 向野キャンパス

- 校地
- 校地以外
- 供用利用建物



# (1) 学則案の全文

## 第 1 章 総 則

(趣旨)

第1条 この学則は、久留米工業大学学則（以下「学則」という。）第3条の3により、久留米工業大学大学院（以下「本学大学院」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(大学院目的)

第2条 本学大学院は、学部における一般的並びに専門的な学識経験の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

(認証評価)

第3条 認証評価については、学則第2条の規定を準用する。

## 第 2 章 研究科・専攻・収容定員及び修業年限

(研究科)

第4条 本学大学院に工学研究科を置く。

(課程)

第5条 工学研究科に修士課程を置く。

(専攻)

第6条 工学研究科に次の専攻を置く。  
エネルギーシステム工学専攻  
電子情報システム工学専攻  
モビリティシステム工学専攻

(人材養成の目的)

第6条の2 各専攻の人材養成の目的は、次のとおりとする。

- (1) エネルギーシステム工学専攻は、エネルギー資源開発、エネルギー変換技術、新エネルギー、省エネルギー技術、建築環境工学、建築環境計画、サステナブル建築構造、リサイクル技術における研究能力、又はエネルギー総合システム技術を有する高度専門技術者を育成することを目的とする。
- (2) 電子情報システム工学専攻は、電子回路・知能制御工学、情報・計算機システム工学に関わる研究、開発、設計及び生産技術などに対応できる高度電子情報専門技術者を育成することを目的とする。
- (3) モビリティシステム工学専攻は、先進自動車技術、電子制御技術等に関わる研究、開発、設計及び生産技術などに対応できる高度自動車専門技術者を育成することを目的とする。

(入学定員及び収容定員)

第7条 工学研究科の収容定員は、次のとおりとする。

専 攻	入学定員	収容定員
エネルギーシステム工学専攻	5	10
電子情報システム工学専攻	20	40
モビリティシステム工学専攻	5	10
計	30	60

(修業年限)

第8条 修士課程の修業年限は、2年とする。

- 2 修士課程に4年を超えて在学することはできない。
- 3 学長は、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

### 第 3 章 学年、学期及び休業日

(学年、学期及び休業日)

第9条 学年、学期及び休業日については、学則第5条、第6条、第7条及び第8条の規定を準用する。

### 第 4 章 教育課程

(教育課程)

第10条 本学大学院は、その教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。

- 2 教育課程の編成に当たっては、本学大学院は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮するものとする。
- 3 本学大学院において開設する、専攻別授業科目及び単位数は、学長が定める。
- 4 履修の方法については、本学大学院学則に定めるものの他、学長が定める。

(単位)

第11条 単位については、学則第13条第1項、第2項の規定を準用する。

(他の大学院における授業科目の履修等)

第12条 教育上有益と認めるときは、他の大学院（外国の大学院を含む。）との協議により、学生に当該大学院の授業科目を履修させることができる。

- 2 前項の規定により修得した単位は、15単位を超えない範囲で本学大学院で修得したものとみなすことができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第12条の2 本学大学院において教育上有益と認めるときは、学生が本学大学院に入学する前に本学大学院及び他の大学院において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、15単位を超えない範囲で本学大学院に入学した後の本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(単位認定の上限)

第12条の3 第12条及び第12条の2の規定により本学大学院で修得したものとみなすことができる単位は、両者合わせて20単位を超えないものとする。

(大学院における在学期間の短縮)

第12条の4 第12条の2の規定により本学大学院に入学する前に修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により本学大学院の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して、1年を超えない範囲で本学大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、少なくとも1年以上在学するものとする。

### 第 5 章 課程の修了及び学位の授与

(単位の認定、試験の時期及び学修の評価)

第13条 単位の認定、試験の時期及び学修の評価については、学則第14条、第15条及び第16条の規定を準用する。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第13条の2 本学大学院は、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

2 教育内容等の改善のための組織的な研修等について必要な事項は、別に定める。  
(成績評価基準等の明示等)

第13条の3 本学大学院は、学生に対して、授業、研究指導の方法及び内容に1年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。  
(課程の修了)

第14条 修士課程の修了は、研究科に2年以上在学し、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受け、次の要件に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

エネルギーシステム工学専攻

修士論文の審査及び最終試験に合格すること

電子情報システム工学専攻

修士論文の審査及び最終試験に合格すること

モビリティシステム工学専攻

修士論文又は課題研究等の審査及び最終試験に合格すること

2 第12条の4及び第14条に定める在学期間が1年以上2年未満で修了する場合の履修については、修士論文審査を含め総合的に判断する。

3 修士課程修了の認定は、研究科委員会の意見を聴き学長が行う。

(学位及び学位の授与)

第15条 学位は、「修士(工学)」とする。

2 修士課程修了の認定をした者については、学長は学位(別表1)を授与する。

## 第6章 免許及び資格等

(資格の取得)

第16条 高等学校教諭1種免許状授与の所要資格を有する者で、当該免許教科に係る高等学校教諭専修免許状の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を取得しなければならない。

## 第7章 入学、転入学、再入学、転専攻、転学、休学、退学 復学及び除籍

(入学の時期)

第17条 本学大学院の入学期は、毎学年始めとする。

2 特別の必要があり、教育上支障がないときは、入学の時期を学期の始めとすることができる。

(入学資格)

第18条 本学大学院に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当しなければならない。

(1) 大学を卒業した者

(2) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

(3) 文部科学大臣の指定した者

(4) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学出願手続)

第19条 入学出願手続については、学則第24条の規定を準用する。

(選考)

第20条 入学志願者に対しては、選考を行う。

2 選考の方法については、研究科委員会の意見を聴き学長が定める。

(入学手続)

第21条 入学手続については、学則第28条の規定を準用する。

(転入学及び再入学)

第22条 転入学及び再入学については、学則第25条の2及び第26条の規定を準用する。

(転専攻)

第23条 入学後の転専攻は認めない。

(外国人留学生)

第24条 外国人留学生については、学則第27条の規定を準用する。

(転学)

第25条 転学については、学則第31条の規定を準用する。

(退学及び復学)

第26条 退学及び復学については、学則第30条、第30条の2、第30条の3、第52条及び第34条の規定を準用する。

(休学)

第27条 休学については、学則第32条の規定を準用する。

(休学期間)

第28条 休学期間は、通算して2年を超えることができない。

2 休学の期間は在学年数に通算しない。

(除籍)

第29条 除籍については、学則第35条の規定を準用する。

## 第8章 入学検定料、入学料、授業料及びその他の費用

(入学検定料)

第30条 入学検定料の額は、別表2のとおりとする。

(入学料、授業料及びその他の費用)

第31条 入学料、授業料及びその他の費用は、別表3-1のとおりとし、納入方法等については、学則第36条、第37条及び第39条の規定を準用する。

2 長期履修学生の授業料等納入金の年額は、別表3-2のとおりとする。

(退学等の場合の授業料)

第32条 退学等の場合の授業料については、学則第38条の規定を準用する。

(授業料等納入金の返納)

第33条 授業料等納入金の返納については、学則第40条の規定を準用する。

## 第9章 教員組織及び運営組織

(教員組織)

第34条 本学大学院には、その教育研究上の目的を達成するため、必要な教員を置くものとする。

2 本学大学院は、教員の適切な役割分担及び連携体制を確保し、組織的な教育を実施するものとする。

3 本学大学院における授業科目及び研究指導は、本学大学院の指導教員が担当する。ただし授業科目においては、本学大学院の担当教員が担当することができる。

4 本学大学院の指導教員及び担当教員は本学の教授のうちから、所定の資格基準に基づき理事長がこれを任命する。ただし必要があるときは、他大学の教員及び本学の准教授又は専攻分野について特に優れた知識及び実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者をこれに充てることができる。

5 前項の教員の資格基準等必要な事項については、学長が定める。

(研究科長)

第35条 研究科に研究科長を置き、学長をもって充てる。

(運営組織)

第36条 本学大学院の教学に関する重要事項を審議するため研究科委員会を置く。

2 研究科委員会は本学大学院の研究科長及び指導教員をもって組織し、必要に応じて担当教員を加えることができる。

3 研究科委員会の運営については、学長が定める。

(研究科委員会の審議事項)

第37条 研究科委員会の審議事項は、学長が定める。

## 第 10 章 研究生、科目等履修生

(研究生及び科目等履修生)

第38条 本学大学院における研究生については、学則第44条の規定を準用する。

2 本学大学院における科目等履修生について、次の各号のいずれかに該当する者で本学大学院の1又は複数の授業科目の履修を願い出るものがあるときは、本学大学院学生の学修に支障がないと認めた場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

(1) 学士、修士の学位を有する者

(2) 志望授業科目を学修するに十分な学力があると認められた者

3 科目等履修生に対しては、単位を与えることができるものとし、単位の認定については、大学院学則第13条の規定を準用する。

4 科目等履修生についての必要な事項は、別に定める。

## 第 11 章 賞 罰

(賞 罰)

第39条 賞罰については、学則第50条、第51条及び第52条の規定を準用する。

## 第 12 章 補 則

(学則の準用)

第40条 この大学院学則に定めるもののほか、本学大学院に関し必要な事項は、学則を準用し、学則中「教授会」とあるのは、「研究科委員会」と、「学科長会議」とあるのは、「研究科運営委員会」と読み替えるものとする。

附 則

この大学院学則は、平成7年3月16日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成9年4月1日から施行する。

(科目の分割及び科目名の変更)

附 則

この大学院学則は、平成10年4月1日から施行する。

(授業科目の改正)

附 則

この大学院学則は、平成14年4月1日から施行する。

(授業科目及び研究科委員会の審議事項を削除する改正)

附 則

この大学院学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。  
(認証評価制度の一部改正)

附 則

この大学院学則は、平成 17 年 12 月 1 日から施行する。  
(大学担当理事である学長への委任事項を明確にするための改正)

附 則

この大学院学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。  
(自動車システム工学専攻設置に伴う改正)  
(教員組織の整備に伴う改正)

附 則

この大学院学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。  
(大学院設置基準の一部改正に伴う改正)

附 則

この大学院学則は、平成 27 年 5 月 27 日から施行する。ただし、学校教育法の改正に伴う改正については、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。  
(学校教育法の一部改正に伴う改正、インターネット出願導入に伴う入学検定料の改正)

附 則

1 この大学院学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。  
2 改正後の大学院学則第 7 条の規定は、平成 30 年度入学者から適用し、平成 29 年度までの入学者については、従前の例による。  
(自動車システム工学専攻の一級自動車整備士養成の教育課程及び一級自動車整備士養成施設を廃止することに伴う改正)

附 則

この大学院学則は、平成 29 年 5 月 26 日から施行し、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。  
(長期履修制度制定に伴う所要の改正)

附 則

この大学院学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。  
(長期履修学生の授業料等納入金を明確にするための改正)

附 則

この大学院学則は、令和 2 年 5 月 22 日から施行する。  
(条数の改正及び字句等の整備)

附 則

この大学院学則は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。  
(リカレント教育の推進及び早期修了制度の導入に伴う改正)

附 則

この大学院学則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。  
(工学研究科の専攻名変更に伴う改正)

附 則

この大学院学則は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

(科目等履修生の受講要件変更に伴う改正)

附 則

この大学院学則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

(入学検定料、入学料、授業料及びその他の費用の改正)

(電子情報システム工学専攻の入学定員及び収容定員の改正)

附 則

この大学院学則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 7 条の規定並びに第 3 1 条に規定される別表 3 - 1 及び別表 3 - 2 は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

(人材養成の目的の改正)

(電子情報システム工学専攻の入学定員及び収容定員の改正)

(入学検定料、入学料、授業料及びその他の費用の改正)

別表 1

(大学院)

大修第 号

学 位 記

氏名

年 月 日生

本学大学院工学研究科〇〇専攻の修士課程を修了した  
ので修士（工学）の学位を授与する

年 月 日

久留米工業大学長

印

大学印

サイズ：横 27cm、縦 39cm

## 別表 2

## 入学検定料

出 願 方 法	適 用 該 当 者	検 定 料
入学願書による出願	第 18 条第 1 項第 1 号から第 4 号	30,000 円
インターネット (Web) による出願		28,000 円
備考 本学卒業生の検定料は 10,000 円とする。		

## 別表 3 - 1

## 入学料・授業料・実験実習費及び教育充実費の年額

専 攻 名	入 学 料	授 業 料	実験実習費	教育充実費
エネルギーシステム工学 電子情報システム工学 モビリティシステム工学	110,000 円	600,000 円	120,000 円	100,000 円
備考 本学卒業生の入学料は免除する。				

## 別表 3 - 2

## 長期履修学生の入学料・授業料・実験実習費及び教育充実費の年額

履修期間	年 次	入 学 料	授 業 料	実験実習費	教育充実費
3 年	初 年 次	110,000 円	400,000 円	80,000 円	68,000 円
	2、3 年次	—	400,000 円	80,000 円	66,000 円
4 年	初 年 次	110,000 円	300,000 円	60,000 円	50,000 円
	2、3、4 年次	—	300,000 円	60,000 円	50,000 円
備考 本学卒業生の入学料は免除する。					

(2) 変更事項を記載した書類  
(変更の事由及び変更点を  
簡潔にまとめたもの)

## 久留米工業大学大学院学則の一部改正について(案)

久留米工業大学大学院学則の一部を次のように改正する。

### 改正理由

電子情報システム工学専攻において、AI・データサイエンスの知識・技術を修得した高度情報専門人材の育成に向けて、カリキュラムの高度化を図った結果、入学希望者が定員を上回ってきたため、収容定員を改正する。

### 改正事項

別紙、新旧対照表のとおり

### 附 則

この学則は、令和7年4月1日から施行する。

### (3) 変更部分の新旧対照表

新旧対照表

新			旧		
第1条～第6条（略）			第1条～第6条（略）		
(収容定員)			(収容定員)		
第7条 工学研究科の収容定員は、次のとおりとする。			第7条 工学研究科の収容定員は、次のとおりとする。		
専攻	入学定員	収容定員	専攻	入学定員	収容定員
エネルギーシステム工学専攻	5	10	エネルギーシステム工学専攻	5	10
電子情報システム工学専攻	<u>20</u>	<u>40</u>	電子情報システム工学専攻	<u>10</u>	<u>20</u>
モビリティシステム工学専攻	5	10	モビリティシステム工学専攻	5	10
計	<u>30</u>	<u>60</u>	計	<u>20</u>	<u>40</u>
第8条～第40条（略）			第8条～第40条（略）		
<p><u>附則</u>  <u>この学則は、令和7年4月1日から施行する。</u></p>					

## 学則の変更の趣旨を記載した書類

### 目次

1. ア 学則変更(収容定員変更)の内容……………p.2
2. イ 学則変更(収容定員変更)の必要性……………p.3
3. ウ 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容……………p.4

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

令和7（2025）年度から、下記表1のとおり収容定員の変更を行う。

具体的には、電子情報システム工学専攻の入学定員を10名増やし、収容定員を40名とする。

表1. 変更を行う専攻の入学定員及び収容定員

専攻名	現 行		令和7年度	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
エネルギーシステム工学専攻	5	10	5	10
電子情報システム工学専攻	<u>10</u>	<u>20</u>	<u>20</u>	<u>40</u>
モビリティシステム工学専攻	5	10	5	10
計	<u>20</u>	<u>40</u>	<u>30</u>	<u>60</u>

※変更する定員に下線

## イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

我が国においては、コロナ禍が発端となり、DX化が急激に進むとともにAIの急速な発展に伴い、様々な問題をデジタル分野の知識・技術を適切に活用して解決できる高度情報専門人材が求められている。様々な調査の結果、IT人材が不足し、AI等を使いこなせる高度情報専門人材の育成が急務であることは言うまでもない。

最近では、令和3（2021）年3月に公表された株式会社野村総合研究所の「データ駆動型社会の実現に向けた高度情報専門人材に関する調査研究—最終報告書—」【資料1】によると多くの企業においてデータサイエンスの知見を有する高度情報専門人材に対する需要が高まっており、その実践的な知見を企業活動に反映させ即戦力として活躍することが求められているとのことである。

また、「AI戦略2022」【資料2】では、日本のAI技術力を支える人材の育成が重要な目標として位置づけられていることから高度情報専門人材に対するニーズは今後一層高まっていくものと考えられる。

このような社会的動向の中、電子情報システム工学専攻はAI戦略2019をベースに九州地区のAI人材の量的・質的な充足にスピード感をもって貢献するため令和7（2025）年までに、学部（応用基礎レベル）、大学院（エキスパート）で人材輩出を一貫して行う構想である。

また、教育内容において、電子情報システム工学専攻は、AI分野の副専攻プログラム「地域課題解決型高度AI教育」を開設しており、競合校には設けられていないことから高度情報専門分野に相応しい教育を大学院生に提供出来るということに優位性を感じている。

さらに、電子情報システム工学専攻の過去5年間の収容定員充足率は、令和2（2020）年度50%、令和3（2021）年度70%、令和4（2022）年度110%、令和5（2023）年度100%と上昇傾向で推移し、令和6（2024）年度には入学定員10名増に対して入学者11名と入学定員を充足した。

こうした状況を踏まえ、入学定員の見直しを行った結果、収容定員の変更を行う必要性があると判断した。

## ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

### （ア）教育課程の変更内容について

課程の変更は行わないが、前年度に引き続き人材育成で交差する領域の理解を深めながら、AI やデータ分析の応用技術により地域企業・自治体等のビックデータから課題を発見し、地域社会の課題解決に挑む AI・DA の高度情報専門人材を育成することを学修目標に掲げている。

さらに、AI・DA 科目群を整備し、副専攻プログラム「地域課題解決型高度 AI 教育」を強化すること等の教育内容を中心とした課題の発見から解決・表現・実装までのデザイン思考を修得できる体系的教育カリキュラムを構築し、大学院生に具体的な実務課題解決に取り組ませる。

以上により、定員変更前の教育課程と比較して同等以上の内容が担保されていると判断する。

### （イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容について

今回の学則変更で、前回より大きな変更はないが企業等のニーズも踏まえた高度情報人材の継続的な輩出を可能にすべく理論の学修とともに実践的な教育と社会課題解決に向けたものとして「高度 AI コーオプ実践 I～IV（企業・自治体との連携による地域課題解決型 PBL）」を令和 6（2024）年度から開始した。これは、大学院でも学部同様に企業・自治体等と連携したアクティブラーニングに注力したものと言える。

以上により、定員変更前の教育方法及び履修指導方法と比較して、同等以上の内容が担保されていると判断する。

### （ウ）教員組織の変更内容について

現在、電子情報システム工学専攻には 15 名の教員が配置されており、このうち修士研究指導教員は、10 名である。

さらに、AI・DS・DA などの技術分野を専門とする教員を新規で 3 名公募しているところである。

また、ST 比は学則変更後で 3 名程度となり、手厚い研究指導を行うことが可能である。

以上により、定員変更前と比較して同等以上の教員組織が担保されている判断する。

### （エ）大学全体の施設・設備の変更内容について

大学全体の施設設備については、今現在でも大学院生用自習室として余裕が

ある既存の施設・設備の活用により、専攻の他の大学院生と同等の施設・設備環境を提供しており問題はない。

また、令和7（2025）年度から新棟が供用開始予定であり、学修スペースの拡大が見込まれている。

以上により、変更前と同等の施設・設備環境を維持出来ると判断する。

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 目次

(1) 新設組織の概要.....	- 2 -
①新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）.....	- 2 -
②新設組織の特色.....	- 2 -
(2) 人材需要の社会的な動向等.....	- 3 -
①新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析.....	- 3 -
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析.....	- 5 -
③新設組織の主な学生募集地域.....	- 7 -
④既設組織の定員充足の状況.....	- 7 -
(3) 学生確保の見通し.....	- 8 -
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果.....	- 8 -
ア 既設組織における取組とその目標.....	- 8 -
イ 新設組織における取組とその目標.....	- 10 -
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数.....	- 11 -
②競合校の状況分析（立地条件，養成人材，教育内容と方法の類似性と定員充足状況）.....	- 12 -
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性.....	- 12 -
イ 競合校の入学志願動向等.....	- 13 -
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）.....	- 14 -
エ 学生納付金等の金額設定の理由.....	- 14 -
③先行事例分析.....	- 14 -
④学生確保に関するアンケート調査.....	- 14 -
⑤人材需要に関するアンケート調査等.....	- 17 -
(4) 新設組織の定員設定の理由.....	- 18 -

## (1) 新設組織の概要

### ①新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）

組織	入学定員	収容定員	所在地
久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻	20	40	福岡県久留米市 上津町 2228 の 66 番地

### ②新設組織の特色

#### ○ 養成する人材像と学位授与方針について

電子情報システム工学専攻では、電子回路・知能制御工学、情報・計算機システム工学に関わる研究、開発、設計及び生産技術などに対応できる高度電子情報専門技術者を育成する。

修士の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、(1)電子・情報工学分野における高度な専門知識と問題・課題発見能力および解決能力を身に付けている。(2)研究者や技術者に必要な倫理観と国際性を備え、協働して社会の課題に取り組める。(3)論理的な記述、プレゼンテーション、コミュニケーションによりチームで仕事ができる。(4)電子・情報工学分野においてリーダーシップを取り、指導的役割を担える、としている。

#### ○ 当該専攻の特色について

電子情報システム工学専攻は、AI 戦略 2019 をベースに九州地区の AI 人材の量的・質的な充足にスピード感をもって貢献するため、令和 7（2025）年までに学部（応用基礎レベル）、大学院（エキスパート）で人材輩出を一貫して行う構想であり、当該専攻の定員増は、学科の定員増とともに練られた一体的な計画である。

電子・情報工学およびデジタル分野における人材育成で交差する領域の理解を深めながら、新たに「AI（Artificial Intelligence）やデータ分析（DA: Data Analytics）の応用技術により地域企業・自治体等のビッグデータから課題を発見し、地域社会の課題解決に挑む AI・DA の高度情報専門人材を育成する」ことを教育内容に取り入れる。本学 AI 応用研究所に寄せられた企業課題の解決に取り組む PBL（Project Based Learning）をコアとし、「地域課題解決型高度 AI 教育プログラム特別講義」「データサイエンス特論」「統計分析特論」「ビッグデータ応用特論」などの AI・DA 科目群を整備し、副専攻プログラム「地域課題解決型高度 AI 教育」を更に強化する。これらの教育内容を中心とした課題の発見から解決、表現、実装までのデザイン思考を修得できる体系的教育カリキュラムを構築し、大学院生に具体的な実務課題の解決に取り組ませることで、企業等のニーズを踏まえた高度情報専門人材を継続的に輩出する。

教育・研究の特徴として、理論の学修とともに実践的な教育と社会課題解決に向けた研究

を両輪とするべく、その主たる方法として「高度 AI コーオプ実践 I～IV（企業・自治体との連携による地域課題解決型 PBL）」を令和 6(2024)年度から開始した。これは学部から継続して大学院でも企業・自治体等と連携したアクティブラーニングに注力し、企業や地域の実課題・実データに対して教育・研究を実践するための科目群である。

また、喫緊の課題である在職社会人のリカレント・リスキリング教育の充実を図るべく、地域企業に就職した卒業生等が大学院で当該企業の課題解決に取り組む社会人大学院制度を産学連携で設けるなどの構想を有している。

令和 5(2023)年度からは、大学院進学希望の 4 年生を対象に早期高度情報専門教育のための「大学院科目等履修生制度」を設け、大学院副専攻プログラム「地域課題解決型高度 AI 教育プログラム」を導入し他専攻の院生へも AI 教育を行うなど、AI・データサイエンス(DS)の知識・技術を修得した高度情報専門人材の育成に向けて、高度な AI 教育を全学に提供している。

さらに、学部・大学院で実施している数理・データサイエンス・AI 教育を高等学校向けに編成した「課題発見・探求型高大接続教育プログラム」を、DX ハイスクールに選定または申請を検討した高等学校等へ高大連携事業を通して展開し、高校から大学院までの 9 年一貫教育を実現する。

以上のような特徴を踏まえ、AI・データサイエンスの課題解決型教育研究を推進し、地域の DX (Digital Transformation) や社会人リカレント・リスキリング教育や中等教育も含めて幅広く支援できる地域社会融合型の教育・研究を実践する。

## (2) 人材需要の社会的な動向等

### ①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

はじめに、全国における人材需要について説明する。

我が国においてはコロナ禍が発端となり DX 化が急激に進むとともに、AI の急速な発展に伴い、様々な問題をデジタル分野の知識・技術を適切に活用して解決できる高度情報専門人材が求められている。経済産業省の調査(平成 28(2016)年)やみずほ情報総研の調査(平成 31(2019)年)では、IT 人材が不足し、AI 等を使いこなす高度情報専門人材の育成が急務であるとしている。令和 3(2021)年 3 月に公表された株式会社野村総合研究所の「データ駆動型社会の実現に向けた高度情報専門人材に関する調査研究－最終報告書－」【資料 1】によると、多くの企業においてデータサイエンスの知見を有する高度情報専門人材に対する需要が高まっており、その実践的な知見を企業活動等に反映させ、即戦力として活躍することが求められているとのことである。

「AI 戦略 2022【資料 2】」では「社会実装の推進」「教育改革」による日本の AI 技術力を支える人材の育成を重要な目標としていることから、我が国として高度情報専門人材養成は社会の更なる発展のために需要がある。

文部科学省は、令和4(2022)年度第2次補正予算で「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金」を設け、高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に取り組む大学等を支援する等、IT人材不足解消に向けた対応を進めており、本学大学院電子情報システム工学専攻も収容定員増を一つの目標条件として「支援2」において選定された。【資料3】

以上のように、我が国の政策や産業界など社会における需要があることは明らかである。

次に、地域社会における人材需要について説明する。

本学は、福岡県筑後地域唯一の理工系4年制大学である。そのため、本学は令和2(2020)年にAI・DXに強い高度情報専門人材を育成する観点からAI応用研究所をいち早く開設し、令和3(2021)年度より「地域課題解決型AI教育プログラム」を全学的に導入した。令和5(2023)年度時点では、全国の私立大学では唯一、MDASHリテラシー・応用基礎の両レベルにおいて文部科学省からプラス認定されている。この教育プログラムにおいて幅広い分野(健康、福祉、医療、教育、建設、農業・特産物、工学等)の地域課題をAI技術により解決する「AI活用演習選抜クラス」を産学連携PBLとして実践してきた。その結果、本PBLのテーマや参加希望企業・自治体は令和3(2021)年度6件、R4(2022)年度10件、R5(2023)年度14件と年々増加しており【資料4】、地域の社会人リカレント教育にも繋がっている。また、本学に寄せられる情報分野の技術相談は平成29(2017)年度から平成31(2019)年度まで0件であったが、AI応用研究所を開設した令和2(2020)年以降から令和4(2022)年度までに17件と急増している【資料5】。

このような時代にキャッチアップした迅速な教育内容の改善・充実を進める中で明らかになった本学の産学連携PBLへの参加企業・自治体数及び技術相談数の増加や、企業に対して実施した採用ニーズ調査【資料20】等を勘案すると、本学が位置する福岡県南部を中心とした筑後周辺地域では潜在的な人材需要が強まっているものの、高度情報専門人材が不足しており、本学を取り巻く地域産業界において高度情報専門人材の需要は高いと読み取ることができる。

また本学は、半導体関連産業が盛んな九州の北部中央に位置しており、特に隣県の熊本県では、世界的な半導体メーカーが進出する等、高度情報専門人材の需要が地域的に高まっている。しかしながら、九州全域で深刻な半導体人材不足の一端を示す調査結果が、「九州半導体人材育成等コンソーシアム」の第4回会合(令和6(2024)年)で報告されている。【資料6】

本学は、福岡県南部唯一の理工系大学・大学院として地域に根ざし、地域社会の多様な期待や要請だけでなく、進学希望者のニーズに対応した教育内容の充実及び改善を行い、公益的役割を有する地方の大学にこそ可能である「中核・トップを担う高度情報人材」を地域に輩出することが、本学・本専攻の重要な使命であると考えます。全国的、地域的、社会的な人材需要動向に基づき、本学が自らの責任・使命において、時代の進展と多様化する地域社会

に必要な人材育成に尽力することが地方創生の基盤となると考え、学部の定員増との一体的な将来構想を持ち、高度情報専門人材を育成する電子情報システム工学専攻の収容定員増をすることとした。

【資料1】株式会社野村総合研究所「データ駆動型社会の実現に向けた高度 ICT 人材に関する調査研究」－最終報告書－ 抜粋

【資料2】統合イノベーション戦略推進会議決定「AI 戦略 2022」 抜粋

【資料3】独立行政法人大学改革支援・学位授与機構「令和5年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」選定結果通知

【資料4】久留米工業大学「AI 活用演習選抜クラス」PBL テーマ一覧

【資料5】久留米工業大学「情報分野の技術相談件数」

【資料6】日本銀行福岡支店「九州における半導体関連産業の動向」および DIGITAL 朝日新聞記事配信（令和6(2024)年2月27日）

## ②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

はじめに、全国的な理・工学系大学院における入学志願動向について説明する。

日本私立学校振興・共済事業団による平成31(2019)年度から令和5(2023)年度までの「私立大学・短期大学等入学志願動向」による「区分ごとの動向（大学院）」における「理・工学系」の全国的な動向をみると、平成31(2019)年から令和5(2023)年までの5年間の入学定員に対する志願倍率は過去5年間で微増傾向にある。一方で入学定員充足率は令和3(2021)年以降大幅に増加し、令和5年度には100%を超えた。令和5(2023)年と令和4(2022)年を比較すると、志願倍率で0.06ポイント、入学定員充足率で5.69ポイント増加している。【資料7】

このように、本専攻と同分野である理・工学系大学院における最近の全国的な志願動向から、今後においても本専攻の志願者数の増加を見込むことができる。

次に、電子情報システム工学専攻に入学する学生の基礎となるのは学部である。そのため、九州・沖縄地区における人口動向データから、学部が充足しその結果として本専攻が収容定員増後も定員を充足できることを説明する。

### ○九州・沖縄地区の大学を卒業した者の大学院進学状況

令和5(2023)年度の九州・沖縄地区の学校基本調査によると、九州・沖縄の大学を卒業した者の過去3年間の大学院への進学状況は、令和5(2023)年は卒業者48,614人のうち大学院進学者は5,832人で大学院進学率は12.0%、令和4(2022)年は卒業者48,435人のうち大学院進学者は5,800人で大学院進学率は12.0%、令和3(2021)年は卒業者47,763人のうち大学院進学者は5,591人で大学院進学率は11.7%となっている。

また、九州・沖縄地区の大学を卒業した者の過去5年間の大学院進学率は、平成31(2019)

年の 11.3%から毎年微増しながら令和 5(2023)年は 12.0%と 0.7 ポイント上昇しており、18 歳人口の減少期においても安定した大学院進学状況で推移していることから、今後も大学院進学者確保の見通しがあるものと考えられる。【資料 8】

#### ○ 九州・沖縄地区の大学在籍者数（中期的な大学院進学対象となる学生数）

令和 3(2021)～令和 5(2023)年度の九州・沖縄地区の学校基本調査における大学進学者数から予測した、本専攻の収容定員増を行う令和 7(2025)年度入学の受験対象者となる九州・沖縄地区の大学に在籍している学部 3 年生の学生数(予測)は 59,000 人程度、収容定員増後 2 年目に受験対象者となる学部 2 年生の学生数(予測)は 60,000 人程度、収容定員増 3 年目に受験対象者となる学部 1 年生の学生数は 60,197 人、収容定員増 4 年目に受験対象者となる九州・沖縄地区の高等学校に在籍している高校 3 年生の生徒数は 123,471 人となっている。【資料 9】

なお、九州・沖縄地区の高等学校を卒業した者の大学等への進学率は令和 5(2023)年度において約 51.7%となっており【資料 10】、福岡県をはじめとする九州・沖縄地区の高校を卒業した者の大学等への進学率で学部生の推移を予測しても、今後、九州地区の大学院受験対象者が大きく減少することはないと見込まれる。

#### ○ 九州・沖縄地区の工学分野の志願者の状況（中長期的な大学院進学対象となる学生数）

さらに、リクルート入試実態 2022【資料 11】によると、九州・沖縄地区の工学（システム制御工学・情報工学・通信工学・電気工学・電子工学）分野の大学における募集人員数は 5,088 人、志願者数は 37,356 人である。特に本専攻が最も近い分野である情報工学については、志願倍率が 7.22 倍となっており、全国平均の志願倍率が 12.28 倍であることを考えると、当該分野における志願者数については増加の余地があり、今後も高校生の工学分野への進学需要は見込め、その学部進学の結果として工学系大学院進学者の増加が見込める。

#### ○ 九州・沖縄地区の年齢別人口による中長期的な人口動向等

全国的に 18 歳人口の減少が予測されている中で、福岡県をはじめとする九州・沖縄地区における学齢人口の減少は比較的緩やかな傾向が示されており、九州地区の最新の年齢（5 歳階級）別推計人口をみると、19 歳～15 歳の人口は約 65 万 4 千人、14 歳～10 歳の人口は約 66 万 9 千人となっており、今後の大学院受験対象者となる 19 歳～10 歳までの年齢別人口は、微増減を繰り返しながら緩やかに変動していくことから、中長期的にみても大学院受験対象者が急激に減少することはないものと見込まれる。【資料 12】

以上の人口動向を分析した結果、工学系大学院への進学を希望する学生の数は、短期的にも中長期的にも、定員を満たすのに十分な数が存在することが確認できる。

【資料 7】日本私立学校振興・共済事業団 平成 31(2019)年度から令和 5(2023)年度までの「私立大学・短期大学等入学志願動向」による「区分ごとの動向（大学院）」における「理・工学系」より抜粋

【資料 8】文部科学省 令和 5 年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（大学）－都道府県別状況別卒業生数 より抜粋

【資料 9】文部科学省 令和 3 年度～令和 5 年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（高等学校）－都道府県別状況別卒業生数、および令和 5 年度学校基本調査－学校調査票（高等学校）－学年別生徒数 より抜粋

【資料 10】文部科学省 令和 5 年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（高等学校）－都道府県別大学・短期大学等への進学者数 より抜粋

【資料 11】リクルート入試実態調査 2022 より抜粋

【資料 12】総務省統計局 人口推計－年次－2022 年－都道府県、年齢（5 歳階級）、男女別人口－総人口、日本人人口（2022 年 10 月 1 日現在） より抜粋

### ③新設組織の主な学生募集地域

本申請時においては、電子情報システム工学専攻の入学定員の全てを基礎となる本学工学部からの内部進学と想定している。本学工学部の所在地県別（福岡県）の入学者数の構成比をみると、福岡県：57.7%、佐賀県：5.2%、熊本県：4.8%、長崎県：4.1%、鹿児島県：3.9% 計 75.7%【資料 13】となっている。そのため、大学院においても九州・沖縄地区を学生募集地域として設定することは妥当と考える。

【資料 13】文部科学省 令和 5 年度学校基本調査－出身高校の所在地県別入学者数－ より抜粋

### ④既設組織の定員充足の状況

大学院電子情報システム工学専攻の過去 5 年間の収容定員充足率は、令和 2(2020)年度 50%、令和 3(2021)年度 70%、令和 4(2022)年度 110%、令和 5(2023)年度 100%と上昇傾向で推移し、令和 6(2024)年度には入学定員 5 名増の 10 名に対して、入学者は 11 名と入学定員を充足し、収容定員 107%となっている【資料 14】。

これは本学工学部の「地域課題解決型 AI 教育プログラム」が 4 年目に入り、初年度「AI 活用演習選抜クラス」に参加した 4 年生 (32 名) のうち、本専攻への入学者は 8 名 (25.0%) であることが寄与している。学部教育の初期段階から、実践的な課題に対応する学習機会を提供することで、より高度な研究や実践課題を通じた社会課題の解決を動機付けたものと考えられる。大学・高専機能強化支援事業における「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化の取り組み(支援 2)」では、大学院電子情報システム工学専攻の定員を段階的に増員(令和 6(2024)年度+5 名、令和 7(2025)年度+10 名)し、令和 8(2026)年度以降は高度情報専門人材 20 名を毎年輩出する計画である。

【資料 14】電子情報システム工学専攻の入学定員・収容定員の直近 5 年間の充足状況

### (3) 学生確保の見通し

#### ①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

##### ア 既設組織における取組とその目標

学生確保に向けた具体的な取組状況は、本学学部生を主な対象としてクラス担任、進路指導担当教員、特に卒業研究配属先の指導教員が一人ひとりの学生に応じた丁寧な説明、案内により大学院進学を勧めることが中心となっており、具体的な内容は(i)から(iii)に後述する。

この他、大学ホームページでの大学院情報の掲載や大学案内パンフレット等の印刷物の配布をはじめ、1年生からのセミナーや就業力育成科目群における大学院進学の説明、3年次に行う進路面談会の開催を通じて、大学院の理念、養成する人材像、学位授与方針・教育課程編成の方針・入学者の受入方針、学生生活を通じた活動や想定される進路、奨学金制度など、様々な教育情報について、在学生や保護者に対して広く周知を図ることとしている。

これらの取り組みを通じて、大学院進学のためのPR活動を展開している。なお、大学院への進学や入学を決定する時期や要因は多様であるため、どのPR活動が直接的に進学や入学の決定に影響を与えたかを特定することは困難である。全ての取組みが積み重なった結果として、目標とする入学者数は令和6(2024)年度入学定員である10名と設定している。

##### (i) 本学在学生向けPR(別紙3①および②)

新入生に対して行う新入生オリエンテーションにおいて、全学科を対象に大学院の紹介を実施している。

その後、全学年・全学科を対象とした進学説明会を毎年6月頃に実施している。副学長より大学院進学を紹介から本学の大学院進学の特長を紹介し、電子情報システム工学専攻を含む3専攻より、各専攻の特徴や修了後の進路について紹介している。目標参加人数は50名であり、主な参加者は学部4年生で令和4年度は約30名、令和5年度は約40名であった。

##### (ii) 情報ネットワーク工学科の学年進行における大学院進学に関するPR(別紙3③)

次の表のとおり、キャリア育成科目群や卒業研究セミナーにおいて、大学院進学に関する情報提供を行っている。対象および目標人数は、令和7(2025)年度大学院入学対象となる令和3(2021)年度の情報ネットワーク工学科入学定員である。

説明実施時期	PR活動の内容	対象人数
1年次/4月	入学ガイダンスにおいて全学科の新入生を対象に、学長からの「大学院の紹介」と各専攻長から専攻の紹介および研究活動等を詳しく紹介し、入学時点から大学院の存	80名

	在をアピールし、大学院進学に興味を持ってもらうように努力している。	
2年次/前期	就業力育成セミナーⅠ（情報ネットワーク工学科2年生後期必修科目）において、自身の将来設計について考えるグループワークの中で、やりたいことを実現する手段のひとつとして大学院進学の特長について紹介している。	80名
3年次/前期	就業力実践演習（情報ネットワーク工学科3年生前期必修科目）の中で、自身のキャリア設計に対して具体的に考えるワークをおこなっている。その授業の中で、情報ネットワーク工学科の教員より大学院進学や将来の特長、経済的な支援等について説明している。	84名 ※編入学生含む
3年次/後期	就業力育成セミナーⅡ（情報ネットワーク工学科3年生後期必修科目）では、卒業研究の仮配属をおこない、少人数ゼミ形式で講義演習等を実施し、その中で卒業研究の指導教員より大学院進学への意識涵養を図っている。また各研究室の大学院生との交流を図ることで、研究活動やリーダーシップなどを体験することで、大学院進学を身近に感じるよう計らっている。	84名 ※編入学生含む
3年次/11月	進路面談会（情報ネットワーク工学科3年生参加必須）において、3年生学生および保護者に対して、大学院の情報を提供し、さらに進学した大学院生の進路や研究体験も共有し、大学院進学を真剣に考える機会を与えている。	84名 ※編入学生含む
4年次/年間	卒業研究の取組みや就職活動の状況に応じて、卒業研究担当の教員が大学院進学の特長を行っている。大学院推薦試験は多様な入試区分を設けており、7月初旬・10月初旬・2月中旬・2月下旬に実施される。このように受験の機会を多数設けることにより就職から進学への進路変更にも年間を通して対応可能としている。	84名 ※編入学生含む

(iii) 保護者および在学生向け PR (別紙 3④および⑤)

本学保護者向け大学案内リーフレット「久工大だより【Fan】」の配布により、大学院の学費や奨学金などのファイナンシャルプラン等も含め「進学のスズメ」を行っており、保護者にも情報共有をおこなっている。印刷配布数は 1,500 部である。

また、多数の保護者が参加する地区別保護者懇談会、3 年次進路面談会においても大学院についての紹介を行っている。参加の実態として、令和 5(2023)年度の情報ネットワーク工

学科の地区別保護者懇談会では保護者 145 名、3 年次進路面談会では保護者 60 名の参加があった。

#### 【添付データ】

・既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績（別紙 3）

#### イ 新設組織における取組とその目標

本専攻では、大学内部進学で入学定員充足を目指す想定であり、(3)①アで前述した PR 活動を引き続き重要な取組みとする方針である。そのうえで、新たな学生確保の取組みを行う。なお、以下の取組みとその結果との直接的な因果関係を特定することが難しいため、目標人数は重複者を含めて算出する。

(i) 本学在学学生向け PR では、大学院の基礎となる工学部の情報ネットワーク工学科以外からの進学者も確保するべく、6 月の説明会参加目標人数を本学工学部の収容定員の 10% にあたる 132 人とする。また、別紙 3①および②を根拠に入学率を 20%として適用すると入学者数の目標は 26 人である。

(ii) 情報ネットワーク工学科の学年進行における PR では、キャリア育成必修科目の一環で引き続き理工系キャリア育成を行う。別紙 3③を基準に学年定員 94 人に対して入学率を 5%として適用すると入学者数の目標人数は 4 人である。

(iii) 保護者向け PR では、情報ネットワーク工学科の 3 年次進路面談会における保護者同伴学生の参加目標人数を 70 人とする。別紙 3④を基準に入学率を 4%として適用すると入学者数の目標は 2 人である。また、情報ネットワーク工学科の地区別保護者懇談会における保護者同伴学生の参加目標人数を 120 人とする。別紙 3⑤を基準に入学率を 11%として適用すると入学者数の目標は 13 人である。

一方で、新たな学生確保の施策として、以下のような取組みを新たに計画している。

#### (iv) 経済的支援の強化

従来から設けている本学独自の GPA を基準とした成績上位者への奨学金に加えて、新たな奨学金制度として、GPA ではなく学部時代の業績（AI 教育プログラムの上位修了証取得や学会発表等）で評価する特別奨学生制度を設けた。

さらに、地域企業と連携した「高度 AI コーオプ実践 I～IV（企業・自治体との連携による地域課題解決型 PBL）」を基にした有償コーオプ制度により、研究テーマとして企業の課題に取り組みながらアルバイト代を得られる仕組みを検討している。さらに、令和 6 年度からは授業料の引き下げを行い、本学大学院進学者全体への経済的な負担軽減を行う。これらの施策により、近隣の理工系大学院との比較において学費が安く抑えられる。これは学生確保の見通し調査【資料 20】の独自設定の質問として、本学大学院の独自の奨学金制度に該当した場合に入学するかどうかを尋ねたところ、「現時点で就職希望であっても奨学金に該

当すれば入学する」と回答した学生が 21 人であった。従って、本学は経済的理由が解消すれば、大学院進学が見込めると判断し、大学・大学院の財政計画との整合を図り決断したものである（後段の(3)②エ「学生納付金等の金額設定の理由」にて詳述）。

これらの施策により本専攻の入学者数の目標を 10 人とする。

(v) 9 年一貫教育による早期キャリア育成

学生確保の施策として、高大接続による入学生の選抜・確保に始まり、学部では、地域課題解決型 PBL を通して実装力のある AI・DA 人材を育成し、大学院では、中長期インターンシップ等により社会人力を高めるといった「高校から大学院までの 9 年一貫教育プログラム」の実現を図る。

取り組みの一例として、DX ハイスクール申請校との数理・データサイエンス・AI 教育での高大連携（福岡県・佐賀県の高등학교）、久留米市立高校の「総合的な研究の時間」における地域課題解決の取組みの連携、令和 5 年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）」に採択された伊万里実業高校の取組では、本学が高等教育機関としてコンソーシアムに参画しており、メタバース・ラボを用いた高大接続教育を展開し、実業系高校からの女子入学者確保を目指している。

さらに、商業・実業系高校への高大接続教育の提供や、科目等履修による単位認定制度、入試における優遇制度を検討し、まずは、学部段階で優秀な女子学生を増やし、女子大学院生の確保に繋げる計画である。また、遠隔システムやオンライン動画、メタバース・ラボの有効活用により、在宅履修で大学院の単位を取得できる仕組みや、長期履修制度など、社会人や留学生等が大学院に進学しやすい学修制度を現在検討している。

これらの取組により高校との連携を深め、9 年一貫教育の参加者は、早い段階から大学院進学をキャリア選択の視野に入れた教育を受講する予定であり、入学者確保に繋げる。本専攻の入学者数の目標を 5 人とする。

(vi) 社会人大学院生の受入れ体制強化（将来構想）

社会人が在職中にも大学院で学びやすくなるよう、社会人向けコースの強化を計画している。具体的には、最大 4 年間の長期履修制度と土曜日開講の演習科目や研究指導を提供し、社会人が仕事を続けながら修士号を取得しやすい環境を整備し、多様な背景を持つ在職社会人のリカレント・リスキリング教育への対応を充実する。

以上の取組みの目標の累積人数は 60 人である（重複者を含む）。多面的な PR 活動を通して、学部学生および社会人の電子情報システム工学専攻への進学意欲を高め、継続的に定員以上の学生が志願する状況となることを目指す。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

本専攻への大学院進学率は、基礎となる工学部情報ネットワーク工学科の卒業生を基準とすると令和 3 年度 7.9%、令和 4 年度 6.8%、令和 5 年度 4.7%であった【資料 15】。一

方で、文部科学省が令和5年度に実施した「学校基本調査」によれば、令和5年(2023年)3月の大学卒業生数は590,162人で、その内工学系統の卒業生は87,851人であった。また、工学系大学院へ進学したのは33,792人である。工学系の卒業生が工学系の大学院へ進学したとすると、進学率は38.47%である【資料16】。本専攻の進学率と30%以上の乖離があり、今後上昇する余地は十分にある。

そこで、(3)①イで述べた内容と同様の取り組みを継続し、(I)在學生だけでなく保護者も対象として広く周知を図り、教育研究活動を通して大学院進学を勧める。これにより20名程度の内部進学者を確保する。

加えて、新しい取り組みとして、(II)令和6年度から大学院の学費を引き下げるとともに、現行の奨学生制度加えてAI教育プログラムの上位修了証取得や学会発表等で評価する特別奨学生制度(授業料半額免除)を新設した。この施策により従来進学をあきらめていた学生群から5名程度の内部進学者を確保する。

さらに、(III)社会人のリカレント・リスキリング教育の受入れ体制の充実や地域企業と連携した「高度AIコーオプ実践I~IV(企業・自治体との連携による地域課題解決型PBL)」を基に、研究テーマとして企業の実務的な課題に取り組むことを検討しており、企業における研究開発と大学院における研究を両立できる教育研究体制を計画している。この施策により社会人入学生も含め、将来的に数名程度の進学者を確保する。

次の表に、当該取組の種類およびその目標人数、見込み人数を示す。

大分類(ウ)	中分類(イ)	目標	見込み
I	(i) ~ (iii)、(v)	50人	20人
II	(iv)	10人	5人
III	(vi)	3人	1人

これらの(I)~(III)の取組を通して入学者数を20名以上確保する。

【資料15】本専攻(電子情報システム工学専攻)の大学院進学率

【資料16】文部科学省 令和5年度学校基本調査-卒業後の状況調査票(大学)-関係学科別 状況別 卒業数、および令和5年度学校基本調査-卒業後の状況調査票(大学)-関係学科別 進学者数 より抜粋

## ②競合校の状況分析(立地条件, 養成人材, 教育内容と方法の類似性と定員充足状況)

### ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析, 優位性

#### ○競合校の選定について

競合校は、私立大学であること、専攻の収容定員規模が20~40名であること、学問分野が電気通信工学関係であること、所在地が本学からの直線距離で約50km圏内であること、

基礎となる学部の学力層が類似していること（ベネッセ社マナビジョン偏差値情報に基づく）から、次の3校を選定した。

- （私立）福岡工業大学大学院 工学研究科 情報工学専攻
- （私立）福岡大学大学院 工学研究科 電子情報工学専攻
- （私立）崇城大学大学院 工学研究科 応用情報学専攻

### ○競合校との比較分析

次に、本専攻と競合校の専攻と比較を行い、本専攻の独自性や優位性を説明する。

教育内容においては、本学電子情報システム工学専攻はAI分野の副専攻プログラム「地域課題解決型高度AI教育」を競合校の中で唯一設けており、高度情報専門人材に相応しい教育を大学院生に提供できるようになっている。また、企業課題の解決に取り組むPBL科目群「高度AIコーオプ実践I～IV」を取り入れたカリキュラムも独自性がある。

入試や就職支援、取得できる資格には競合校間において大きな差異は無いものの、本学では副専攻プログラムの修了証を発行し教育の内部質保証を実施している点に独自性がある。

学生納付金については、見直しを行った結果、競合する他校と比較して数万円の差異であり、相対的に低い水準に設定されている。

奨学金制度については、新たに導入した学部時代の業績（AI教育プログラムの上位修了証取得や学会発表など）で評価し授業料を半額免除する特別奨学生も魅力ある内容となっている。さらに、有償コーオプ制度は、高度AIコーオプ実践I～IVにおいて、久留米市内の中小企業が行う新製品・新技術の開発に連携し、「久留米市ものづくり支援事業」における研究、要素技術の連携開発、新製品、新技術の実用化開発を企業と協働で行う場合、大学院生に人件費を支給する。この制度は、他大学大学院には見られない新しい経済支援の取組みとなっている。

### 【資料17】競合校の設定および比較

#### イ 競合校の入学志願動向等

本学電子情報システム工学専攻の競合と設定した大学院各専攻において、各大学が公表している令和5(2023)年5月1日時点の収容定員充足率【資料18】を参照すると、本専攻100%、福岡工業大学大学院工学研究科情報工学専攻200%、福岡大学大学院工学研究科電子情報工学専攻140%、崇城大学大学院工学研究科応用情報学専攻130%となっている。

また、入学定員充足率についても、本専攻100%、福岡工業大学大学院工学研究科情報工学専攻170%、福岡大学大学院工学研究科電子情報工学専攻140%、崇城大学大学院工学研究科応用情報学専攻90%となっている。

このように、電子情報システム工学専攻との競合が想定される近隣大学の理工系大学院では収容定員が充足している状況であり、我が国の理工系人材育成の施策や本学大学院の

教育研究内容および経済的支援の更なる充実等、本専攻においても 18 歳人口の減少期においても定員を充足できるものと考えている。

【資料 18】 競合校の令和 5 年 5 月 1 日時点の収容定員充足率

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）  
該当なし

エ 学生納付金等の金額設定の理由

大学・高専機能強化支援事業に選定された令和 5(2023)年度時点での電子情報システム工学専攻の学生納付金の額は、入学金 22 万円（本学卒業生は免除）、授業料等（授業料、実験・実習費、教育充実費）を 102 万円としており、大学院に係る費用は近隣大学の中で高い部類に属していた。学生確保見通しのアンケート調査においても、経済的な理由で進学を選択肢から除外する在学生が多いことが確認できた。そこで、優秀な本学卒業生とともに他大学からの入学者にもアピールでき、近隣大学との競争力を確保するべく令和 6 年度入学者から学生納付金の見直しを図った。

類似の大学院専攻を設置している私立大学（福岡工業大大学、福岡大学、崇城大学）の学生納付金の設定状況を参考にし、大学及び大学院運営の財務状況、完成年度の教育研究経費比率や教育活動支出依存率を検討した上で、人件費や教育研究、管理運営の経常経費を含む財務予測を考慮して、学生納付金の総額を近隣で最も低かった福岡工業大学と同程度とし、入学金 11 万円（本学卒業生は免除）、授業料等（授業料、実験・実習費、教育充実費、委託徴収費）を 84 万 6 千 750 円と設定した。これにより学生納付金は近隣の大学院と比較しても低い水準となっている。【資料 19】

【資料 19】 競合校の学生納付金額（各大学院ホームページより抜粋）

③先行事例分析

該当なし

④学生確保に関するアンケート調査

電子情報システム工学専攻において収容定員増（入学定員 20 名）の場合の学生が確保できる見通しについて、アンケート調査を行った。その結果は以下の通りである。

1) アンケート対象者

電子情報システム工学専攻の場合、学生確保の基礎となる対象は久留米工業大学工学部からの内部進学である。そこで、令和 7(2025)年度の大学院入学の対象となる工学部 3 年生

220名に対して、令和5(2023)年12月から令和6(2024)年1月にかけて実施した。また、将来的な学生確保の見通しを調査するために、社会人入学となる対象者として学部4年生51名および地域社会の社会人63名に対してアンケートを実施した。【資料20】

## 2) アンケート調査時期

令和5(2023)年12月～令和6(2024)年1月

## 3) アンケート方法

リーフレット【資料20(調査用リーフレット)】によりアンケートに必要な情報を示すとともに、アンケート調査票【資料20(調査票様式)】を紙媒体で配布し、回答を収集した。

## 4) アンケート調査の結果

### ①工学部3年生対象 調査結果

本調査では、定員増員年度に大学院入学対象となる工学部3年生へアンケート調査を実施し、220名の回答を得ることができた。調査票は全8問で構成されており、全て選択肢式とした。

大学卒業後の希望進路を問う設問(Q3、複数回答可)においては、今回の定員増員のターゲットとなる「情報ネットワーク工学科」で33.7%(31名)、「機械システム工学科」で21.4%(9名)が「大学院進学」を希望した(ほか、交通機械工学科5名、建築・設備工学科1名)。

「進学」を希望する全46名のうち興味ある学問分野を問う設問(Q5)では「情報ネットワーク工学科」で82.9%(29名)、「機械システム工学科」で57.1%(8名)が「電子情報分野」を選択した。電子情報システム工学専攻の特色について「とても魅力」「ある程度魅力」との回答は4項目が70%を超えており、そのうち2項目「独自の奨学金」「研究教育環境」は77%を超える結果となった。特色について肯定的な回答が多くを占め、入学意向を後押ししていると判断でき、今回の定員増員の分野は進学者のニーズに合致している。

次に、「大学院進学」希望者のうち、「工学系の研究科で電子情報システム分野」に興味があり「本学大学院」を「第一志望として受験」し合格すれば「入学する」と回答した人数をクロス集計により求めた結果、29名の入学意向者がおり、増員予定の定員数を上回る結果が得られた。これらの調査結果から、入学定員20名の学生確保の見通しを明確に得ることができた。

さらに、独自設定の質問として、本学大学院の独自の奨学金制度に該当した場合、入学するかどうかを尋ねたところ、「現時点で就職希望であっても奨学金に該当すれば入学する」と回答した学生が21名であり、経済的事由が解消すれば入学する学生が一定数いることを確認した。

### ②情報ネットワーク工学科4年生対象 調査結果

本調査では将来的に、リカレントやリスキリング教育の対象となる在職社会人を想定し、情報ネットワーク工学科4年生へアンケート調査を実施し、51名から回答を得ることができた。

興味のある分野を問う設問(Q3)で、「情報分野(電子・情報工学、AI・データサイエン

ス)」を 34.3% (45 名) が選択した。今回の定員増員をターゲットとする対象に調査実施できていると考えられる。

電子情報システム工学専攻の特色について「とても魅力」「ある程度魅力」との回答は 5 項目全て 80%を超えており、そのうち項目「AI・データサイエンス等の実践的教育」については 94%を超える結果となった。

リカレント教育を受ける場合、「大学院」と選択した 27 名のうち、33% (9 名) が本学を第一志望とする結果となり、社会人になってからも学びの場に本学を選択する意向は一定数あると考えられる。

久留米工業大学大学院工学研究科電子システム工学専攻の収容定員が増えた場合に受験を希望するかを問う設問 (Q6) では 32% (16 名) が「受験する」を選択した。そのうち 7 名 (43.8%) が「合格した場合、入学する」と回答していることから、定員増員を行っても社会人ニーズは一定数あるという結果となった。

進路に「就職」を選択している学生のうち、本学大学院の特色 (社会人コース等) を利用できる場合の入学意向を問う設問 (Q8) には 8 名 (15.7%) が「入学したい」と回答した。特色を生かし定員充足できる見込みがあると考えられる。

### ③社会人対象 調査結果

本調査では久留米工業大学地域連携推進協議会会員企業 51 社を対象に郵送アンケート調査を実施し、リカレント教育に興味があり新たに学びたい分野がある社会人 63 名から回答を得ることができた。

回答者の年齢および勤続年数を問う設問 (Q1) では「50 代男性」が 22.6% (14 名) と最も多く、勤続年数についても「31~40 年」が 19% (17 名) と 2 番目に多いことから、社会人として経験を積んだ 50 代が多くリカレント教育に興味を持っていると考えられる。次いで「20 代男性」19.4% (12 名) で勤続年数「10 年以下」27% (17 名) という結果から、転職等を意識する 20 代も多くリカレント教育に興味を持っていることが分かった。

回答者の居住地は久留米工業大学大学院の所在地である「福岡県」が 90% (56 名) で最も多く、勤務先は「情報通信業」が 24% (15 名) であった。また、興味のある学問分野を問う設問 (Q3) では 44.3% (複数回答、67 名) が「情報分野に興味を持つ」結果となり、久留米工業大学大学院工学研究科電子システム工学専攻の定員増員をターゲット層とする対象に調査実施できており、意見の聴取できていると考えられる。

電子情報システム工学専攻の特色について「とても魅力」「ある程度魅力」との回答は 5 項目全てが高評価であったが、その中でも「AI・データサイエンス等の実践的教育」は 98.4%を超える結果となり、次いで「社会人コース」が 88.9% (「とても魅力」が 38.1%) であった。特色に対して「全く魅力を感じない」との回答は 0 名であり、社会人に対して本学の魅力は訴求できていると考えられる。

久留米工業大学大学院工学研究科電子情報システム工学専攻の収容定員が増えた場合の受験希望と入学意向を問う設問 (Q6・7) では 29.3% (17 名) が「受験する」を選択した。

そのうち 10 名 (58.8%) が「合格した場合、入学する」と回答していることから、定員増員を行っても社会人ニーズは一定数あるという結果となった。

#### 【資料 2 0】 収容定員増に関する進学ニーズ調査 (学部生・社会人対象)

#### ⑤人材需要に関するアンケート調査等

電子情報システム工学専攻の収容定員増計画を進めるうえで、本専攻の養成する人材が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものとなっていることを検証するために、本学への求人企業や本学の地域連携推進協議会メンバーである企業等を対象として、本専攻で養成する人材の必要性や本専攻の修了生の採用意向に関するアンケート調査を実施した。その結果は以下の通りである。

##### 1) アンケート対象者

求人企業や本学の地域連携推進協議会メンバーである企業等の採用担当者

##### 2) アンケート調査時期

令和 5(2023)年 12 月～令和 6(2024)年 1 月

##### 3) アンケート方法

リーフレット【資料 21】によりアンケートに必要な情報を示すとともに、アンケート回答用紙【資料 21】を紙媒体で配布し、回答を郵送収集した。

##### 4) 企業対象 採用ニーズアンケート調査の結果

本調査では当該専攻の卒業生の就職先として想定される企業 116 社を対象に郵送アンケート調査を実施し、その関心度や想定する採用人数等の回答を得ることができた。

回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、選考に関わっている人は 92.3%であった。

このことから人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。

本社所在地は、久留米工業大学大学院の所在地である「福岡県」が 39%を占め、最も多い。業種としては「建設業」が 34%で最も多い。次いで「製造業」が 31%、「サービス業」が 14%である。回答企業の従業員数(正規社員)は「100～500 名」が 31.0%で最も多い。回答企業の平均的な新卒正規社員の採用人数は「1～5 名」が 23.1%で最も多い。

次いで「5～10 名未満」が 19.2%、「10～20 名未満」が 12.8%であり、毎年新卒正規社員を採用している企業が全体の 88.5%とほとんどである。

回答企業の本年度の新卒採用予定数は「昨年度並み」が 56.4%で最も多く、次いで「増やす」が 33.3%であり、回答企業の 89.7%が昨年と同等かそれ以上の採用が予定されている。

回答企業の採用したい学問分野を複数回答で聴取したところ「工学(機械・電気・環境・経営)」の割合が 35%と高かった。次いで「情報工学・AI・データサイエンス」が 23%と続き、採用ニーズは多いと判断できる。また、社会的必要性については 99.1%(116 社中、115

社)が「必要だと思う」と回答した。多くの企業からこれからの社会にとって必要な専攻であると評価されている結果であった。

「久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は115社中95社(82.6%)である。さらに、「採用したいと思う」と答えた95社へ卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか尋ねたところ、採用想定人数の合計は178名で、予定している増員定員数20名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることが伺える。

#### 【資料21】 収容定員増に関する採用ニーズ調査（企業対象）

#### （4）新設組織の定員設定の理由

本計画は九州における「数理・データサイエンス・AI」人材の量的・質的な充足のために、本学の学部、研究科が一体となって改革を行うものである。各省庁の調査や施策を踏まえ、高度情報人材は全国的に需要があり、本学を取り巻く地域社会においても需要が存在することを確認した。その需要規模においては、福岡県を中心に所在する企業等や本学への求人実績、および卒業生の採用実績がある企業等に対する採用意向調査から定量的なデータが得られた。また、九州地区の大学を卒業した者の大学院進学状況や中長期的な年齢別人口動向の調査、本学学部生に対する進学需要調査等から得られた定量的なデータに基づき検証を行い、進学・採用双方とも入学定員数や要請する人材像への需要を満たす結果が得られている。さらに、大学院の基礎となる学部の多様な教育改革の取組みと大学院の魅力向上策が功を奏し、電子情報システム工学専攻の収容定員の充足率が年々向上している。

文部科学省の令和5年度の「学校基本調査」によると、工学系大学の卒業生のうち、工学系大学院への進学率は38.47%である。これに対し、本学大学院への内部進学率は、2019年から2023年までの5年間で平均5.4%【資料15】となっており、進学率を向上させる余地は十分にある。特に、「AI活用演習選抜クラス」に参加した令和5年度の4年生では、大学院進学率が25.0%に達した。情報ネットワーク工学科は令和8年度に収容定員に係る学則変更の認可申請予定であり、入学定員110名を予定している。大学院進学も視野に入れた学科であることをアピールし、大学院進学率の向上を図る。

また、令和3(2021)年度の文部科学省委託調査「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」調査報告書【資料22】によると、全国の大学院の修士課程における工学分野の入学者数の分布をみると、51~100人の専攻が最も多く、ある程度の規模の専攻に学生が集まりやすい傾向にある。このような背景から、本専攻とその基礎となる学科、いずれの規模も拡大することが学生募集に有効であると判断した。

以上のことを踏まえ、教員組織、教育課程、施設・設備、および大学運営に係る財務的な視点等を勘案したうえで、教育の質を保証するために必要かつ充実した教育研究体制の確

保が可能となるよう配慮した結果、入学定員を 20 名、収容定員を 40 名と設定した。

【資料 22】株式会社リベルタス・コンサルティング「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」調査報告書 (p.96)

## 資料目次

資料目次.....	1
【資料1】株式会社野村総合研究所「データ駆動型社会の実現に向けた高度 ICT 人材に関する調査研究」－最終報告書－ 抜粋.....	2
【資料2】統合イノベーション戦略推進会議決定「AI 戦略2022」抜粋.....	3
【資料3】独立行政法人大学改革支援・学位授与機構「令和5年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」選定結果通知.....	4
【資料4】久留米工業大学「AI 活用演習選抜クラス」PBL テーマ一覧.....	5
【資料5】久留米工業大学「情報分野の技術相談件数」.....	6
【資料6】日本銀行福岡支店「九州における半導体関連産業の動向」および DIGITAL 朝日新聞記事（令和6（2024）年2月27日）.....	6
【資料7】日本私立学校振興・共済事業団 平成31（2019）年度から令和5（2023）年度までの「私立大学・短期大学等入学志願動向」による「区分ごとの動向（大学院）」における「理・工学系」より抜粋.....	9
【資料8】文部科学省 令和5年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（大学）－都道府県別状況別卒業業者数より抜粋.....	10
【資料9】文部科学省 令和3年度～令和5年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（高等学校）－都道府県別状況別卒業業者数、および令和5年度学校基本調査－学校調査票（高等学校）－学年別生徒数より抜粋.....	10
【資料10】文部科学省 令和5年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（高等学校）－都道府県別大学・短期大学等への進学者数より抜粋.....	11
【資料11】リクルート入試実態調査2022より抜粋.....	11
【資料12】総務省統計局 人口推計－年次－2022年－都道府県、年齢（5歳階級）、男女別人口－総人口、日本人人口（2022年10月1日現在）より抜粋.....	12
【資料13】文部科学省 令和5年度学校基本調査－出身高校の所在地県別入学者数より抜粋.....	12
【資料14】電子情報システム工学専攻の入学定員・収容定員の直近5年間の充足状況.....	13
【資料15】本専攻（電子情報システム工学専攻）の大学院進学率.....	13
【資料16】文部科学省 令和5年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（大学）－関係学科別 状況別 卒業数および令和5年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（大学）－関係学科別 進学者数より抜粋.....	13
【資料17】競合校の設定および比較.....	14
【資料18】競合校の令和5年5月1日時点の収容定員充足率.....	15
【資料19】競合校の学生納付金額（各大学院ホームページより抜粋）.....	15
【資料20】収容定員増に関する進学ニーズ調査（学部生・社会人対象）.....	16
調査用リーフレット.....	16
調査票様式.....	21
調査結果.....	25
【資料21】収容定員増に関する採用ニーズ調査（企業対象）.....	50
調査用リーフレット.....	50
調査票様式.....	55
調査結果.....	58
【資料22】株式会社リベルタス・コンサルティング 「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」調査報告書（P96）.....	69

## 【資料 1】株式会社野村総合研究所「データ駆動型社会の実現に向けた高度 ICT 人材に関する調査研究」－最終報告書－ 抜粋

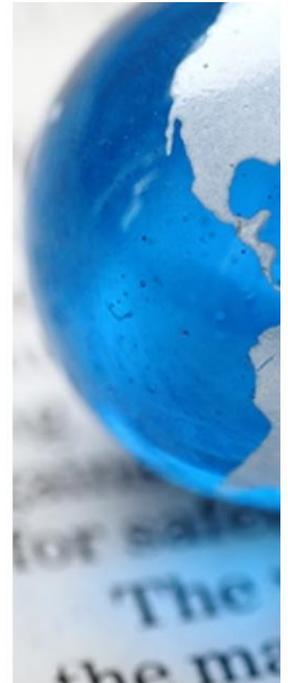
### データ駆動型社会の実現に向けた 高度ICT人材に関する調査研究 －最終報告書－

株式会社野村総合研究所  
コンサルティング事業本部  
DXコンサルティング部  
社会システムコンサルティング部

2021年3月

**NRI**

*Share the Next Values!*



#### 本調査の背景と目的

- 近年、IoT、ビッグデータ、ロボット、人工知能等による技術革新を背景とした第4次産業革命による産業構造の変化の進展や、第5世代移動通信システム（5G）による膨大なデータの収集により、データがより大きな価値を持つようになっている。
- これに伴い、情報科学、統計学等の知見を駆使したデータ分析により新たな価値の発見・創出を行う学問（以下「データサイエンス」という。）の重要性が増しているとともに、また、幅広い分野でのデータの利活用を見据えたりビングテストベッド構想も提唱されてきている。
- そのため、多くの企業においてデータサイエンスの知見を有する人材（以下「データサイエンティスト」という。）に対する需要が高まっており、その実践的な知見を企業活動等に反映させ、即戦力として活躍することが求められている。
- 一方、今後本格的な人口減少社会に突入する我が国において、国際競争力を強化し、持続可能な経済成長を実現する観点からも、各産業においてデータを有効活用し、データ駆動型社会の実現を図る必要がある。そのためにもデータサイエンティストの育成とその活用が必須であり、様々な取組が行われているところである。
- このような背景のもと、本請負では、企業等のデータサイエンティストの活用に関する需要、国内外のデータサイエンティストの育成に関する取組及び今後のデータ駆動型社会の一層の実現に向けて求められる大学等でのデータサイエンティストの育成の在り方について調査を行うものとする。

◆株式会社野村総合研究所 令和3年「データ駆動型社会の実現に向けた高度 ICT 人材に関する調査研究－最終報告書－」抜粋（P1）

[https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000758165.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000758165.pdf)

# AI戦略2022

令和4年4月22日  
統合イノベーション戦略推進会議決定

「AI戦略2022」では、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックや地殻変動などより明白になる多くのリスク要因などを反映し、従来のAI戦略の状況に適合した拡張を行った戦略方針を提示する。そして、AIの社会実装をさらに推進する。

## 第三部 社会実装の推進

### 1. 社会実装をめぐる背景

私たちの社会経済や国民生活において、AIの実装を進め、AIを効果的に利活用し、それによる利益を享受するためには、まずは今、社会的な常識と考えられている思い込みを捨てる必要がある。

## 第四部 「すべてにAI」を目指した着実な取組

第四部では、これまで着実に実施してきた戦略実施の成果を踏まえ、我が国のAI技術力とそれを支える人材を育成し、それを競争力の源泉としたAIネイティブな社会・産業構造を着実に構築する。その目標の実現に向けて、「教育改革」「研究開発体制の再構築」、「データ連携基盤整備」、「AI時代のデジタル・ガバメント」、「中小企業・ベンチャー企業への支援」そして「倫理」に関するそれぞれの取組を推進していく。

◆令和4年 統合イノベーション戦略推進会議決定「AI戦略2022」抜粋  
[https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/aistrategy2022\\_honbun.pdf](https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/aistrategy2022_honbun.pdf)

**【資料3】独立行政法人大学改革支援・学位授与機構「令和5年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」選定結果通知**

支学機構助第6号  
令和5年7月21日

学校法人久留米工業大学理事長 殿

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長  
福田 秀 樹

令和5年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）の選定結果について（通知）

さきに申請のありました標記事業について、大学・高専機能強化支援事業選定委員会における厳正な審査を踏まえ、申請のあった下記の大学に係る事業計画を選定することとしましたので通知します。

公募要領等に基づき、申請書に示した事業計画の確実な履行に努めてください。

また、申請のあった事業計画においては、当該委員会において特筆すべき内容と評価された点がありましたので、別添のとおりお知らせします。

なお、本通知は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構大学・高専成長分野転換支援基金助成金交付規則（令和5年4月13日規則第2号）第5条に基づく交付決定の通知ではないことを申し添えます。事業の着手は、交付決定又は交付内定日以後となりますので御注意ください。助成金の交付に係る手続については後日御連絡します。

記

久留米工業大学  
（申請区分：一般枠）

〈本件担当及び連絡先〉  
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構  
助成事業部助成課助成第2係  
E-mail : josei-jigyo-shien2@niad.ac.jp  
TEL : 03-4212-8228, 8229, 8230, 8231

◆独立行政法人大学改革支援・学位授与機構

令和5年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）の選定結果について

【資料4】久留米工業大学「AI活用演習選抜クラス」PBLテーマ一覧

テーマ	
令和3年度	1 知的障がいを持つ子供たちを支援する教育システムの開発
	2 ひろかわまち再発見!チャットボット版の開発
	3 久留米餅の等級判定
	4 美容室での顔認識受付アプリ
	5 きゅうり病気診断アプリ - Qcumber - の開発
	6 AIを用いた画像認識による作物と雑草の見分けする草刈り機の開発
令和4年度	1 ひろかわまち再発見 ~スタンプラリーアプリの開発 ~
	2 AIテクノロジーを利用した建設現場におけるリスクが高いジョブの監視
	3 対話型自動運転車椅子の学内運用 ~新たな機能の追加~
	4 AIを用いたRCコンクリートのひび割れ分類及び検出システム開発
	5 機械学習を用いたメンタルヘルス異常検知
	6 骨格認識を用いた障碍児の教育支援 ~学習者に寄り添った声かけの実現~
	7 いちごの仕分け作業でのAI活用
	8 AI×美容室 もう迷わない理想の髪型
	9 オープンデータを活用した八女茶の味の予測
	10 キュウリ育成支援アプリの開発
令和5年度	1 AIやARを用いた建築現場における危険予知活動の支援
	2 JAL整備本部/JALエンジニアリング『問い合わせChatbot』
	3 コンクリートのひび割れ予測 (ひび割れ幅・長さの自動計測)
	4 株式会社丸信の営業活動を支援するチャットボット開発
	5 人物の高精細切り抜きAI開発
	6 ロボつみの進化画像認識による新たな品種のイチゴに対する完熟度予測
	7 伝統工芸品 (陶磁器) のDX化~粘土生成と風鈴の分析~
	8 土づくりに着目したAI活用によるデジタル農業の推進
	9 AIを用いた八女茶の味予測
	10 収穫したキュウリの品質評価
	11 広川町スタンプラリーアプリの開発 (2)
	12 学習者に寄り添うAIメンターの実現と教育実践・評価
	13 人工知能解析を用いた下部消化管疾患の診断
	14 AI・センシング計測によるトレーニング効果の定量化

◆PBLテーマ一覧 (本学取り纏め)

【資料5】久留米工業大学「情報分野の技術相談件数」

	年度	技術相談件数	情報分野件数
1	2017年度	0件	0件
2	2018年度	3件	0件
3	2019年度	11件	0件
4	2020年度	19件	5件
5	2021年度	13件	2件
6	2022年度	18件	10件
7	2023年度	5件	11件

AI 応用研究所開設後  
増加

(2024.3.11 現在報告数)

◆本学に寄せられる情報分野の技術相談件数 (本学調べ)

【資料6】日本銀行福岡支店「九州における半導体関連産業の動向」およびDIGITAL 朝日新聞記事 (令和6 (2024) 年2月27日)

(1)

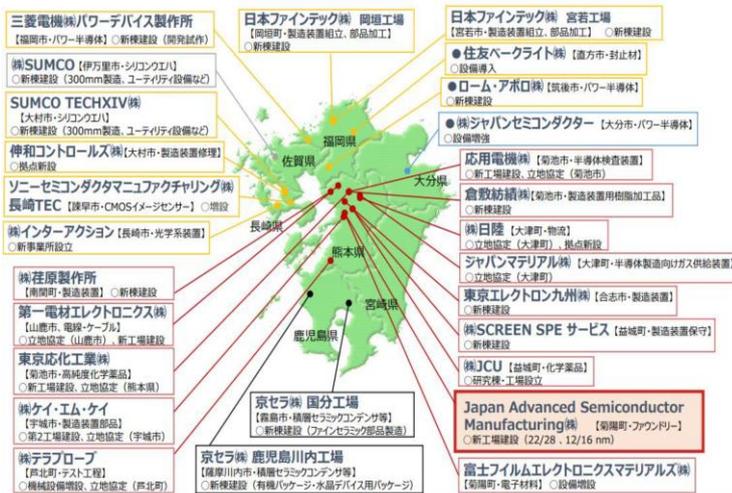


BOJ  
Reports & Research Papers

九州における半導体関連産業の動向  
～ オール九州で挑むシリコンアイランドの未来 ～

2023年3月20日  
日本銀行福岡支店

九州で計画・実施されている半導体関連の設備投資



熊本県へは世界的な  
半導体メーカーが進出

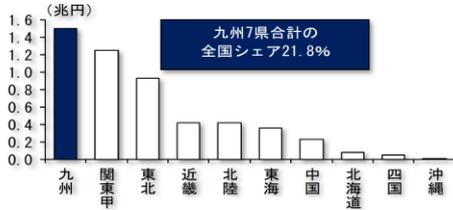
(出所) 九州経済産業局

## 1-2. 九州における半導体関連製造業のプレゼンス

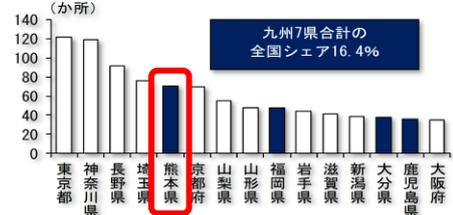
▶ 半導体関連製造業の出荷額等をみると、九州は全国シェアの約2割を占めており、「シリコンアイランド」と呼ばれている。

—— IC生産金額は全国の約4割、半導体製造装置は同2割弱と、高いシェアを誇る。

半導体関連製造業の製造品出荷額等（2019年）



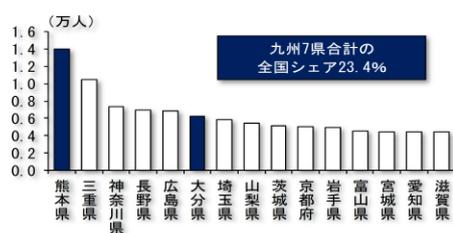
半導体関連製造業の事業所数（上位15県、2019年）



(注) 「半導体関連製造業」は集積回路製造業、半導体素子製造業、半導体メモリメディア製造業、半導体製造装置製造業の合計。集積回路製造業と半導体素子製造業は秘匿情報があったため秘匿情報箇所を除き足し上げて算出。右図（事業所数・従業員数）も同様。

(出所) 経済産業省「工業統計調査」

半導体関連製造業の従業員数（上位15県、2019年）



九州におけるIC等の生産金額

製品分類	生産金額 (億円)	
	生産金額	全国シェア (%)
IC	9,301	44.3
半導体製造装置	3,635	17.0

(注) 一定規模以上の全数調査のため、工業統計調査の数値とは異なる。ICは2022年実績、半導体製造装置は2021年実績。

(出所) 九州経済産業局「九州地域の鉱工業動向」、「シリコンアイランド九州の復活に向けて」

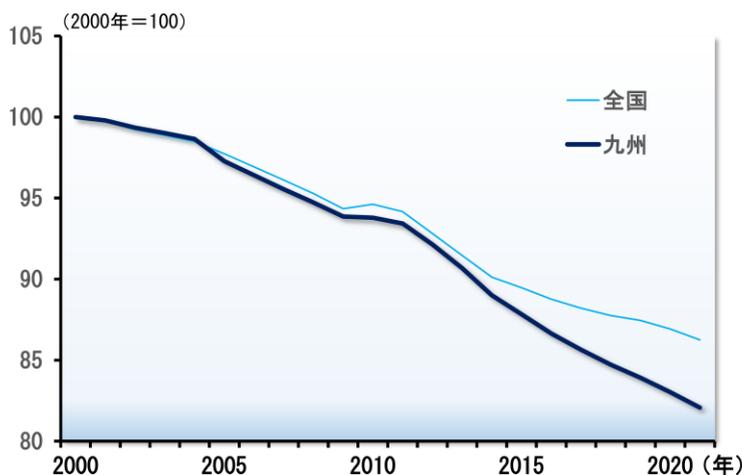
(出所) 経済産業省「工業統計調査」

5

## 3-3. 中長期的な発展に向けた課題：人材確保・育成

▶ 生産年齢人口の減少により、九州全体として労働力の不足が懸念されている中で、拡大する半導体関連分野への労働力の供給や、先端的な半導体技術を担う高度専門人材の育成が課題。

生産年齢人口



(出所) 総務省「人口推計」

### 【企業等からの声】

- ・若年人口の減少が続くもとで、人材の確保が一段と難しくなっている。学生等に半導体分野に関心をもってもらうような取り組みが必要である。
- ・専門性を有する人材や、エンジニアが不足している。人材育成の必要性が高まっている。
- ・半導体産業が高給で人材を獲得した結果、それ以外の産業に人材が回ってこないのではと不安。

◆日本銀行福岡支店 令和5年「九州における半導体関連産業の動向  
～オール九州で挑むシリコンアイランドの未来～」(P5、P10、P15)

<https://www3.boj.or.jp/fukuoka/topics/topics202303.pdf>

(2)

## 新卒7割が九州の外へ 半導体高度人材の不足深刻、調査で浮き彫りに

2/27(火) 22:50 配信  28  



朝日新聞  
DIGITAL



2023年春に卒業して半導体関連企業に就職した九州の高専生や理工系大学院修了者は7割前後が九州域外で職を得ていた——。九州全域で深刻な半導体人材不足の一端を示す調査結果が、27日に熊本市で開かれた「九州半導体人材育成等コンソーシアム」の第4回会合で報告された。

調査結果によると、九州の理工系の学校を23年春に卒業して半導体関連企業に就職した推計約2400人のうち、半数近くの約1100人が九州外で就職。高度人材ほど域外への流出が顕著な実態も示された。

高専生の67・5%、修士の64・9%が九州外の国内で就職。博士は77・9%が九州外で就職し、24・2%は海外で職を得た。一方、工業高校生は56・1%が県内で、九州内は72・4%。大学学部生も57・2%が九州内で就職していた。

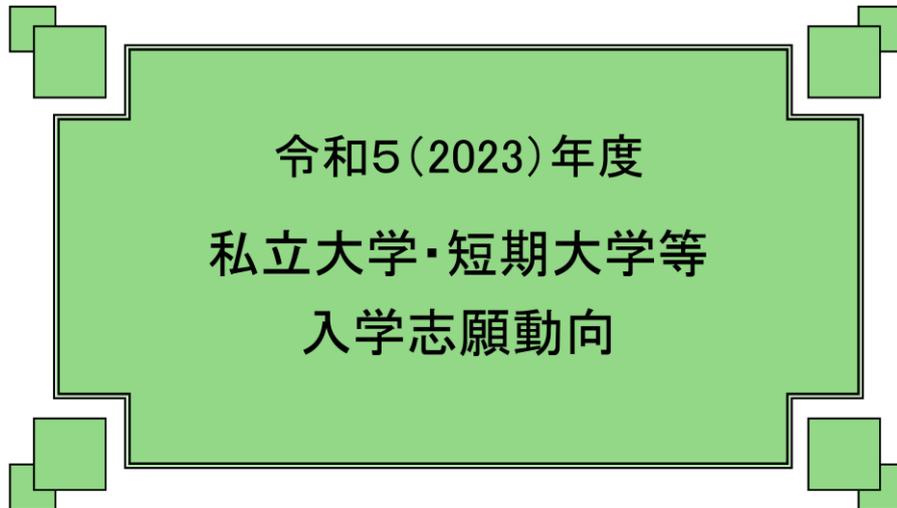
調査は九州で理工系教育を行う計166の教育機関を対象とし、105機関の回答から推計値を算出。22年度の企業側への調査では、九州では毎年約3400人の半導体人材が必要とされ、改めて人材供給不足が浮き彫りになった。

◆DIGITAL 朝日新聞 令和6年2月27日配信

九州半導体人材育成コンソーシアム 第4回会合

<https://news.yahoo.co.jp/articles/e5c15211158fb48f440ee7cece71c5257088f15b>

【資料 7】日本私立学校振興・共済事業団 平成 31（2019）年度から令和 5（2023）年度までの「私立大学・短期大学等入学志願動向」による「区分ごとの動向（大学院）」における「理・工学系」より抜粋



日本私立学校振興・共済事業団

	平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	平均
志願倍率	1.12	1.15	1.24	1.25	1.31	1.21
入学定員充足率 (%)	88.01	88.3	96.22	97.26	102.95	94.55



## Ⅹ 区分ごとの動向（大学院）

### 1. 研究科系統別の動向（大学院）

（1）修士課程及び博士前期課程、専門職学位課程

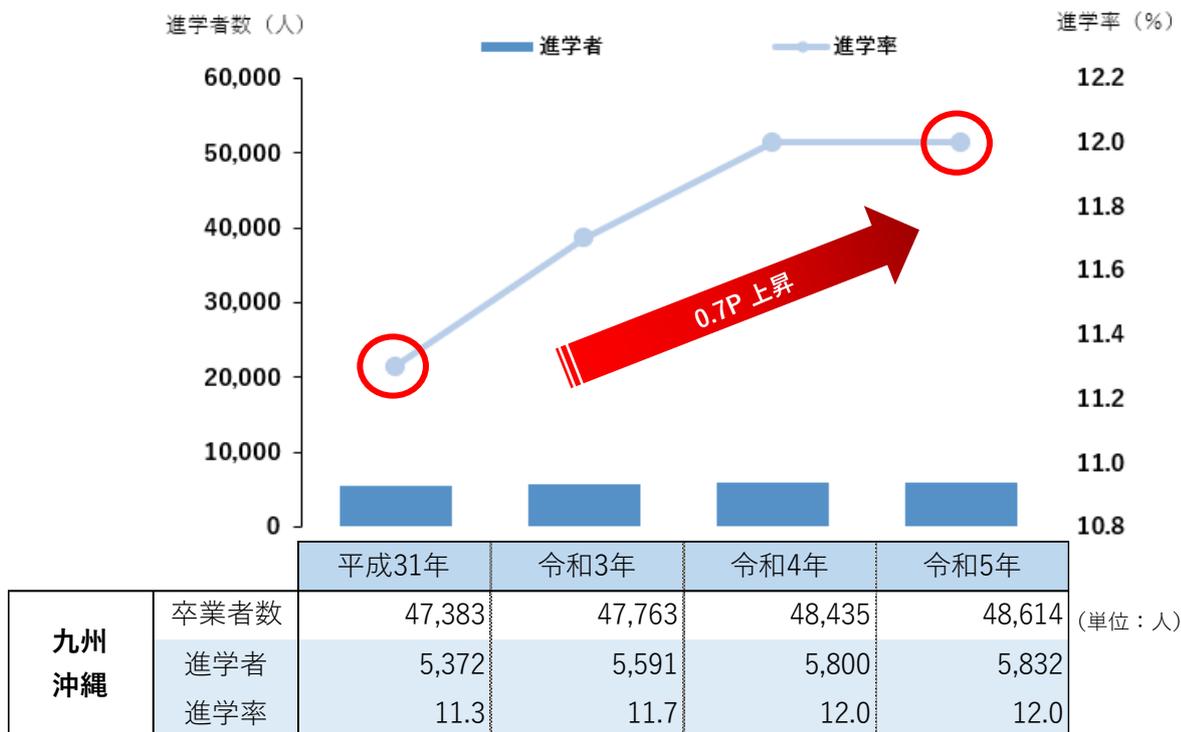
全研究科を『今日の私学財政』の系統区分と同様に区分した（研究科系統区分については、73ページを参照）。

区 分	年 度	集計 研究科数	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員 充足率 E/A
理・工学系	R4	136	13,411	16,702	16,190	14,252	13,043	1.25	88.03	91.52	97.26
	R5	132	12,875	16,807	16,331	14,494	13,255	1.31	88.75	91.45	102.95
	増減	△ 4	△ 536	105	141	242	212	0.06	0.72	△ 0.07	5.69

◆日本私立学校振興・共済事業団による平成 31(2019)年度から令和 5(2023)年度までの「私立大学・短期大学等入学志願動向」による「区分ごとの動向（大学院）」における「理・工学系」から抜粋

[https://www.shigaku.go.jp/s\\_center\\_d\\_shigandoukou.htm](https://www.shigaku.go.jp/s_center_d_shigandoukou.htm)

**【資料 8】 文部科学省 令和 5 年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（大学）－都道府県別状況別卒業生数より抜粋**



◆文部科学省 令和 5 年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（大学）－都道府県別状況別卒業生数より抜粋  
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528>

**【資料 9】 文部科学省 令和 3 年度～令和 5 年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（高等学校）－都道府県別状況別卒業生数、および令和 5 年度学校基本調査－学校調査票（高等学校）－学年別生徒数より抜粋**

(単位：人)

地区	大学進学年度	令和 5 年度	大学進学者数
九州沖縄	令和 3 年度大学進学	学部 3 年生	59,370
	令和 4 年度大学進学	学部 2 年生	60,333
	令和 5 年度大学進学	学部 1 年生	60,197
九州沖縄・山口		高等学校 3 年生	生徒数
			123,471

◆文部科学省 令和 3 年度 令和 4 年度 令和 5 年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（高等学校）－都道府県別状況別卒業生数、および令和 5 年度学校基本調査－学校調査票（高等学校）－学年別生徒数より抜粋  
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528>

**【資料 10】 文部科学省 令和 5 年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（高等学校）－都道府県別大学・短期大学等への進学者数より抜粋**

(単位：人)

年度	地区	大学進学者数		
		卒業生数	進学者数	進学率
令和 5 年度大学進学	九州沖縄	116,503	60,197	51.7%

今後、大学院受験対象者数が大きく減少することはない

◆文部科学省 令和 5 年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（高等学校）－都道府県別大学・短期大学等への進学者数より抜粋

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528>

**【資料 11】 リクルート入試実態調査 2022 より抜粋**

■都道府県別 系統別 設置数一覧  
※単独分野・複合分野 延べ数 (複合分野=複数の分野がある学科)

学科系統(分野)	全国				九州・沖縄												
	学科数	定員数	志願者数	志願倍率	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	学科数	定員数	志願者数	志願倍率	
工学・ 建築・ 技術	173	17,869	182,747	10.23	8	0	0	2	2	0	2	1	15	1,280	6,662	5.20	
航空・船舶・自動車工学	35	2,485	14,702	5.92	2	0	0	1	1	0	1	0	5	80	481	6.01	
システム・制御工学	144	11,892	114,137	9.60	8	0	1	0	1	0	2	0	12	781	5,934	7.60	
情報工学	238	22,145	271,884	12.28	10	0	4	4	2	0	2	0	22	2,245	16,198	7.22	
通信工学	47	4,404	59,170	13.44	1	0	0	0	0	0	0	0	1	74	1,122	15.16	
電気工学	102	11,609	109,575	9.44	5	0	0	1	2	0	1	0	9	1,089	6,741	6.19	
電子工学	126	11,696	125,318	10.71	4	0	0	1	0	0	2	0	7	899	7,361	8.19	
画像・音響工学	30	2,103	25,199	11.98	1	0	0	0	1	0	0	0	2	337	1,350	4.01	
建築学	125	10,543	119,978	11.38	10	0	0	2	1	0	2	0	15	888	7,461	8.40	
土木工学	39	3,610	20,374	5.64	2	0	0	1	0	0	1	0	4	603	2,310	3.83	
環境工学	122	8,854	76,888	8.68	4	0	0	0	0	1	1	0	6	397	2,219	5.59	
応用物理学	33	2,586	18,127	7.01	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	—	
応用化学	93	8,231	78,059	9.48	6	0	0	2	1	0	1	0	10	964	5,194	5.39	
材料工学	48	3,986	29,021	7.28	3	0	0	1	0	0	0	0	4	126	312	2.48	
経営工学	26	2,445	28,053	11.47	0	0	0	0	1	0	0	1	2	115	295	2.57	
計	1,381	124,458	1,273,232	10.23	65	0	5	15	12	1	15	2	115	9,878	63,640	6.44	
分野内 複合	426	34,796	348,390	10.01	24	0	2	6	2	0	2	0	36	2,686	24,130	8.98	
(単科) 合計	955	89,662	924,842	10.31	41	0	3	9	10	1	13	2	79	7,192	39,510	5.49	

(単位：人)

学科系統 (分野)	全国	九州・沖縄		
	志願者倍率	定員数	志願者数	志願倍率
システム・制御工学	9.60	781	5,934	7.60
情報工学	12.28	2,245	16,198	7.22
通信工学	13.44	74	1,122	15.16
電気工学	9.44	1,089	6,741	6.19
電子工学	10.71	899	7,361	8.19
工学分野計		5,088	37,356	

工学分野抜粋

当該分野における志願者数は、今後上昇する余地が十分ある

◆リクルート入試実態調査 2022 より抜粋

[https://souken.shingakunet.com/research/pdf/2022\\_gakumonbunyabetsu\\_nishi.pdf](https://souken.shingakunet.com/research/pdf/2022_gakumonbunyabetsu_nishi.pdf)

【資料 12】総務省統計局 人口推計－年次－2022 年－都道府県、年齢（5 歳階級）、男女別人口－総人口、日本人人口（2022 年 10 月 1 日現在）より抜粋

（単位：千人）

地区	19～15歳			14～10歳		
	人数	うち男	うち女	人数	うち男	うち女
九州沖縄	<b>654</b>	335	319	<b>669</b>	344	328
〈参考〉全国	5,512	2,830	2,682	5,308	2,720	2,588

大学院受験対象者が急激に減少することはない

◆総務省統計局 人口推計－年次－2022 年－都道府県、年齢（5 歳階級）、男女別人口－総人口、日本人人口（2022 年 10 月 1 日現在）より抜粋

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00200524&tstat=000000090001>

【資料 13】文部科学省 令和 5 年度学校基本調査－出身高校の所在地県別入学者数より抜粋

（単位：人）

都道府県名	人数	構成比
1 福岡県	15,028	57.7%
2 佐賀県	1,362	5.2%
3 熊本県	1,248	4.8%
4 長崎県	1,067	4.1%
5 鹿児島県	1,004	3.9%
他県	6,346	24.3%
全 体	26,055	100.0%

75.7%

◆文部科学省 令和 5 年度学校基本調査－出身高校の所在地県別入学者数より抜粋

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528>

### 【資料 14】 電子情報システム工学専攻の入学定員・収容定員の直近5年間の充足状況

(単位：人)

	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入学定員	5	5	5	5	5	10
入学者数	4	1	6	5	5	11
入学定員充足率	80%	20%	120%	100%	100%	110%
収容定員	10	10	10	10	10	15
在学生数	6	5	7	11	10	16
収容定員充足率	60%	50%	70%	110%	100%	107%

年々上昇

◆電子情報システム工学専攻の入学定員・収容定員の直近5年間の充足状況（本学調べ）

### 【資料 15】 本専攻（電子情報システム工学専攻）の大学院進学率

(単位：人)

	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
大学院入学者数	15	※16	※17	8	17
⇒うち電子情報システム工学専攻入学者数	4	1	6	5	5
⇒うち情報ネットワーク工学科からの入学者数	4	1	5	5	5
情報ネットワーク工学科からの進学率	6.3%	1.4%	7.9%	6.8%	4.7%

※外部からの進学1名を含む

進学率平均
5.4%

30%以上乖離

◆本専攻の大学院進学率（本学調べ）

今後上昇する余地が十分ある

### 【資料 16】 文部科学省 令和5年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（大学）－関係学科別 状況別 卒業数および令和5年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（大学）－関係学科別 進学者数より抜粋

(単位：人)

令和5年3月	人数	進学率
大学卒業生数	590,162	
⇒うち工学系	87,851	
⇒うち工学系大学院進学	33,792	38.47%

◆文部科学省 令和5年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（大学）－関係学科別 状況別 卒業数  
および令和5年度学校基本調査－卒業後の状況調査票（大学）－関係学科別 進学者数より抜粋  
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528>

## 【資料17】競合校の設定および比較

### ① 競合校設定

(単位：人)

	収容定員	学部偏差値	本学からの距離
本専攻	20	44	
私立) 福岡工業大学大学院 工学研究科 情報工学専攻	16	49	約48Km
私立) 福岡大学大学院 工学研究科 電子情報工学専攻	20	52	約35Km
私立) 崇城大学大学院 工学研究科 応用情報学専攻	20	52	約50Km

### ② 比較

	私立) 久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻	私立) 福岡工業大学大学院 工学研究科 情報工学専攻	私立) 福岡大学大学院 工学研究科 電子情報工学専攻	私立) 崇城大学大学院 工学研究科 応用情報学専攻
教育内容と方法	IT産業を支える人材を育成すべく、充実した教授陣と体系的な実践教育プログラムによる個別指導で実力養成を行っている。個々の学生のニーズと産業界のニーズをマッチングさせ、資格取得の指導や技術訓練を行ってIT技術のスキルアップを図る。また幅広い視野と学力を身につけるための応用数学・応用物理学などの工学基礎教育や、実務に役立つ英語教育も実施。 副専攻プログラムを設置し、修了証発行を行っている。また、PBL科目を取り入れたカリキュラムなどの特色がある。	今日の高次元情報化社会を技術的側面から支えるコンピュータ科学とソフトウェア工学に関連した分野について教授。 (1) 知能情報工学では人工知能と知能情報処理 (2) 知能システム工学では知識のコンピュータモデル化と新しい時代の集積回路 (3) メディア情報工学ではコンピュータ画像処理と情報メディア機器 (4) ソフトウェア工学ではソフトウェアの開発と利用の方法などを講義している。	集積回路、通信システム、オプトエレクトロニクス、計算機システム、情報アーキテクチャー、知能工学、情報システム開発工学、メディア工学の8分野で構成され、各分野の専任教員が半導体工学、電子回路工学、デジタル通信工学、オプトエレクトロニクス、計算機工学、ロボティクス、自然言語処理、音声・画像処理、システム・ソフトウェア工学の教育・研究を行っている。本専攻では、エレクトロニクス、通信および情報を中心に進められている技術革新を担っていくことができる高度な知識と研究能力を有する人材の育成を目指している。	情報システム、ソフトウェアサイエンス、メディア情報処理、電子制御エレクトロニクス、情報環境エネルギーの5つの分野を設定し、充実した教育研究体制を築いている。高度情報化社会を支える情報通信技術分野および電気・電子工学を基盤においたエネルギー環境分野の幅広い知識と技術を備えた高度専門技術者の育成を目指している。
入試	1次 10月 2次 2月	9月 2月	9月 2月	9月 2月
入学手続き	1次 10月 2次 3月	12月 3月	10月 3月	12月 3月
修学支援	奨学金 公的 ・日本学生支援機構奨学金制度 ・地方自治体・民間団体奨学金 ・外国人留学生学習奨励費 独自 ・特別奨学生	奨学金 ・日本学生支援機構奨学金制度 ・地方自治体・民間団体奨学金 ・外国人留学生学習奨励費 ・学業優秀者奨励金支給制度 ・学業特別奨学生制度 ・経済的事由による特別奨学金 ・私費外国人留学生に対する授業料減免措置	奨学金 ・日本学生支援機構奨学金制度 ・地方自治体・民間団体奨学金 ・海外留学給費奨学金 ・私費外国人留学生給付奨学金 ・予約型授業料減免	奨学金 ・日本学生支援機構奨学金制度 ・地方自治体・民間団体奨学金 ・待学生制度 ・卒業生減免制度 ・兄弟姉妹同時在籍減免制度
他	・TA制度 ・資格取得補助制度 ・資格取得支援制度 ・就職活動交通費支援制度	・学業発表等執筆補助制度 ・同窓会、学生修学支援制度 ・TA制度 ・長期履修制度 ・大学院科目等履修生制度	・海外研究発表支援 ・TA制度 ・長期履修制度 ・既修得単位認定制度	
ディプロマポリシー	1) 電子・情報工学分野における高度な専門知識と問題・課題発見能力および解決能力を身に付けている。 2) 研究者や技術者に必要な倫理観と国際性を備え、協働して社会の課題に取り組める。 3) 論理的な記述、プレゼンテーション、コミュニケーションによりチームで仕事ができる。 4) 電子・情報工学分野においてリーダーシップを取り、指導的役割を担える。	それぞれが専攻する分野の講義あるいは演習を受講して学習するとともに、工学技術の進歩、また学術研究を通して社会に貢献出来る有意義な研究を遂げる。その成果を学術雑誌に公表する、あるいは学術講演会等で発表を行う等の成果の公表が求められる。その上で、工学および情報工学各専攻の教育課程を修了した者には、修士(工学)の学位を授与。	1) 専修する専門分野に関する知識と技術について、社会で果たす役割も含めて説明することができる。 2) 課題解決のために必要な手段を計画し着実に実施することができる。 3) 研究結果を論理的に考察・精査することができる。 4) 研究成果を他者に説明し、異なる考えを持つ者との間で建設的な意見交換ができる。 5) 研究論理について説明できる。 6) 広い視野で研究に取り組む意欲を持っている。	所定の期間を学んで、カリキュラム・ポリシーに沿った教育プログラムの定める授業科目を履修し、基準となる単位数以上を修得するとともに、学位論文の審査及び試験に合格したものに博士(工学)の学位を授与。
取得学位	修士(工学)	修士(工学)	修士(工学)	学士(工学)
その他	・長期履修制度 ・本学学部4年生対象 大学院科目等履修生制度	【社会人】 ・昼夜開講制度 ・他大学院科目履修単位互換 ・既修得単位認定制度 ・長期履修制度	【社会人】 ・長期履修制度 ・既修得単位認定制度 ・昼夜開講なし	※博士(後期)課程のみ社会人の入学者に対する特別な配慮を実施

### ◆競合校情報（各大学院ホームページより抜粋）

### 【資料 18】 競合校の令和 5 年 5 月 1 日時点の収容定員充足率

(単位：人)

	入学者数	入学定員	入学定員 充足率	在学生数	収容定員	収容定員 充足率
本専攻	5	5	<b>100%</b>	10	10	<b>100%</b>
私立) 福岡工業大学大学院 工学研究科 情報工学専攻	17	10	<b>170%</b>	40	20	<b>200%</b>
私立) 福岡大学大学院 工学研究科 電子情報工学専攻	14	10	<b>140%</b>	28	20	<b>140%</b>
私立) 崇城大学大学院 工学研究科 応用情報学専攻	9	10	<b>90%</b>	26	20	<b>130%</b>

◆競合校の令和 5 年 5 月 1 日時点の収容定員充足率 (各大学院ホームページより抜粋)

### 【資料 19】 競合校の学生納付金額 (各大学院ホームページより抜粋)

(単位：円)

		入学金	授業料等 (年間)	年間納付金
本専攻	他大学卒業・他大学院修了	110,000	846,750	956,750
	本学卒業生		846,750	846,750
私立) 福岡工業大学大学院 工学研究科	他大学卒業・他大学院修了	150,000	812,000	962,000
	本学卒業生		812,000	812,000
私立) 福岡大学大学院 工学研究科	他大学卒業・他大学院修了	120,000	788,100	908,100
	本学卒業生	120,000	773,000	893,000
私立) 崇城大学大学院 工学研究科	他大学卒業・他大学院修了	220,000	800,000	1,020,000
	本学卒業生	220,000	800,000	1,020,000

近隣大学院と比較しても低水準

◆競合校の学生納付金額 (各大学院ホームページより抜粋)

# 久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻

収容定員変更届出予定

学位名:修士(工学) 入学定員 20名 令和7年4月入学定員変更

このリーフレットに記載されている電子情報システム工学専攻に関する事項は全て予定であり、内容が変更になる可能性があります。

## 1. 設置の理念

本学は、昭和41(1966)年の建学以来、「人間味豊かな産業人の育成」を建学の精神として掲げています。建学の精神を実現するために「知・情・意」、すなわち「知を磨き、情を育み、意を鍛える」ことを教育の基本理念としています。

特に、本学大学院は、「学部における一般的並びに専門的な学識経験の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うこと」を目的としています。

## 2. 電子情報システム工学専攻の養成する人材像

電子回路・知能制御工学、情報・計算機システム工学に関わる研究、開発、設計及び生産技術などに対応できる高度電子情報専門技術者を育成します。ディプロマ・ポリシー（修士の学位授与方針）は、(1)電子・情報工学分野における高度な専門知識と問題・課題発見能力および解決能力を身に付けている。(2)研究者や技術者に必要な倫理観と国際性を備え、協働して社会の課題に取り組める。(3)論理的な記述、プレゼンテーション、コミュニケーションによりチームで仕事ができる。(4)電子・情報工学分野においてリーダーシップを取り、指導的役割を担える、となっています。

## 3. アドミッションポリシー

久留米工業大学は「人間味豊かな産業人の育成」を建学の精神とし、これに基づいて「知・情・意の調和のとれた実践的教育を行う」としています。本学大学院では、学部における一般的並びに専門的な学力を持つ人に、広い視野に立って深い学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度な能力を養うことを目的としています。本学大学院は、ものづくりに強い興味を持ち、さらに高度の技術力を身につけて、社会において活躍したいという強い意志を持った人を求めています。

電子情報システム工学専攻では、電子・情報工学の分野における基礎的な専門知識および技術者として必要な倫理観、コミュニケーション能力を持つ人に、更に広い視点に立って深い学識を授け、電子回路、知能制御工学、情報・計算機システム工学に関わる研究、開発、設計および生産技術などに対応できる高度の専門能力を身につけた電子情報専門技術者を育成することを目的としています。そのため本専攻では、電子・情報工学の分野に興味を持ち、この分野の高度な専門知識を身につけて、将来の情報化社会を担いたいという意欲のある人を求めています。

### 求める学生像

- ものづくりに強い興味を持ち、新技術を開拓しようとする意欲のある人
- 高度の専門知識を身につけ、将来工学の分野で社会に貢献しようとする人

・ 広範な工学や理学の知識を身につけ、技術者や研究者として活躍したいと意欲のある人

#### 求める資質

- ・ 工学の分野で十分な基礎的・専門的知識を身につけ、さらに高度の専門知識を修得しようとする人
- ・ 高度にして専門的な研究にあたり、高い研究意欲を有する人
- ・ 自らの考えを理論的に表現できること

#### 入学者選抜の基本方針

##### ・ AO 入学試験

学部の成績を評価します。面接において、自己表現力を重視します。卒業研究内容についてのプレゼンテーション能力を評価します。

##### ・ 推薦入学試験

学部の成績を評価します。学部での研究内容の継続性を考慮し、学科長および卒業研究指導教員の推薦を重視します。面接において、自己表現力を重視します。

##### ・ 一般入学試験

専門知識および基礎的英語力を評価します。面接において、自己表現力を重視した評価をします。

##### ・ 社会人特別選抜入学試験

これまでの社会経験に基づく自己表現力を重視した評価を行います。学習・研究に対する意欲・能力を重視した評価を行います。コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を評価します。

##### ・ 外国人留学生入学試験

日本語能力およびコミュニケーション能力を評価します。専門的な学習・研究に対する意欲を評価します。自己表現力を重視した評価を行います。

## 4. 設置場所・アクセス

本学は、九州自動車道(久留米IC~広川IC間)・国道3号線沿いに立地しています。大学駐車場を利用できるため自家用車での通学も可能です。

所在地: 〒830-0052 福岡県久留米市上津町 2228-66

- JR久留米駅より西鉄バスで約30分
- 西鉄天神大牟田線久留米駅より西鉄バスで約20分
- 九州自動車道広川インターより/車で5分



## 5. 学生納付金(授業料等) 令和6年4月1日~

- 入学金 110,000円 (本学卒業生は免除されます。)
- 年間学納金等 総額 846,750円 (内訳は次頁 表1をご参照ください。)

なお、学生納付金は、長期履修制度を利用する場合、3年または4年で分納可能です。

表1 年間学納金内訳

	授業料	教育充実費	実験実習費	委託徴収費(注)	計
前期	300,000円	50,000円	60,000円	11,750円	421,750円
後期	300,000円	50,000円	60,000円	15,000円	425,000円

(注) 後援会費や学生教育研究災害傷害保険料の委託徴収費(年次、期により金額が異なる)は、学納金と併せて徴収します。

## 6. 本学独自の奨学金制度

- 在学生向け奨学金：3年次終了時点の当該学科での成績(GPA評価)に応じて給付します。

GPA 上位 5%以内	第1種特別奨学生。授業料 70%給付
GPA 上位 15%以内	第2種特別奨学生。授業料 30%給付

- 3年次編入生向け：3年次の修得単位および成績に応じて給付します。

3年次の修得単位	秀・優の単位が40単位以上	第1種特別奨学生。授業料70%給付	1名
45単位以上でかつ	秀・優の単位が36単位以上	第2種特別奨学生。授業料30%給付	1名

- 在学生向けの新たな奨学金制度(予定)

GPA2.5以上かつAI教育プログラムでの実績や大学院入試選抜等の総合評価点が一定以上の学生に授業料50%相当額を給付します(20名まで)。第2種特別奨学生にも該当する場合は、こちらの奨学金を適用します。

## 7. 競合する他大学の大学院

あなたが電子・情報工学分野を学ぶうえで、他大学大学院としては次のものが挙げられます。

- 国立) 佐賀大学大学院 工学系研究科 知能情報システム学専攻・電気電子工学専攻
- 私立) 福岡工業大学大学院 工学研究科 情報工学専攻・情報通信工学専攻・情報システム工学専攻
- 私立) 福岡大学大学院 工学研究科 電子情報工学専攻
- 私立) 崇城大学大学院 工学研究科 応用情報学専攻

## 8. 電子情報システム工学専攻の授業科目の紹介

大学院の授業をいくつか紹介します。また、これ以外にも修士研究論文のためのセミナーがあります。

授業科目	内容
地域課題解決型 高度 AI 教育プログラム特別講義	実務経験を有する学外専門家・学術有識者を招聘し、様々な分野における AI・数理・データサイエンスなどの高度先端技術を応用した課題解決例について紹介する。幅広い分野(ロボット、Salesforce、経営・ビジネス、スポーツ解析、IoT エコシステム、CG・ゲームなど)での課題解決に活用される高度な技術、様々な角度から数理・データサイエンス・AIを生かす視点を修得する。
高度 AI コーオプ実践 I~IV	久留米市内外の中小企業が行う新製品・新技術の開発に連携し、地域企業の課題発見、課題解決に取り組みながら、AI・数理・データサイエンスの最先端技術について実践的に学ぶ。

別添資料 アンケート調査用リーフレット 2023年11月発行

データサイエンス特論	データサイエンスの中でも特に機械学習について、プログラムを実装しつつ、特微量の作成の仕方、モデルの作成方法、チューニングについて理解を深める。最終的には作成したモデルの評価も受講者自身で行えるような知識を修得する。
生体システム工学特論	センサ工学を基本として、人間の五感とそれに対応したセンサの構造、応用について学ぶ。五感は、人間が外界から情報を得る重要な入力装置であり優れたセンサである。五感とセンサの関係性を学び、様々な応用を検討する。
計算機システム工学特論 I	Unreal Engine 5 を用いて、C++ 等による高速・高精度でのソフトウェア・コンテンツ構築法を学ぶ。その後、応用として高精細デジタルヒューマンの生成とコントロールについて学び、最後にグループ演習としてゲーム制作・発表を行う。
情報システム工学特論 II	画像生成 AI や VR による感覚誘発の 2 つのトピックスについて研究論文を参考に学ぶ。生成 AI では、アーキテクチャの理解や実装を行う。VR では、応用の事例と人間の心理や感覚の定量化に対する手法について理解を深める。

## 9. 電子情報システム工学専攻の特色

### AI・データサイエンスをはじめとする実践的な教育

- 副専攻プログラム「地域課題解決型高度 AI 教育プログラム」を設けています。データサイエンス・AI・統計分析・ビッグデータ応用に関する講義が用意されています。また、本プログラムの修了証を授与します。
- 地域課題解決型 PBL により、企業とともに AI を用いた実践的な課題解決に取り組めます。
- 企業の方々による AI 導入事例の講義があり、それらを学ぶことができ、業務に応用できます。
- 電子・情報工学分野の教員だけでなく、数学・理学の教員、実務家教員など、多様な専門性を有する教員から学び、研究指導を受けることができます。

### 充実した研究教育環境

- 令和 7 年度に完成予定の新棟に電子情報システム工学専攻大学院生専用スペースが設置予定です。そこには最先端の教育システム等が導入され、自由に活用できる環境で研究・学修が可能です。
- 大学院生一人ひとりに高性能ノート PC を貸与します。

### 在学生向けの特色

- 大学院科目履修制度を利用し、学部 4 年次に大学院の科目を無料で受講できます。大学院での研究時間の確保がしやすくなり、その結果、学会発表や研究業績の増加やそれに伴う奨学金返還免除（令和 6 年度より学部生の修士課程進学者にむけた返還免除内定制度にも対応予定）も見込めます。
- 有償コーオプ制度（項目 11）を利用することで、有償で高度コーオプ実践科目に取り組むことができます。つまり、授業を受けながら人件費を受け取ることができます。（一定の条件が必要）

### 卒業生・社会人向けの特色

- 社会人コース（項目 10）を用意しています。土曜日は演習科目の受講や指導教員の研究指導を受けられ、在職しながら修士号を取得することができます。
- 全国でも唯一の MDASH リテラシープラス・応用基礎プラスの W 認定の私立大学（2023 年度時点）です。AI を学んでいなくとも、学部の授業も無償で受講できるため、基礎から応用まで学べます。

## 10. 大学院社会人コースについて

在職のまま入学を希望する者に対する教育制度です。原則、職場等の所属長の推薦が必要となります。  
※就職先が内定している学部4年生が在職のまま入学し本制度を利用する場合、大学院受験前に必ず内定先企業の承諾を得てください。内定先企業の承諾を得ていない場合、本コースは利用できません。

本コースでは、下記の特徴があります。

- 論文指導教員及び専攻の承認のもと、修士課程修了に必要な単位修得のための履修計画を柔軟に運用でき、標準年限（2年）以上（最長在学年数4年）にわたる修士の学位取得を可能としております。
- 論文指導教員の承認のもと、修士論文に相当する内容であれば企業等における研究も修士論文テーマとして認め、学外（勤務先の設備等を利用）でも研究を行うことができます。
- 講義を原則オンデマンドで提供し、土曜日は演習科目の受講や指導教員の研究指導を受けることができます。

## 11. 有償コーオプ制度について

高度 AI コーオプ実践 I・II・III・IVにおいて、久留米市内の中小企業が行う新製品・新技術の開発に連携し、「久留米市ものづくり支援事業」における研究、要素技術の連携開発、新製品、新技術の実用化開発を企業と協働で行う場合、大学院生に人件費を支給します。実践的に学びながらアルバイト代を得られるような仕組みです。

## 12. 進路・就職先

企業の開発部門への就職や他大学大学院博士後期課程への進学が考えられます。近年の実績は次の通りです。  
企業：ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社、株式会社バンダイナムコエンターテインメント、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社、株式会社 sumco、ディップ株式会社、ヤマトシステム開発株式会社 等  
博士後期課程：九州大学 大学院芸術工学研究府 博士後期課程、佐賀大学 大学院工学系研究科 博士後期課程

## 13. お問い合わせ先

アンケート調査について：総務課 TEL：0942-22-2345

入試制度や奨学金について：入試課 TEL：0942-65-3488

----- リーフレットは以上です。ご閲覧ありがとうございました。 -----

調査票様式

在学生向け

久留米工業大学大学院 工学研究科

電子情報システム工学専攻(収容定員変更届出予定)に関するアンケート

久留米工業大学では、2025年(令和7年)4月より、大学院「電子情報システム工学専攻」の入学定員を20名に増員することを構想しています。このアンケートは、大学院進学に対する学生の皆さんの考え方をお伺いし、本学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。

※このアンケートや別添資料に記載されている電子情報システム工学専攻に関する事項は全て予定であり、内容が変更になる可能性があります。

以下の設問に対してご記入、もしくは、あてはまるものに○をつけてください。

■最初にあなた自身についてお聞きします。

Q1	性別	男性 ・ 女性	学年	1年 ・ 2年 ・ 3年
	所属学科	工学科		

■久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻(収容定員増届出予定)についてお聞きします。別添のリーフレットに目を通してからお答えください。

Q2 久留米工業大学大学院工学研究科電子情報システム工学専攻には、リーフレットのような特色や進学支援策があります。あなたはどの程度魅力を感じますか？各項目で一つずつ選択してください。

	とても 魅力を感じ る	ある程度 魅力を感じ る	あまり 魅力を感じ ない	全く 魅力を感じ ない
本学独自の奨学金制度(項目6)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
AI・データサイエンス等の実践的教育(項目9)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
充実した研究教育環境(項目9)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
社会人コース(項目10)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
中長期有償コーオプ制度(項目11)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

----- 裏面に続く -----



社会人向け

**久留米工業大学大学院 工学研究科  
電子情報システム工学専攻(収容定員変更届出予定)に関するアンケート**

久留米工業大学では、2025年(令和7年)4月より、大学院「電子情報システム工学専攻」の入学定員を20名に増員することを構想しています。このアンケートは、現在社会で活躍する皆さんに、在職しながら大学院へ進学することに対する考え方をお伺いし、本学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただくものです。このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。

**※このアンケートや別添資料に記載されている電子情報システム工学専攻に関する事項は全て予定であり、内容が変更になる可能性があります。**

以下の設問に対してご記入、もしくは、あてはまるものに○をつけてください。

■最初にあなた自身についてお聞きします。

**Q1**

性別	男性・女性	年齢	満 歳	居住地(都道府県)	
勤続年数(通算)	年	現在の業種(下から番号を選んでください)			

**【業種一覧】**

- ①農・林・漁・鉱業    ②建設業    ③製造業    ④電気・ガス・熱供給・水道業  
 ⑤情報通信業    ⑥運輸業    ⑦卸売・小売業    ⑧金融・保険業    ⑨不動産業    ⑩飲食店・宿泊業  
 ⑪医療・福祉    ⑫複合サービス    ⑬サービス業    ⑭公務    ⑮その他

■久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻(収容定員増届出予定)についてお聞きします。**別添のリーフレットに目を通してからお答えください。**

**Q2**

久留米工業大学大学院工学研究科電子情報システム工学専攻には、リーフレットのような特色や進学支援策があります。あなたはどの程度魅力を感じますか？**各項目で一つずつ選択**してください。

	とても 魅力を感じ る	ある程度 魅力を感じ る	あまり 魅力を感じ ない	全く 魅力を感じ ない
AI・データサイエンス等の実践的教育(項目9)	○	○	○	○
充実した研究教育環境(項目9)	○	○	○	○
社会人コース(項目10)	○	○	○	○
中長期有償コーオプ制度(項目11)	○	○	○	○

----- 裏面に続く -----

社会人向け

■次からは、リカレント教育（学び直し）や興味のある分野についてお聞きします。

Q3

今後将来的なキャリア形成や転職を考えた場合、リカレント教育や新たに学びたい学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）

【選択肢】

- |             |              |                  |
|-------------|--------------|------------------|
| ①電子・情報工学    | ②AI・データサイエンス | ③工学（機械・電気・環境・経営） |
| ④数学・理学      | ⑤農学・水産学      | ⑥生活科学            |
| ⑦総合科学       | ⑧看護学・保健学     | ⑨医学・歯学・薬学        |
| ⑩教員養成学・教育学  | ⑪文学          | ⑫語学・国際関係学        |
| ⑬経営学・経済学・商学 | ⑭法学          | ⑮社会学             |
| ⑯芸術学        | ⑰その他         | ⑱必要ない・まだ分からない    |

Q4

上記設問 Q3 のような教育を受ける場合、どのような教育機関を選択しますか？（複数選択可）

- 【選択肢】 ①大学院 ②大学 ③短期大学 ④専門職大学 ⑤専門職短期大学 ⑥専門学校  
⑦その他

Q5

上記設問 Q4 において「①大学院」を選択した方に質問です。志望する大学院等の設置者の希望を選択してください。（複数選択可）

- 【選択肢】 ①久留米工業大学大学院 ②国立大学の大学院  
③公立大学の大学院 ④久留米工業大学以外の私立大学の大学院

Q6

久留米工業大学大学院工学研究科電子情報システム工学専攻の収容定員が増えた場合、受験を希望しますか。次より一つ選択してください。

- 【選択肢】 ①第一志望として受験する ②第二志望として受験する  
③第三志望以降として受験する ④受験しない

Q7

上記設問 Q6 で①～③を選択した方に質問です。久留米工業大学大学院工学研究科電子情報システム工学専攻を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より一つ選択してください。

- 【選択肢】 ① 入学する ②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する ③ 入学しない

----- 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。 -----

久留米工業大学大学院  
「工学研究科 電子情報システム工学専攻」  
定員増員に関するニーズ調査  
結果報告書  
【工学部3年生対象調査】

## 1. 工学部3年生対象 調査概要

### 1) 調査目的

本調査は、2025年4月より久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」定員増員構想に伴う進学ニーズの把握を目的とし、当該専攻に入学が想定される工学部3年生を対象に、その関心度や入学意向を聴取したものである。

### 2) 調査概要

		工学部3年生対象調査
調査対象		工学部3年生
調査学科		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報ネットワーク工学科</li> <li>・交通機械工学科</li> <li>・機械システム工学科</li> <li>・建築・設備工学科</li> <li>・教育創造工学科</li> </ul>
調査方法		アンケート調査
調査対象数	依頼数	220名
	回収数	220名
	回収率	100.0%
調査期間		2023年12月～2024年1月
調査項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・性別</li> <li>・所属学科</li> <li>・久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」の特色に対する魅力度</li> <li>・卒業後の進路</li> <li>・進学選択者の志望設置者</li> <li>・興味のある学問分野</li> <li>・久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」への受験意向</li> <li>・久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」への入学意向</li> <li>・就職選択者が奨学金制度該当となった場合の久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」への入学意向</li> </ul>

## 2. 工学部3年生対象 調査結果まとめ

### 1) 概要

■本調査は、「久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻」の定員増員に対する需要を確認するための調査を目的として実施。

増員年度に大学院入学対象となる各学科の3年生へ2023年11月～2024年1月の間調査を実施し220名から回答を得て、集計・分析を行った。

### 2) 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」の特色に対する魅力度

■「電子情報システム工学専攻」の特色および進学支援策に対する魅力度（※）は4項目が70%を超えた。特に魅力度が高い（魅力度77.7%）のは「本学独自の奨学金」続いて「研究教育環境」であった。

※複数回答	奨学金		研究教育環境	
とても魅力	57名	25.9%	53名	24.2%
ある程度魅力	114名	51.8%	116名	53.0%

### 3) 大学卒業後の希望進路および興味のある学問分野

■「情報ネットワーク工学科」で31名、「機械システム工学科」で9名が「進学」希望。

	情報	機械
進学	31名	9名

■「進学」希望者の興味ある学問系統は「電子情報分野」が圧倒的。

※複数回答	情報	機械
電子情報分野	29名	8名

定員増員はニーズに合致していると判断できる。

### 4) 「電子情報システム工学専攻」入学意向へのクロス集計

■「進学」「電子情報分野に興味」「本学大学院が希望設置者」「本学大学院を第1志望で受験」「合格の場合入学」と回答した人数をクロス集計により求めた結果、29名の入学意向者がおり増員予定の定員数を上回る結果となった。

入学希望	受験希望者
入学する	29名
上位志望校が不合格の場合	3名
入学しない	4名

■進路に「就職」を選択している学生のうち、21名が「独自の奨学金制度に該当した場合は入学したい」と回答。本学は経済的理由が解消すれば、大学院進学意向者が多い。

奨学金該当の場合	進路：就職
入学する	21名
入学しない	148名

### 3. 工学部3年生対象 調査結果

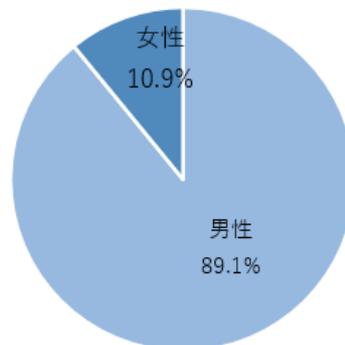
#### 1) 回答者の属性

■回答者の性別は「男性」が89.1%、「女性」が10.9%である。

(単位：人)

性別	人数	
男性	196	89.1%
女性	24	10.9%

■性別 (全体：220名)

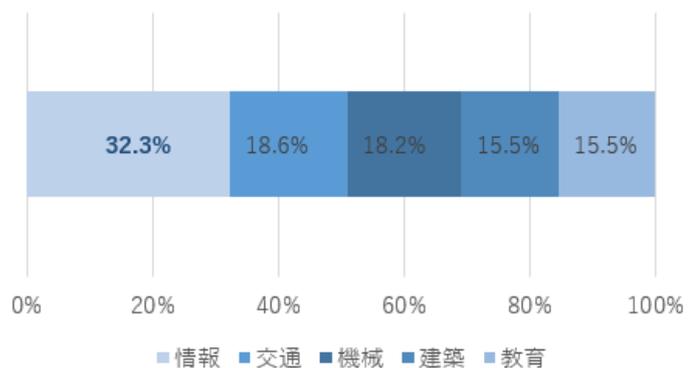


■回答者のうち、「電子情報システム工学専攻」に興味があろう「情報ネットワーク工学科」の回答は32.3%を占め、最も多い。

(単位：人)

学科	人数	
情報	71	32.3%
交通	41	18.6%
機械	40	18.2%
建築	34	15.5%
教育	34	15.5%

■所属学科 (全体：220名)



※ 情報：情報ネットワーク工学科

交通：交通機械工学科

機械：機械システム工学科

建築：建築・設備工学科

教育：教育創造工学科

#### 2) 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」の特色に対する魅力度

■「電子情報システム工学専攻」の特色および進学支援策に対する魅力度（※）は4項目が70%を超えており、そのうち2項目では77%を超える結果。

※魅力度とは：「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した割合の合計数

■特に魅力度が高い（「とても魅力」が高割合の25.9%）のは「本学独自の奨学金」であった。3年次修了時点の成績（GPA評価）や3年次の修得単位に応じた奨学金給付など、学びの機会の拡充に魅力を感じる結果であった。

### 3. 工学部3年生対象 調査結果（続き）

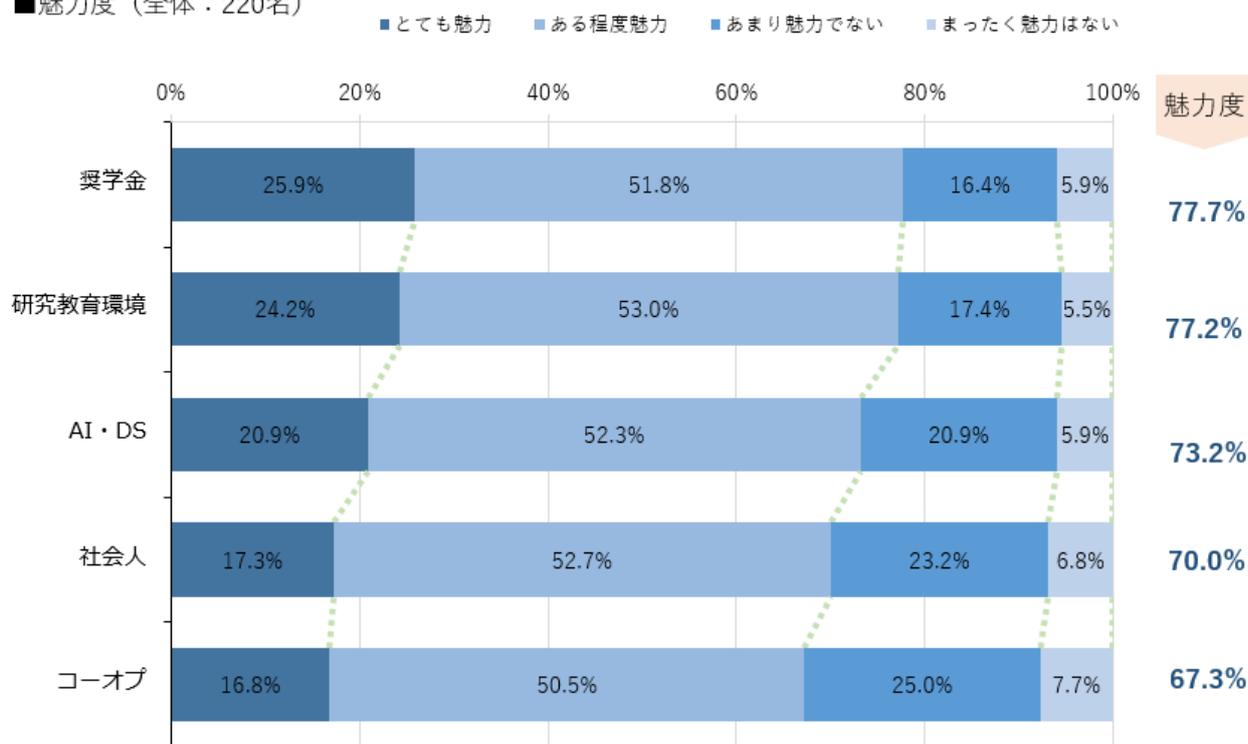
■次に魅力度が高い（「とても魅力」が24.2%）のは「研究教育環境」であった。

令和7年度に完成予定の電子情報システム工学専攻大学院生専用スペース設置予定で最先端の教育システム等が導入されること、及び高性能ノートPCの貸与に大きな魅力を感じている結果となった。

■さらに魅力度は「AI・データサイエンス等の実践的教育」と続き、「地域課題解決型高度AI教育プログラム」や地域課題解決型PBLによる企業とともにAIを用いた実践的課題解決に興味を持つ学生が多いこともみられた。

福岡県南部唯一の理工系大学として、筑後地域に高度情報人材として羽ばたく場ができることへの魅力が結果に表れた。

■魅力度（全体：220名）



(単位：人)	奨学金	研究教育環境	AI・DS	社会人	コーオプ
とても魅力	57 25.9%	53 24.2%	46 20.9%	38 17.3%	37 16.8%
ある程度魅力	114 51.8%	116 53.0%	115 52.3%	116 52.7%	111 50.5%
あまり魅力でない	36 16.4%	38 17.4%	46 20.9%	51 23.2%	55 25.0%
まったく魅力はない	13 5.9%	12 5.5%	13 5.9%	15 6.8%	17 7.7%
魅力度	77.7%	77.2%	73.2%	70.0%	67.3%

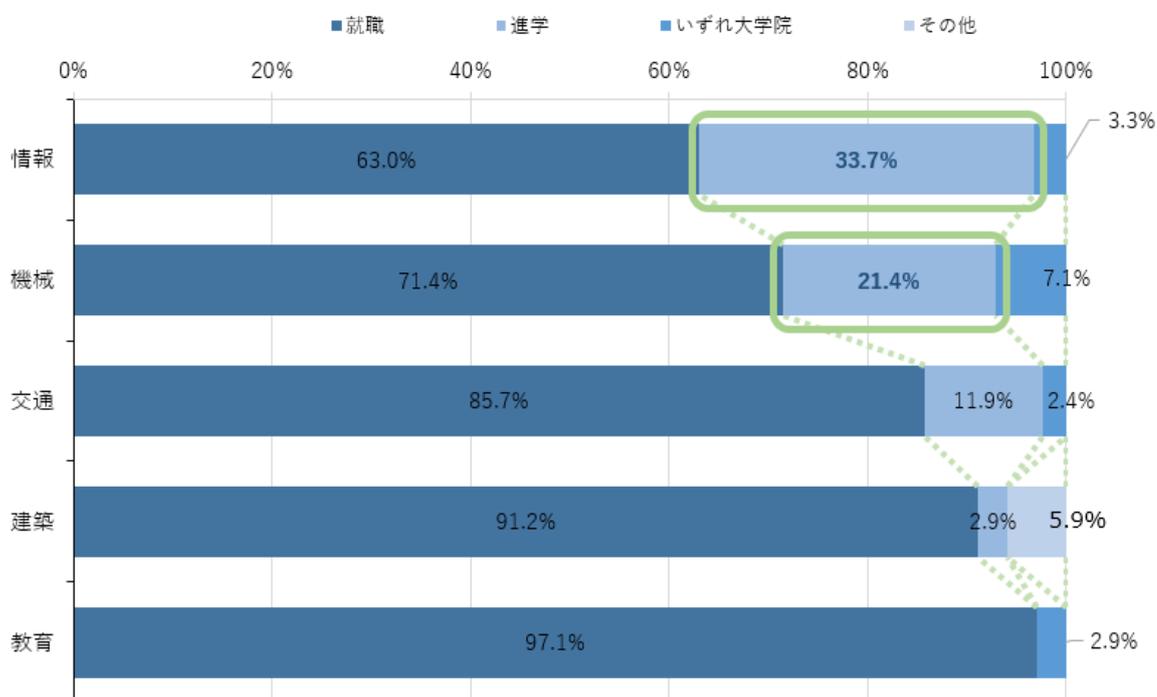
### 3. 工学部3年生対象 調査結果（続き）

#### 3) 大学卒業後の希望進路および興味のある学問分野

■回答者の大学卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、3つの学科にて85%以上が「就職」を希望する結果となった。

■一方で「情報ネットワーク工学科」で33.7%、「機械システム工学科」で21.4%の「進学」希望があり、今回の「久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻」定員増員をターゲットとする対象に調査実施できていると考えられる。

■卒業後の進路（複数回答：回答数 244）



※複数回答

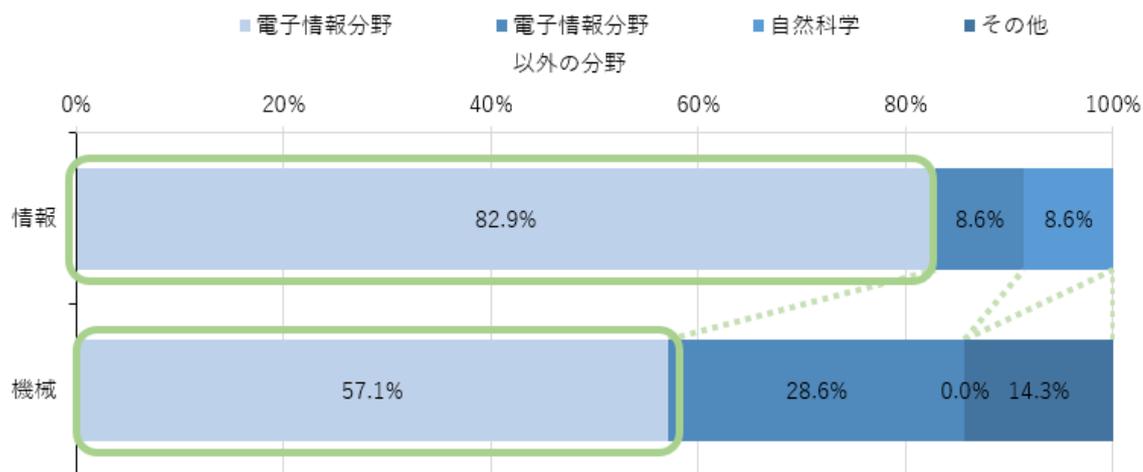
(単位：人)

	情報	機械	交通	建築	教育
就職	58 63.0%	30 71.4%	36 85.7%	31 91.2%	33 97.1%
進学	31 33.7%	9 21.4%	5 11.9%	1 2.9%	0 0.0%
いずれ大学院	3 3.3%	3 7.1%	1 2.4%	0 0.0%	1 2.9%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.9%	0 0.0%

### 3. 工学部3年生対象 調査結果（続き）

■更に、「進学」希望者の興味ある学問系統は「電子情報分野」が圧倒的であり（情報：82.9%、機械：57.1%）、今回の「久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻」定員増員はニーズに合致していると判断できる。

■情報および機械専攻の進学希望者の興味のある学問系（複数回答：回答数 49）



※複数回答（単位：人）

	情報	機械
電子情報分野	29 82.9%	8 57.1%
電子情報分野以外の分野	3 8.6%	4 28.6%
自然科学	3 8.6%	0 0.0%
その他	0 0.0%	2 14.3%

#### 4) 進学選択者の志望設置者・受験以降・入学意向

■「進学希望」「いずれ大学院」選択者の志望設置者は63.5%（47名）が「久留米工業大学大学院」と回答し、そのうち68.1%（32名）が第1志望としている。

合格の場合「入学する」回答も現状すでに増員予定数を超える希望人数（31名）となっている。

■更に、第2志望の場合でも88.9%（8名）が「志望上位順位校が不合格の場合に入学する」と回答しており、入学意向者数は予定している入学定員数を上回る結果が得られた。

### 3. 工学部3年生対象 調査結果（続き）

志望設置者			本学大学院受験希望			合格した場合の入学希望		
本学 大学院	47名	63.5%	第1志望	32名	68.1%	入学する 不合格の場合 入学しない	31名 0名 1名	96.9% 0.0% 3.1%
			第2志望	9名	19.1%	入学する 不合格の場合 入学しない	0名 8名 1名	0.0% 88.9% 11.1%
			第3志望	2名	4.3%	入学する 不合格の場合 入学しない	0名 1名 1名	0.0% 50.0% 50.0%
			受験しない	4名	8.5%			
国立	16名	21.6%	第1志望	3名	18.8%	入学する 不合格の場合 入学しない	3名 0名 0名	100.0% 0.0% 0.0%
			第2志望	7名	43.8%	入学する 不合格の場合 入学しない	0名 7名 0名	0.0% 100.0% 0.0%
			第3志望	2名	12.5%	入学する 不合格の場合 入学しない	0名 2名 0名	0.0% 100.0% 0.0%
			受験しない	4名	25.0%			
公立	5名	6.8%	第1志望	3名	60.0%	入学する 不合格の場合 入学しない	3名 0名 0名	100.0% 0.0% 0.0%
			第2志望	1名	20.0%	入学する 不合格の場合 入学しない	0名 1名 0名	0.0% 100.0% 0.0%
			第3志望	0名	0.0%	入学する 不合格の場合 入学しない	0名 0名 0名	- - -
			受験しない	1名	20.0%			
私立	6名	8.1%	第1志望	3名	50.0%	入学する 不合格の場合 入学しない	3名 0名 0名	100.0% 0.0% 0.0%
			第2志望	1名	16.7%	入学する 不合格の場合 入学しない	0名 1名 0名	0.0% 100.0% 0.0%
			第3志望	1名	16.7%	入学する 不合格の場合 入学しない	0名 1名 0名	0.0% 100.0% 0.0%
			受験しない	1名	16.7%			

### 3. 工学部3年生対象 調査結果（続き）

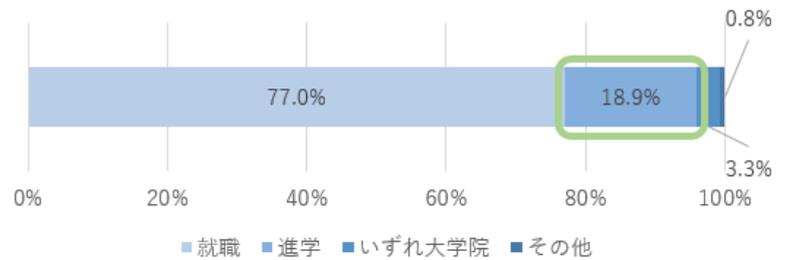
#### 5) 「電子情報システム工学専攻」入学意向へのクロス集計

■回答者全体のうち46名（18.9%）が卒業後の進路に「進学」を選択。

（単位：人）

卒業後進路	全体	
就職	188	77.0%
進学	46	18.9%
いずれ大学院	8	3.3%
その他	2	0.8%

■卒業後進路（回答数：244）



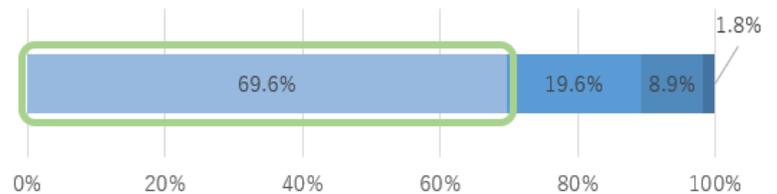
■「進学希望者」のうち、39名（69.6%）が「電子情報分野」に興味を持つ。

※複数回答（単位：人）

興味ある分野	進学希望者	
電子情報分野	39	69.6%
電子情報以外の分野	11	19.6%
自然科学	5	8.9%
その他	1	1.8%

■進学希望者の興味ある学問分野

（複数回答：回答数56）

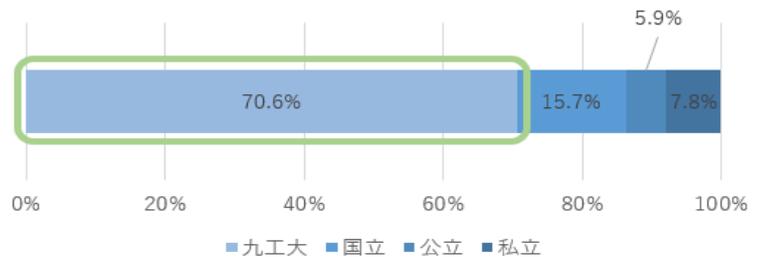


■「進学希望」および「電子情報分野に興味」のうち、36名（70.6%）が学びの場に本学大学院を希望。

※複数回答（単位：人）

進学希望設置者	電子情報分野に興味	
本学大学院	36	70.6%
国立	8	15.7%
公立	3	5.9%
私立	4	7.8%

■「進学希望」で「電子情報分野に興味」ある学生の進学希望設置者（複数回答：回答数 51）



■本学大学院への進学を希望する学生のうち、30名（83.3%）が本学大学院を第1志望として受験を希望。

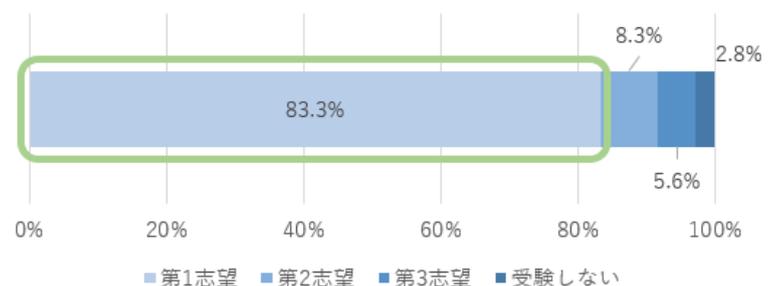
「受験しない」を選択した学生は1名（2.8%）であり、本学大学院への進学を希望する学生はほぼ全員受験すると回答。

（単位：人）

受験希望	本学大学院	
第1志望	30	83.3%
第2志望	3	8.3%
第3志望	2	5.6%
受験しない	1	2.8%

■電子情報システム工学専攻の受験希望

（回答数：36）



### 3. 工学部3年生対象 調査結果（続き）

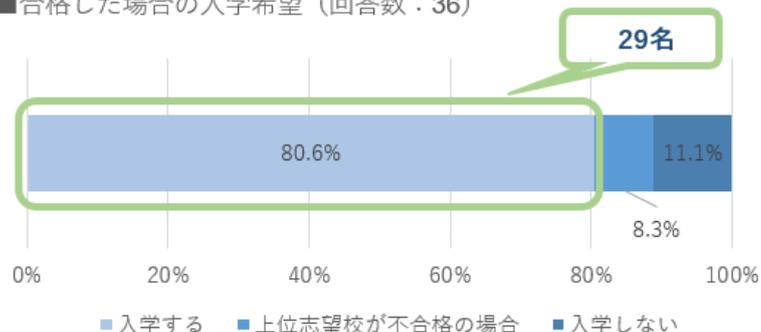
■本学大学院を受験して合格した場合、29名（80.6%）が「入学する」と回答。

ターゲットをより精緻に限定しても、定員増員予定数を上回る入学意向者がみられる。

（単位：人）

入学希望	受験希望者	
入学する	29	80.6%
上位志望校が不合格の場合	3	8.3%
入学しない	4	11.1%

■合格した場合の入学希望（回答数：36）



（単位：人）

情報	24
交通	0
機械	5
建築	0
教育	0

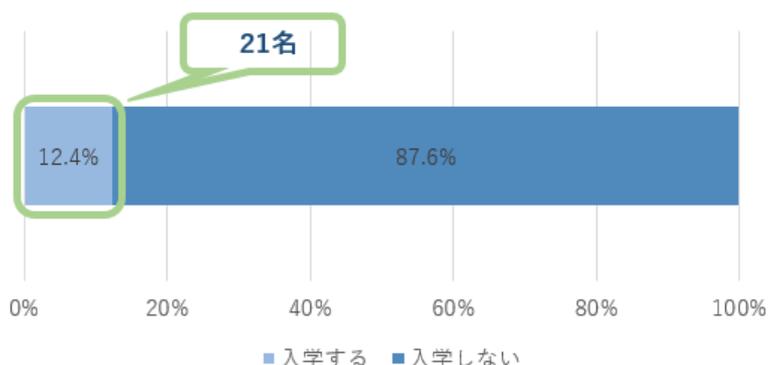
#### 6) 独自の奨学金制度に該当した場合の入学意向

■進路に「就職」を選択している学生のうち、21名（12.4%）が「独自の奨学金制度に該当した場合は入学したい」と回答。本学は経済的理由が解消すれば、大学院進学意向者が多い。

奨学金該当の場合	進路：就職	
入学する	21	12.4%
入学しない	148	87.6%

■（就職希望者）（回答数：169）

独自の奨学金制度に該当した場合の入学意向



久留米工業大学大学院  
「工学研究科 電子情報システム工学専攻」  
定員増員に関するニーズ調査  
結果報告書  
【情報ネットワーク工学科4年生対象調査】

令和6年2月  
 久留米工業大学

## 1. 情報ネットワーク工学科4年生対象 調査概要

### 1) 調査目的

本調査は、2025年4月より久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」定員増員構想に伴う入学ニーズの把握を目的とし、増員年度にリカレント教育にて大学院入学対象となる情報ネットワーク工学科4年生（大学院進学者を除く）を対象に、その関心度や入学意向を聴取したものである。

### 2) 調査概要

		情報ネットワーク工学科4年生対象調査
調査対象		大学院進学者を除く情報ネットワーク工学科4年生
調査方法		アンケート調査
調査対象数	依頼数	51名
	回収数	51名
	回収率	100.0%
調査期間		2023年12月
調査項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性別</li> <li>・ 所属学科</li> <li>・ 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」の特色に対する魅力度</li> <li>・ 興味のある学問分野</li> <li>・ 教育を受ける場合の教育機関</li> <li>・ 教育を受ける場を「大学院」選択の場合の志望設置者</li> <li>・ 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」への受験意向</li> <li>・ 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」への入学意向</li> <li>・ 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」の特色を利用できる場合の入学意向</li> </ul>

## 2. 情報ネットワーク工学科4年生対象 調査結果まとめ

### 1) 概要

■本調査は、「久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻」の定員増員に対する需要を確認するための調査を目的として実施。

増員年度にリカレント教育にて大学院入学対象となる情報ネットワーク工学科4年生（大学院進学者は除く）へ、2023年11月に調査を実施し、51名から回答を得て、集計・分析を行った。

### 2) 興味のある分野および久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」の特色に対する魅力度

■45名が「情報分野」に興味を持つ結果となった。

学問分野	興味を持つ
電子・情報工学	24名
AI・データサイエンス	21名

■「電子情報システム工学専攻」の特色および進学支援策に対する魅力度（※）は5項目全て80%を超えた。特に魅力度が高いのは「AI・データサイエンス等の実践的教育」で、94.1%であった。

※複数回答	AI・DS	
とても魅力	17名	33.3%
ある程度魅力	31名	60.8%

### 3) 「電子情報システム工学専攻」定員増員の場合の入学意向

■電子情報システム工学科の収容定員が増えた場合、16名が受験を希望。

そのうち、5名が第1志望として受験を希望。

■受験して合格した場合、7名が「入学する」と回答。

収容定員が増えた場合の社会人ニーズは一定数あるという結果となった。

受験希望	本学大学院	入学希望	受験希望者
第1志望	5名	入学する	7名
第2志望	7名		
第3志望	4名		

### 4) 社会人コースやコーオプを利用できる場合の入学意向

■進路に「就職」を選択している学生のうち、8名が「社会人コースやコーオプが利用できる場合は入学したい」と回答。

特色に魅力を感じ「利用できるなら入学したい」というニーズがある結果となった。

### 3. 情報ネットワーク工学科4年生対象 調査結果

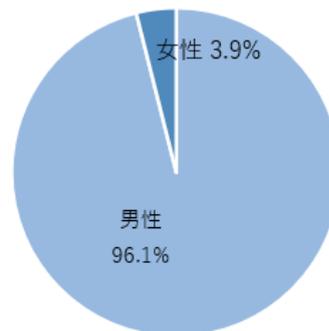
#### 1) 回答者の属性

■回答者の性別は「男性」が96.1%、「女性」が3.9%である。

(単位：人)

性別	人数	
男性	49	96.1%
女性	2	3.9%

■性別 (全体：51名)



#### 2) 興味のある学問分野

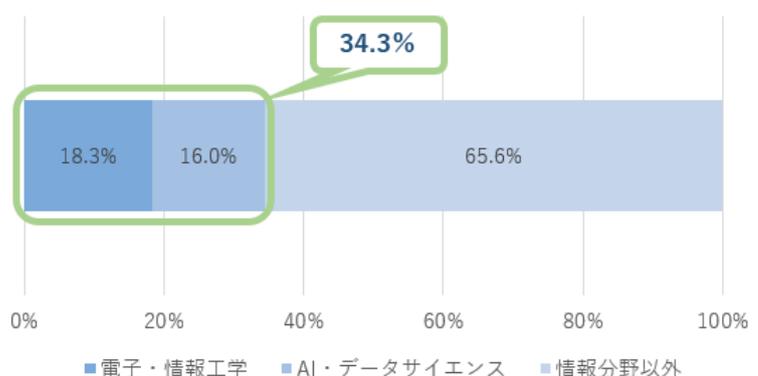
■回答者に興味ある分野を複数回答で聴取したところ、34.3%が「情報分野」に興味を持つ結果となった。

今回の「久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻」定員増員をターゲットとする対象に調査実施できていると考えられる。

※複数回答 (単位：人)

■興味のある学問分野 (複数回答：回答数 131)

学問分野	情報
電子・情報工学	24 18.3%
AI・データサイエンス	21 16.0%
情報分野以外	86 65.6%



#### 3) 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」の特色に対する魅力度

■「電子情報システム工学専攻」の特色および進学支援策に対する魅力度(※)は5項目全て80%を超えており、そのうち1項目では94%を超える結果。

※魅力度とは：「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した割合の合計数

■特に魅力度が高い(94.1%)のは「AI・データサイエンス等の実践的教育」であった。

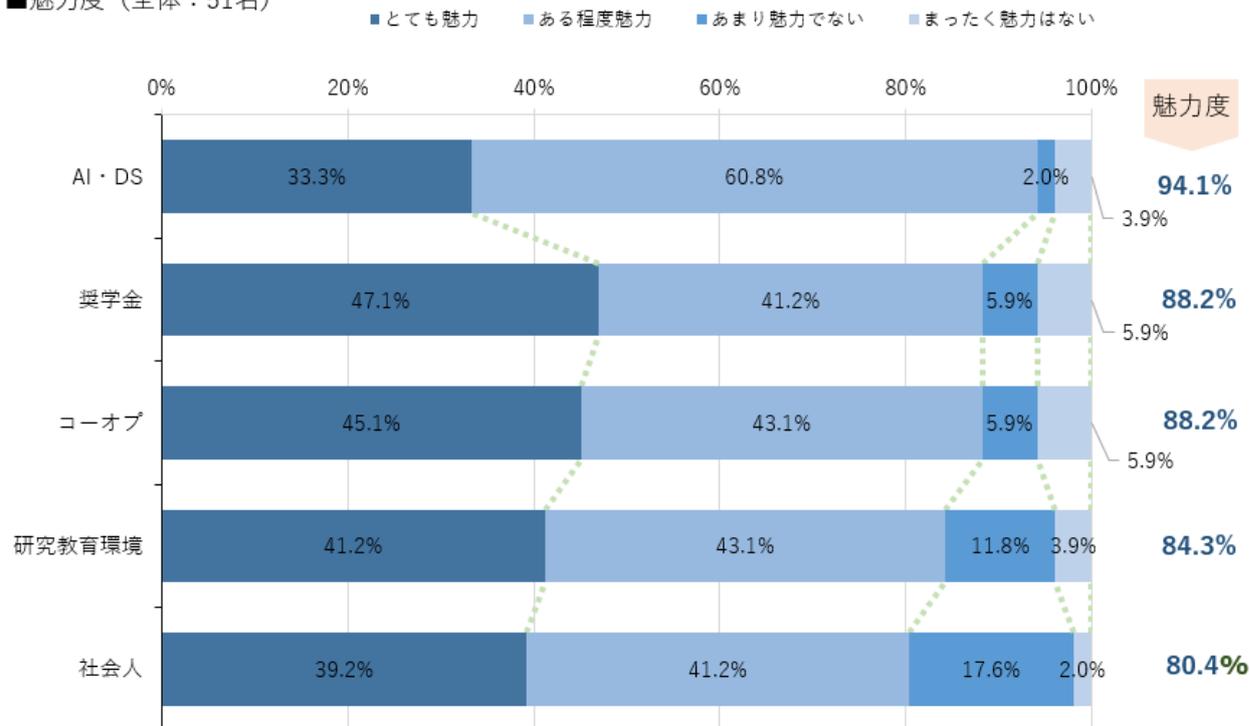
「地域課題解決型高度AI教育プログラム」や地域課題解決型PBLによる企業とともにAIを用いた実践的課題解決に興味を持つ学生が多いこともみられた。

### 3. 情報ネットワーク工学科4年生対象 調査結果（続き）

■次に魅力度が高い（「とても魅力」が高割合の47.1%）のは「本学独自の奨学金」であった。

3年次修了時点の成績（GPA評価）や3年次の修得単位に応じた奨学金給付など、学びの機会の拡充に魅力を感じる結果であった。

■魅力度（全体：51名）



（単位：人）	AI・DS	奨学金	コーオプ	研究教育環境	社会人
とても魅力	17 33.3%	24 47.1%	23 45.1%	21 41.2%	20 39.2%
ある程度魅力	31 60.8%	21 41.2%	22 43.1%	22 43.1%	21 41.2%
あまり魅力でない	1 2.0%	3 5.9%	3 5.9%	6 11.8%	9 17.6%
まったく魅力はない	2 3.9%	3 5.9%	3 5.9%	2 3.9%	1 2.0%
魅力度	94.1%	88.2%	88.2%	84.3%	80.4%

#### 4) 大学院にてリカレント教育を受ける場合の志望設置者

■大学院にてリカレント教育を受ける場合の志望設置者は、40.7%（11名）が「国立」。

次いで33.3%（9名）が「久留米工業大学大学院」を第1志望とする結果であった。

社会人になってからも学びの場に本学大学院を選択するニーズは一定数あると判断できる。

### 3. 情報ネットワーク工学科4年生対象 調査結果（続き）

※複数回答 （単位：人）

志望設置者		
本学大学院	9	33.3%
国立	11	40.7%
公立	4	14.8%
私立	3	11.1%

#### 5) 「電子情報システム工学専攻」定員増員の場合の入学意向

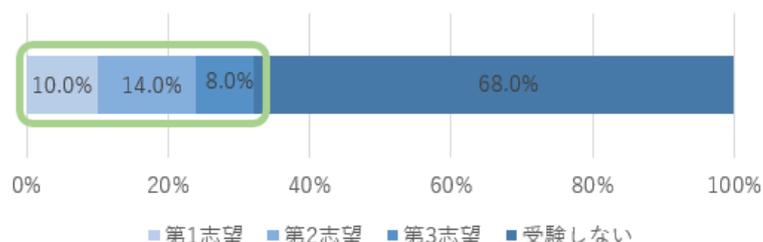
■電子情報システム工学科の収容定員が増えた場合、「16名（32%）」が受験を希望。

そのうち、5名が第1志望として受験を希望。

（単位：人）

受験希望	本学大学院	
第1志望	5	10.0%
第2志望	7	14.0%
第3志望	4	8.0%
受験しない	34	68.0%

■電子情報システム工学専攻の受験希望（回答数：50）



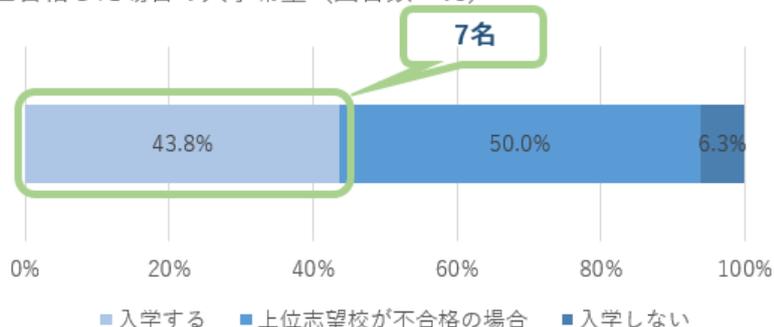
■本学大学院を受験して合格した場合、7名（43.8%）が「入学する」と回答。

収容定員が増えた場合の社会人ニーズは一定数あるという結果となった。

（単位：人）

入学希望	受験希望者	
入学する	7	43.8%
上位志望校が不合格の場合	8	50.0%
入学しない	1	6.3%

■合格した場合の入学希望（回答数：16）



### 3. 情報ネットワーク工学科4年生対象 調査結果（続き）

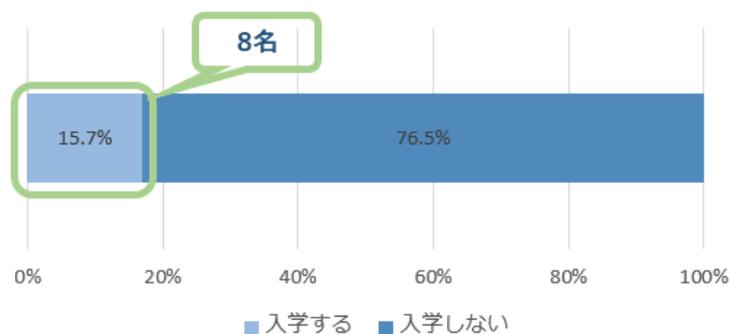
#### 6) 社会人コースやコーオペを利用できる場合の入学意向

■進路に「就職」を選択している学生のうち、8名（15.7%）が「社会人コースやコーオペが利用できる場合は入学したい」と回答。

「電子情報システム工学専攻」の特色に魅力を感じ「利用できるなら入学したい」というニーズがある結果となった。

社会人コース・コーオペ利用	進路：就職	
入学する	8	15.7%
入学しない	39	76.5%
未回答	4	7.8%

■社会人コースやコーオペを利用した場合の入学意向  
(回答数：51)



久留米工業大学大学院  
「工学研究科 電子情報システム工学専攻」  
定員増員に関するニーズ調査  
結果報告書  
【社会人対象調査】

令和6年2月  
 久留米工業大学

## 1. 社会人対象 調査概要

### 1) 調査目的

本調査は、2025年4月より久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」定員増員構想に伴う入学ニーズの把握を目的とし、リカレント教育に興味があり、新たに学びたい分野がある社会人を対象に、その関心度や入学意向を聴取したものである。

### 2) 調査概要

		社会人対象調査
調査対象		久留米工業大学地域連携推進協議会 会員企業
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	51社（1～5名の回答を依頼）
	回収数	63名
	回収率	61.8%（各社2名の提出見込みとして算出）
調査期間		2023年12月～2024年1月
調査項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性別・年齢・居住地</li> <li>・ 年齢</li> <li>・ 居住地</li> <li>・ 勤続年数・業種</li> <li>・ 業種</li> <li>・ 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」の特色に対する魅力度</li> <li>・ 興味のある学問分野</li> <li>・ 教育を受ける場合の教育機関</li> <li>・ 教育を受ける場を「大学院」選択の場合の志望設置者</li> <li>・ 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」への受験意向</li> <li>・ 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」への入学意向</li> </ul>

## 2. 社会人対象 調査結果まとめ

### 1) 概要

■本調査は、「久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻」の定員増員に対する需要を確認するための調査を目的として実施。

久留米工業大学地域連携推進協議会会員企業51社へ2023年12月から2024年1月に調査を実施しリカレント教育に興味がある社会人63名から回答を得て、集計・分析を行った。

### 2) 回答者の属性

■性別・年齢は「50代男性」が14名と最も多く、次いで「20代男性」「40代男性」12名と続く。

■居住地は、久留米工業大学大学院の所在地である「福岡県」が90%（56名）を占め、最も多い。

■勤務先業種としては「製造業」が27%（17名）で最も多い。次いで「情報通信業」が15名であり、情報分野に興味がある社会人の意見を聴取できていると考えられる。

■勤続年数は、「～10年」17名、「31～40年」12名が多い。

### 3) 興味のある分野および久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」の特色に対する魅力度

■67名が「情報分野」に興味を持つ結果となった。

学問分野	興味を持つ
電子・情報工学	20名
AI・データサイエンス	47名

■「電子情報システム工学専攻」の特色および進学支援策に対する魅力度（※）は5項目全て85%を超えた。特に魅力度が高いのは「AI・データサイエンス等の実践的教育」であった。

■魅力を全く感じないとの回答は0%であり、社会人に対して魅力は訴求できている。

※複数回答	AI・DS		社会人	
とても魅力	30名	47.6%	24名	38.1%
ある程度魅力	32名	50.8%	32名	50.8%

### 4) 「電子情報システム工学専攻」定員増員の場合の入学意向

■電子情報システム工学科の収容定員が増えた場合、17名が受験を希望。

そのうち、12名が第1志望として受験を希望。

■受験して合格した場合、7名が「入学する」と回答。

収容定員が増えた場合の社会人ニーズは一定数あるという結果となった。

受験希望	本学大学院	入学希望	受験希望者
第1志望	12名	入学する	10名
第2志望	5名		
第3志望	0名		

### 3. 社会人対象 調査結果

#### 1. 回答者の属性

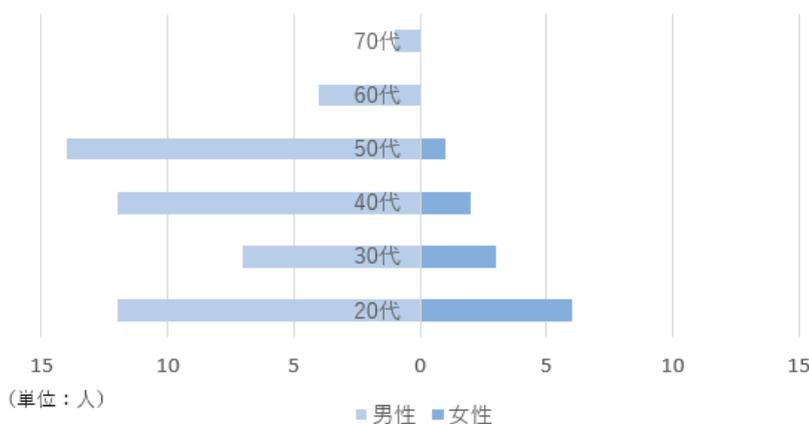
■回答者の性別・年齢は「50代男性が22.6%（14名）」と最も多く、次いで「20代男性」が19.4%（12名）、「40代男性」19.4%（12名）と続く。

（単位：人）

（単位：人）

性別・年齢	男性		女性	
	人数	割合	人数	割合
20代	12	19.4%	6	9.7%
30代	7	11.3%	3	4.8%
40代	12	19.4%	2	3.2%
50代	14	22.6%	1	1.6%
60代	4	6.5%	0	0.0%
70代	1	1.6%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%

■性別・年齢（回答数：62名）

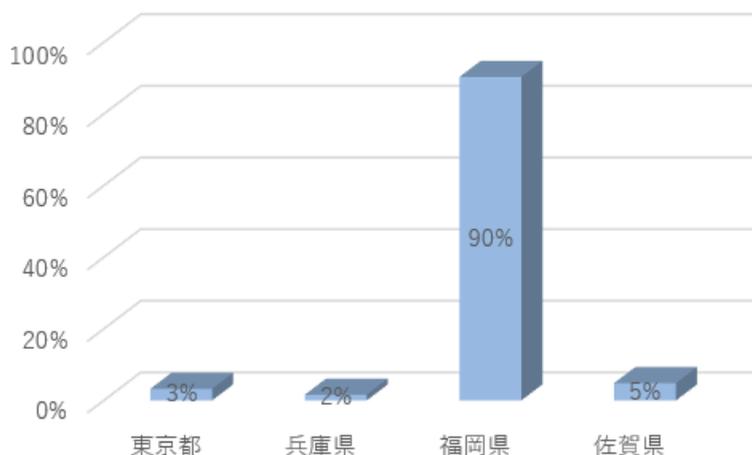


■回答者の居住地は、久留米工業大学大学院の所在地である「福岡県」が90%（56名）を占め、最も多い。

（単位：人）

■居住地（回答数：62名）

居住地	回答者数	割合
東京都	2	3%
兵庫県	1	2%
福岡県	56	90%
佐賀県	3	5%



### 3. 社会人対象 調査結果（続き）

■回答者の勤務先業種としては「製造業」が27%（17名）で最も多い。

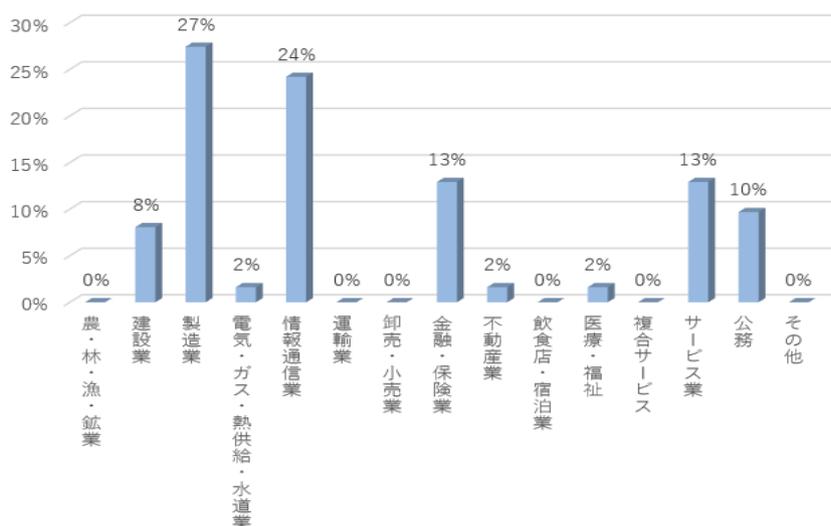
次いで「情報通信業」が24%（15名）であり、情報分野に興味がある社会人の意見を聴取できていると考えられる。

（単位：人）

（単位：人）

業種	回答者数	割合	業種	回答者数	割合
農・林・漁・鉱業	0	0%	不動産業	1	2%
建設業	5	8%	飲食店・宿泊業	0	0%
製造業	17	27%	医療・福祉	1	2%
電気・ガス・熱供給・水道業	1	2%	複合サービス	0	0%
情報通信業	15	24%	サービス業	8	13%
運輸業	0	0%	公務	6	10%
卸売・小売業	0	0%	その他	0	0%
金融・保険業	8	13%			

■業種（回答数：62名）



■回答者の勤続年数は、「～10年」27%（17名）、「31～40年」19%（12名）が多い。

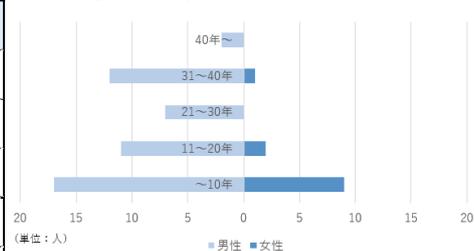
転職等を意識する20代と、社会人として経験を積んだ50代が多くリカレント教育に興味を持っている結果となった。

（単位：人）

（単位：人）

勤続年数	男性		女性	
～10年	17	27%	9	15%
11～20年	11	18%	2	3%
21～30年	7	11%	0	0%
31～40年	12	19%	1	2%
40年～	2	3%	0	0%
無回答	1	2%	0	0%

■勤続年数（回答数：62名）



### 3. 社会人対象 調査結果（続き）

#### 2. 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」の特色に対する魅力度

■「電子情報システム工学専攻」の特色に対する魅力度（※）は3項目が非常に高い魅力度となった。

※魅力度とは：「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した割合の合計数

■特に魅力度が高い（98.4%）のは「AI・データサイエンス等の実践的教育」であった。

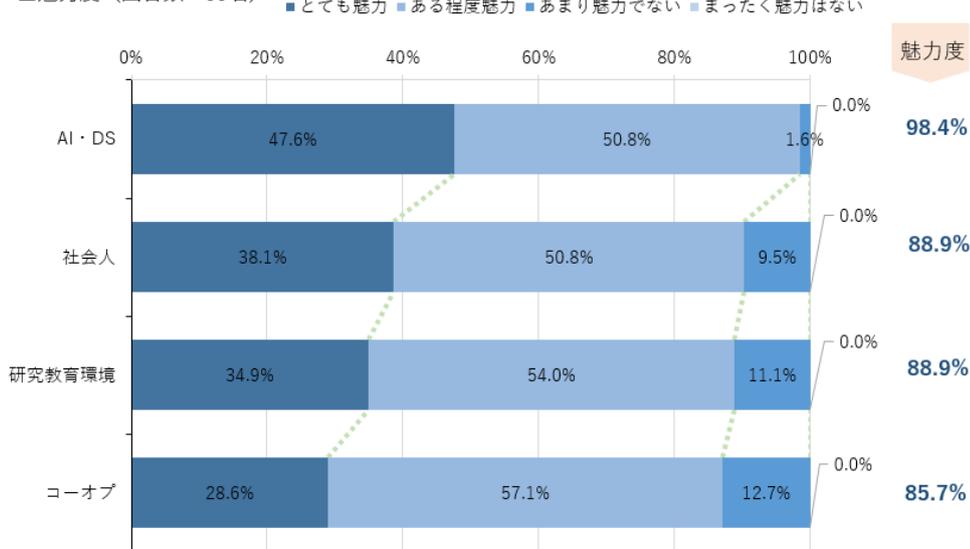
AI・データサイエンスに興味のある社会人が多い結果となった。

■次に魅力度が高い（「とても魅力」が38.1%）のは「社会人コース」であった。

在職のまま入学を希望する社会人に対する教育制度として魅力を感じている結果となった。

■リカレント教育に興味がある社会人に、「電子情報システム工学専攻」の特色に対する魅力を全く感じないとの回答は0%であり、社会人に対して魅力は訴求できている。

■魅力度（回答数：63名）



（単位：人）

	AI・DS	社会人	研究教育環境	コーオプ
とても魅力	30 47.6%	24 38.1%	22 34.9%	18 28.6%
ある程度魅力	32 50.8%	32 50.8%	34 54.0%	36 57.1%
あまり魅力でない	1 1.6%	6 9.5%	7 11.1%	8 12.7%
まったく魅力はない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
<b>魅力度</b>	<b>98.4%</b>	<b>88.9%</b>	<b>88.9%</b>	<b>85.7%</b>

### 3. 社会人対象 調査結果（続き）

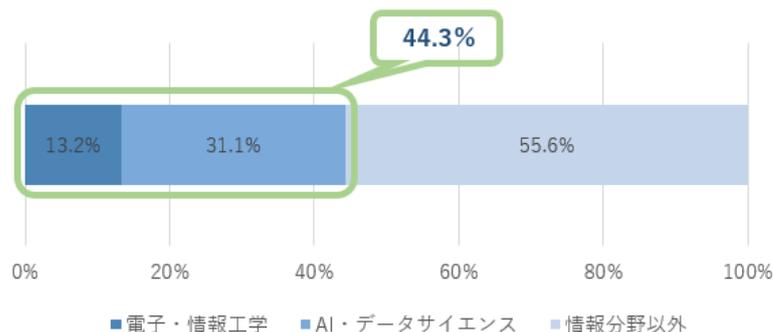
#### 3. 興味のある学問分野

■回答者に興味ある分野を複数回答で聴取したところ、44.3%が「情報分野」に興味を持つ結果となった。

今回の「久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻」定員増員をターゲットとする対象に調査実施できていると考えられる。

※複数回答 （単位：人） ■興味のある学問分野（複数回答 回答数151）

学問分野	情報
電子・情報工学	20 13.2%
AI・データサイエンス	47 31.1%
情報分野以外	84 55.6%



#### 4. 大学院にてリカレント教育を受ける場合の志望設置者

■大学院にてリカレント教育を受ける場合の志望設置者は、38.1%（24名）が「国立」。

次いで36.5%（23名）が「久留米工業大学大学院」を第1志望とする結果であった。

※複数回答 （単位：人）

志望設置者		
本学大学院	23	36.5%
国立	24	38.1%
公立	10	15.9%
私立	6	9.5%

#### 5. 「電子情報システム工学専攻」定員増員の場合の入学意向

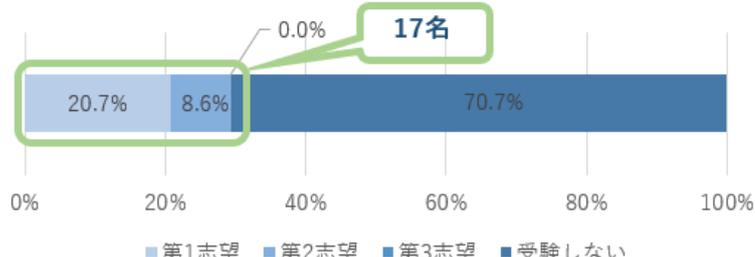
■電子情報システム工学科の収容定員が増えた場合、「17名（29.3%）」が受験を希望。

そのうち、12名が第一志望として受験を希望。

（単位：人）

■電子情報システム工学専攻の受験希望（回答数：58）

受験希望	本学大学院
第1志望	12 20.7%
第2志望	5 8.6%
第3志望	0 0.0%
受験しない	41 70.7%



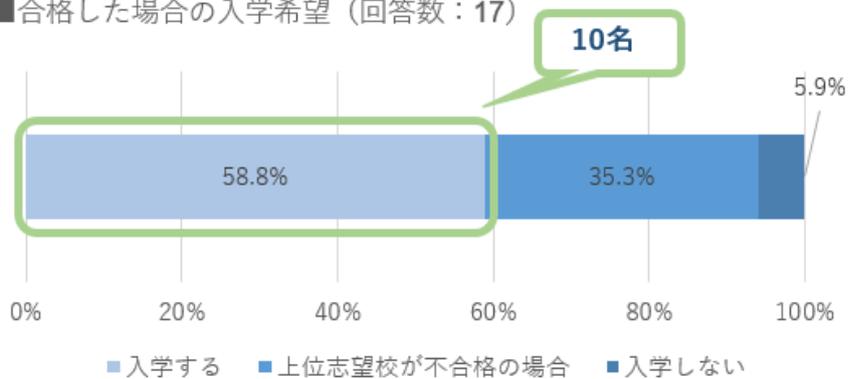
### 3. 社会人対象 調査結果（続き）

- 本学大学院を受験して合格した場合、10名（58.8%）が「入学する」と回答。収容定員が増えた場合の社会人ニーズは一定数あるという結果となった。

（単位：人）

入学希望	受験希望者	
	入学する	10
上位志望校が不合格の場合	6	35.3%
入学しない	1	5.9%

- 合格した場合の入学希望（回答数：17）



## 【資料 21】 収容定員増に関する採用ニーズ調査（企業対象）

### 調査用リーフレット

別添資料 アンケート調査用リーフレット 2023年11月発行

# 久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻

収容定員変更届出予定

学位名:修士(工学) 入学定員 20名 令和7年4月入学定員変更

このリーフレットに記載されている電子情報システム工学専攻に関する事項は全て予定であり、内容が変更になる可能性があります。

### 1. 設置の理念

本学は、昭和41(1966)年の建学以来、「人間味豊かな産業人の育成」を建学の精神として掲げています。建学の精神を実現するために「知・情・意」、すなわち「知を磨き、情を育み、意を鍛える」ことを教育の基本理念としています。

特に、本学大学院は、「学部における一般的並びに専門的な学識経験の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うこと」を目的としています。

### 2. 電子情報システム工学専攻の養成する人材像

電子回路・知能制御工学、情報・計算機システム工学に関わる研究、開発、設計及び生産技術などに対応できる高度電子情報専門技術者を育成します。ディプロマ・ポリシー（修士の学位授与方針）は、(1)電子・情報工学分野における高度な専門知識と問題・課題発見能力および解決能力を身に付けている。(2)研究者や技術者に必要な倫理観と国際性を備え、協働して社会の課題に取り組める。(3)論理的な記述、プレゼンテーション、コミュニケーションによりチームで仕事ができる。(4)電子・情報工学分野においてリーダーシップを取り、指導的役割を担える、となっています。

### 3. アドミッションポリシー

久留米工業大学は「人間味豊かな産業人の育成」を建学の精神とし、これに基づいて「知・情・意の調和のとれた実践的教育を行う」としています。本学大学院では、学部における一般的並びに専門的な学力を持つ人に、広い視野に立って深い学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度な能力を養うことを目的としています。本学大学院は、ものづくりに強い興味を持ち、さらに高度の技術力を身につけて、社会において活躍したいという強い意志を持った人を求めています。

電子情報システム工学専攻では、電子・情報工学の分野における基礎的な専門知識および技術者として必要な倫理観、コミュニケーション能力を持つ人に、更に広い視点に立って深い学識を授け、電子回路、知能制御工学、情報・計算機システム工学に関わる研究、開発、設計および生産技術などに対応できる高度の専門能力を身につけた電子情報専門技術者を育成することを目的としています。そのため本専攻では、電子・情報工学の分野に興味を持ち、この分野の高度な専門知識を身につけて、将来の情報化社会を担いたいという意欲のある人を求めています。

#### 求める学生像

- ・ものづくりに強い興味を持ち、新技術を開拓しようとする意欲のある人
- ・高度の専門知識を身につけ、将来工学の分野で社会に貢献しようとする人

・ 広範な工学や理学の知識を身につけ、技術者や研究者として活躍したいと意欲のある人

#### 求める資質

- ・ 工学の分野で十分な基礎的・専門的知識を身につけ、さらに高度の専門知識を修得しようとする人
- ・ 高度にして専門的な研究にあたり、高い研究意欲を有する人
- ・ 自らの考えを理論的に表現できること

#### 入学者選抜の基本方針

##### ・ AO 入学試験

学部の成績を評価します。面接において、自己表現力を重視します。卒業研究内容についてのプレゼンテーション能力を評価します。

##### ・ 推薦入学試験

学部の成績を評価します。学部での研究内容の継続性を考慮し、学科長および卒業研究指導教員の推薦を重視します。面接において、自己表現力を重視します。

##### ・ 一般入学試験

専門知識および基礎的英語力を評価します。面接において、自己表現力を重視した評価をします。

##### ・ 社会人特別選抜入学試験

これまでの社会経験に基づく自己表現力を重視した評価を行います。学習・研究に対する意欲・能力を重視した評価を行います。コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を評価します。

##### ・ 外国人留学生入学試験

日本語能力およびコミュニケーション能力を評価します。専門的な学習・研究に対する意欲を評価します。自己表現力を重視した評価を行います。

## 4. 設置場所・アクセス

本学は、九州自動車道(久留米IC~広川IC間)・国道3号線沿いに立地しています。大学駐車場を利用できるため自家用車での通学も可能です。

所在地: 〒830-0052 福岡県久留米市上津町 2228-66

- JR久留米駅より西鉄バスで約30分
- 西鉄天神大牟田線久留米駅より西鉄バスで約20分
- 九州自動車道広川インターより/車で5分



## 5. 学生納付金(授業料等) 令和6年4月1日~

- 入学金 110,000円 (本学卒業生は免除されます。)
- 年間学納金等 総額 846,750円 (内訳は次頁 表1をご参照ください。)

なお、学生納付金は、長期履修制度を利用する場合、3年または4年で分納可能です。

表1 年間学納金内訳

	授業料	教育充実費	実験実習費	委託徴収費(注)	計
前期	300,000円	50,000円	60,000円	11,750円	421,750円
後期	300,000円	50,000円	60,000円	15,000円	425,000円

(注) 後援会費や学生教育研究災害傷害保険料の委託徴収費(年次、期により金額が異なる)は、学納金と併せて徴収します。

## 6. 本学独自の奨学金制度

- 在学生向け奨学金：3年次終了時点の当該学科での成績(GPA評価)に応じて給付します。

GPA 上位 5%以内	第1種特別奨学生。授業料 70%給付
GPA 上位 15%以内	第2種特別奨学生。授業料 30%給付

- 3年次編入生向け：3年次の修得単位および成績に応じて給付します。

3年次の修得単位	秀・優の単位が40単位以上	第1種特別奨学生。授業料 70%給付	1名
45単位以上でかつ	秀・優の単位が36単位以上	第2種特別奨学生。授業料 30%給付	1名

- 在学生向けの新たな奨学金制度(予定)

GPA2.5以上かつAI教育プログラムでの実績や大学院入試選抜等の総合評価点が一定以上の学生に授業料50%相当額を給付します(20名まで)。第2種特別奨学生にも該当する場合は、こちらの奨学金を適用します。

## 7. 競合する他大学の大学院

あなたが電子・情報工学分野を学ぶうえで、他大学大学院としては次のものが挙げられます。

- 国立) 佐賀大学大学院 工学系研究科 知能情報システム学専攻・電気電子工学専攻
- 私立) 福岡工業大学大学院 工学研究科 情報工学専攻・情報通信工学専攻・情報システム工学専攻
- 私立) 福岡大学大学院 工学研究科 電子情報工学専攻
- 私立) 崇城大学大学院 工学研究科 応用情報学専攻

## 8. 電子情報システム工学専攻の授業科目の紹介

大学院の授業をいくつか紹介します。また、これ以外にも修士研究論文のためのセミナーがあります。

授業科目	内容
地域課題解決型 高度 AI 教育プログラム特別講義	実務経験を有する学外専門家・学術有識者を招聘し、様々な分野における AI・数理・データサイエンスなどの高度先端技術を応用した課題解決例について紹介する。幅広い分野(ロボット、Salesforce、経営・ビジネス、スポーツ解析、IoT エコシステム、CG・ゲームなど)での課題解決に活用される高度な技術、様々な角度から数理・データサイエンス・AIを生かす視点を修得する。
高度 AI コーオプ実践 I~IV	久留米市内外の中小企業が行う新製品・新技術の開発に連携し、地域企業の課題発見、課題解決に取り組みながら、AI・数理・データサイエンスの最先端技術について実践的に学ぶ。

別添資料 アンケート調査用リーフレット 2023年11月発行

データサイエンス特論	データサイエンスの中でも特に機械学習について、プログラムを実装しつつ、特微量の作成の仕方、モデルの作成方法、チューニングについて理解を深める。最終的には作成したモデルの評価も受講者自身で行えるような知識を修得する。
生体システム工学特論	センサ工学を基本として、人間の五感とそれに対応したセンサの構造、応用について学ぶ。五感は、人間が外界から情報を得る重要な入力装置であり優れたセンサである。五感とセンサの関係性を学び、様々な応用を検討する。
計算機システム工学特論 I	Unreal Engine 5 を用いて、C++ 等による高速・高精度でのソフトウェア・コンテンツ構築法を学ぶ。その後、応用として高精細デジタルヒューマンの生成とコントロールについて学び、最後にグループ演習としてゲーム制作・発表を行う。
情報システム工学特論 II	画像生成 AI や VR による感覚誘発の 2 つのトピックスについて研究論文を参考に学ぶ。生成 AI では、アーキテクチャの理解や実装を行う。VR では、応用の事例と人間の心理や感覚の定量化に対する手法について理解を深める。

## 9. 電子情報システム工学専攻の特色

### AI・データサイエンスをはじめとする実践的な教育

- 副専攻プログラム「地域課題解決型高度 AI 教育プログラム」を設けています。データサイエンス・AI・統計分析・ビッグデータ応用に関する講義が用意されています。また、本プログラムの修了証を授与します。
- 地域課題解決型 PBL により、企業とともに AI を用いた実践的な課題解決に取り組めます。
- 企業の方々による AI 導入事例の講義があり、それらを学ぶことができ、業務に応用できます。
- 電子・情報工学分野の教員だけでなく、数学・理学の教員、実務家教員など、多様な専門性を有する教員から学び、研究指導を受けることができます。

### 充実した研究教育環境

- 令和 7 年度に完成予定の新棟に電子情報システム工学専攻大学院生専用スペースが設置予定です。そこには最先端の教育システム等が導入され、自由に活用できる環境で研究・学修が可能です。
- 大学院生一人ひとりに高性能ノート PC を貸与します。

### 在学生向けの特色

- 大学院科目履修制度を利用し、学部 4 年次に大学院の科目を無料で受講できます。大学院での研究時間の確保がしやすくなり、その結果、学会発表や研究業績の増加やそれに伴う奨学金返還免除（令和 6 年度より学部生の修士課程進学者にむけた返還免除内定制度にも対応予定）も見込めます。
- 有償コーオプ制度（項目 11）を利用することで、有償で高度コーオプ実践科目に取り組むことができます。つまり、授業を受けながら人件費を受け取ることができます。（一定の条件が必要）

### 卒業生・社会人向けの特色

- 社会人コース（項目 10）を用意しています。土曜日は演習科目の受講や指導教員の研究指導を受けられ、在職しながら修士号を取得することができます。
- 全国でも唯一の MDASH リテラシープラス・応用基礎プラスの W 認定の私立大学（2023 年度時点）です。AI を学んでいなくとも、学部の授業も無償で受講できるため、基礎から応用まで学べます。

## 10. 大学院社会人コースについて

在職のまま入学を希望する者に対する教育制度です。原則、職場等の所属長の推薦が必要となります。  
※就職先が内定している学部4年生が在職のまま入学し本制度を利用する場合、大学院受験前に必ず内定先企業の承諾を得てください。内定先企業の承諾を得ていない場合、本コースは利用できません。

本コースでは、下記の特徴があります。

- 論文指導教員及び専攻の承認のもと、修士課程修了に必要な単位修得のための履修計画を柔軟に運用でき、標準年限（2年）以上（最長在学年数4年）にわたる修士の学位取得を可能としております。
- 論文指導教員の承認のもと、修士論文に相当する内容であれば企業等における研究も修士論文テーマとして認め、学外（勤務先の設備等を利用）でも研究を行うことができます。
- 講義を原則オンデマンドで提供し、土曜日は演習科目の受講や指導教員の研究指導を受けることができます。

## 11. 有償コーオプ制度について

高度 AI コーオプ実践 I・II・III・IVにおいて、久留米市内の中小企業が行う新製品・新技術の開発に連携し、「久留米市ものづくり支援事業」における研究、要素技術の連携開発、新製品、新技術の実用化開発を企業と協働で行う場合、大学院生に人件費を支給します。実践的に学びながらアルバイト代を得られるような仕組みです。

## 12. 進路・就職先

企業の開発部門への就職や他大学大学院博士後期課程への進学が考えられます。近年の実績は次の通りです。

企業：ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社、株式会社バンダイナムコエンターテインメント、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社、株式会社 sumco、ディップ株式会社、ヤマトシステム開発株式会社 等

博士後期課程：九州大学 大学院芸術工学研究府 博士後期課程、佐賀大学 大学院工学系研究科 博士後期課程

## 13. お問い合わせ先

アンケート調査について：総務課 TEL：0942-22-2345

入試制度や奨学金について：入試課 TEL：0942-65-3488

----- リーフレットは以上です。ご閲覧ありがとうございました。 -----

## 調査票様式

企業様向け

**久留米工業大学大学院 工学研究科**  
**電子情報システム工学専攻(収容定員変更届出予定)に関する採用ニーズ調査アンケート**

久留米工業大学では、2025年(令和7年)4月より、大学院「電子情報システム工学専攻」の入学定員を20名に増員することを構想しています。このアンケートは、大学院修士卒業生に対する採用意向をお伺いし、本学が養成する人材の需要について分析をするためのものです。このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。以下の設問に対してご記入、もしくは、あてはまるものに○をつけてください。

※このアンケートや別添資料に記載されている電子情報システム工学専攻に関する事項は全て予定であり、内容が変更になる可能性があります。

**Q1** アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度を次の中から一つ選択してください。

- 【選択肢】 ①採用の決裁権があり、選考にかかわっている  
②採用の決裁権はないが、選考にかかわっている  
③採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある  
④その他

**Q2** 貴社・貴団体の本社(本部)所在地および回答者の所在地(支店等)について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地		回答者の所在地	
-----------	--	---------	--

**Q3** 貴社・貴団体の業種について、次の中から一つ選択してください。

- 【選択肢】  
①農・林・漁・鉱業 ②建設業 ③製造業 ④電気・ガス・熱供給・水道業  
⑤情報通信業 ⑥運輸業 ⑦卸売・小売業 ⑧金融・保険業 ⑨不動産業 ⑩飲食店・宿泊業  
⑪医療・福祉 ⑫複合サービス ⑬サービス業 ⑭公務 ⑮その他

**Q4** 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、次の中から一つ選択してください。

- 【選択肢】  
①50名未満 ②50名～100名未満 ③100名～500名未満 ④500名～1,000名未満  
⑤1,000名～5,000名未満 ⑥5,000名以上

----- 次頁に続く -----

企業様向け

**Q5** 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な新卒正規社員の採用数について、次の中から一つ選択してください。

【選択肢】

- ①0名      ②1名～5名未満      ③5名～10名未満      ④10名～20名未満  
⑤20名～30名未満      ⑥30名～50名未満      ⑦50名～100名未満      ⑧100名以上

**Q6** 貴社・貴団体の本年度の新卒採用予定数は、昨年度と比較していかがですか？次の中から一つ選択してください。

【選択肢】 ①増やす      ②昨年度並み      ③減らす      ④未定

**Q7** 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか？（複数選択可）

【選択肢】

- ①情報工学・AI・データサイエンス      ②工学（機械・電気・環境・経営）      ③数学  
④理学      ⑤農学・水産学      ⑥生活科学  
⑦総合科学      ⑧看護学・保健学      ⑨医学・歯学・薬学  
⑩教員養成学・教育学      ⑪文学      ⑫語学・国際関係学  
⑬経営学・経済学・商学      ⑭法学      ⑮社会学  
⑯芸術学      ⑰その他      ⑱分野は問わない

■久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻（収容定員増届出中）についてお聞きします。ここからは、別添のリーフレットを見ながらお答えください。

**Q8** 久留米工業大学大学院工学研究科電子情報システム工学専攻には、リーフレット項目9～11のような特色があります。貴社・貴団体（ご回答者）は、リーフレットをお読みになってどの程度魅力を感じますか？次より一つ選択してください。

	とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	全く 魅力を 感じない
リーフレットに記載された専攻の特色について	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

----- 次頁に続く -----

企業様向け

Q9

貴社・貴団体（ご回答者）は、久留米工業大学大学院工学研究科電子情報システム工学専攻の学びの内容は、これからの社会にとって必要だと思われますか。

【選択肢】 ①必要だと思う      ②必要だと思わない

Q10

貴社・貴団体（ご回答者）は、久留米工業大学大学院工学研究科電子情報システム工学専攻を修了した学生について、採用したいと思えますか？

【選択肢】 ① 採用したいと思う      ②採用したいと思わない

Q11

上記 Q10 で「①採用したいと思う」と回答された方におたずねします。採用を考える場合、久留米工業大学大学院工学研究科電子情報システム工学専攻を修了した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか？次より一つ選択してください。

【選択肢】 ① 1名      ②2名      ③3名      ④4名      ⑤5～9名      ⑥10名以上

Q12

情報分野における高度人材（大学院修士課程修了レベル）の養成に関するご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

----- 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。 -----

調査結果

久留米工業大学大学院  
「工学研究科 電子情報システム工学専攻」  
定員増員に関する採用ニーズ調査  
結果報告書  
【企業対象調査】

令和6年2月  
 久留米工業大学

## 1. 企業対象 採用ニーズ調査概要

### 1) 調査目的

本調査は、2025年4月より久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」定員増員構想に伴う社会的ニーズの把握を目的とし、当該専攻の卒業生の就職先として想定される企業を対象に、その関心度や想定する採用人数等を聴取したものである。

### 2) 調査概要

		企業対象調査					
調査対象		企業の採用担当者					
調査エリア		北海道	栃木県	埼玉県	東京都	神奈川県	愛知県
		大阪府	兵庫県	広島県	愛媛県	福岡県	佐賀県
		長崎県	熊本県	宮崎県	鹿児島県		
調査方法		郵送調査					
調査対象数	依頼数	143社					
	回収数	116社					
	回収率	81.1%					
調査期間		2023年12月18日（月）～2024年1月10日（水）					
調査項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人事採用への関与度</li> <li>・ 本社所在地</li> <li>・ 業種</li> <li>・ 従業員数</li> <li>・ 正規正社員の新卒平均採用人数</li> <li>・ 本年度の新卒採用予定数</li> <li>・ 採用したい分野</li> <li>・ 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」の特色に対する魅力度</li> <li>・ 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」の社会的必要性</li> <li>・ 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」卒業生に対する採用意向</li> <li>・ 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」卒業生の毎年の採用想定人数</li> </ul>					

## 2. 企業対象 採用ニーズ調査結果まとめ

### 1) 概要

- 本調査は、2025年4月より久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」定員増員構想に伴う社会的ニーズの把握を目的として実施した。  
当該専攻の卒業生の就職先として想定される企業116社より有効な回答を得て、集計・分析を行った。

### 2) 回答企業の新卒採用状況・新卒採用予定数・採用したい学問

- 毎年、新卒正規社員を採用している企業は全体の88.5%とほとんどである。
- 回答企業の本年度の新卒採用予定数は「昨年度並み」が56.4%で最も多い。  
次いで「増やす」が33.3%であり、回答企業の89.7%が昨年と同等かそれ以上の採用が予定されている。

新卒採用予定数	回答数	
増やす	26社	33.3%
昨年度並み	44社	56.4%

- 回答企業の採用したい学問分野を複数回答で聴取したところ「工学（機械・電気・環境・経営）」の割合が35%と高かった。次いで「情報工学・AI・データサイエンス」が23%と続き、当該専攻の卒業生の採用ニーズは多いと判断できる。

採用したい分野	回答数	
情報工学・AI・データサイエンス	36社	23%
工学（機械・電気・環境・経営）	54社	35%

### 3) 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」の社会的必要性

- 社会的必要性については99.1%（116社中、115社）が「必要だと思う」と回答。  
多くの企業からこれからの社会にとって必要な専攻であると評価されている結果であった。

必要性	回答数	
必要だと思う	115社	99.1%

### 4) 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 「久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は115社中95社（82.6%）である。
- 「採用したいと思う」と答えた95社へ卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は178名で、予定している増員定員数20名を大きく上回っている。  
このことから、安定した人材需要があることが伺える。

採用意向企業	95社
毎年の採用想定人数	178名

### 3. 企業対象 採用ニーズ調査結果

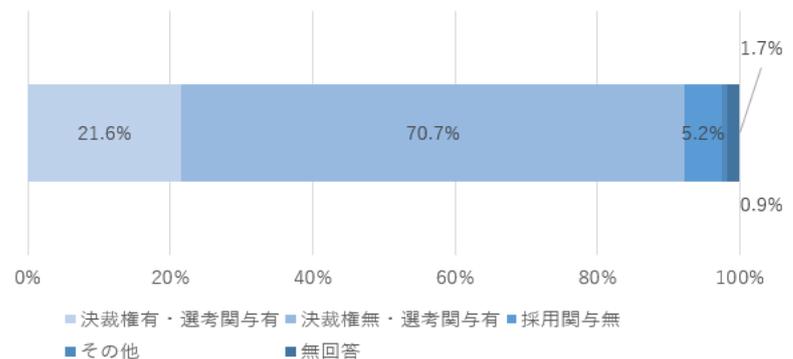
#### 1) 回答企業の属性

■回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の権限があり、選考に関わっている」人は21.6%、「採用の決裁権限はないが、選考に関わっている」人は70.7%と、採用や選考に関わる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。

(単位：社)

関与度	回答数	
決裁権有 選考関与有	25	21.6%
決裁権無 選考関与有	82	70.7%
採用関与無	6	5.2%
その他	1	0.9%
無回答	2	1.7%

■人事採用への関与度 (回答数：116社)



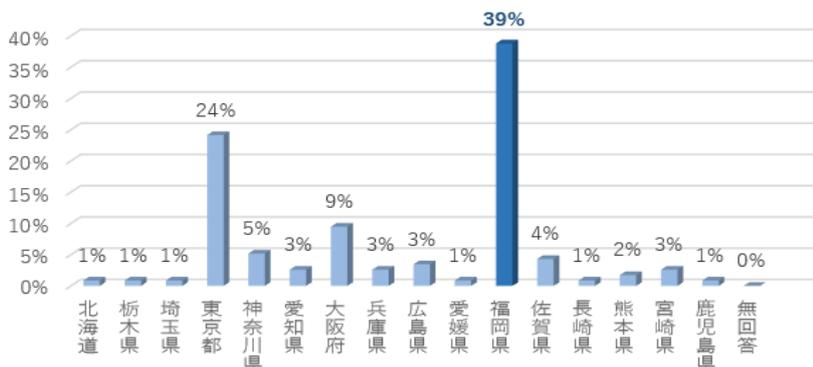
■回答企業の本社所在地は、久留米工業大学大学院の所在地である「福岡県」が39%を占め、最も多い。次いで「東京都」が24%、「大阪府」が9%である。

(単位：社)

(単位：社)

本社所在地	回答数		本社所在地	回答数	
北海道	1	1%	愛媛県	1	1%
栃木県	1	1%	福岡県	45	39%
埼玉県	1	1%	佐賀県	5	4%
東京都	28	24%	長崎県	1	1%
神奈川県	6	5%	熊本県	2	2%
愛知県	3	3%	宮崎県	3	3%
大阪府	11	9%	鹿児島県	1	1%
兵庫県	3	3%	無回答	0	0%
広島県	4	3%			

■本社所在地 (回答数：116社)



### 3. 企業対象 採用ニーズ調査結果（続き）

■回答企業の業種としては「建設業」が34%で最も多い。

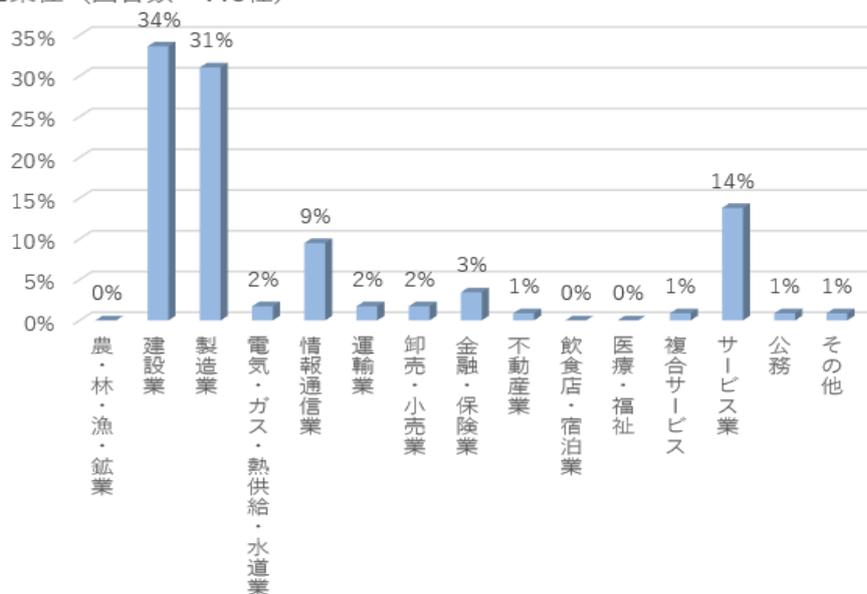
次いで「製造業」が31%、「サービス業」が14%である。

（単位：社）

（単位：社）

業種	回答数	業種	回答数
農・林・漁・鉱業	0	不動産業	1
建設業	39	飲食店・宿泊業	0
製造業	36	医療・福祉	0
電気・ガス・熱供給・水道業	2	複合サービス	1
情報通信業	11	サービス業	16
運輸業	2	公務	1
卸売・小売業	2	その他	1
金融・保険業	4		

■業種（回答数：116社）



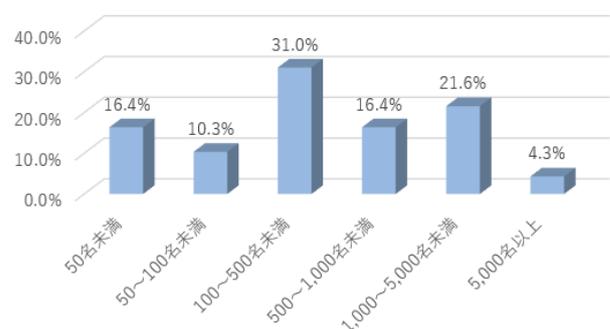
■回答企業の従業員数（正規社員）は「100～500名」が31.0%で最も多い。

次いで「1,000～5,000名未満」が21.6%、「500～1,000名未満」「50名未満」が16.4%であった。

（単位：社）

■従業員数（回答数：116社）

従業員数	回答数	割合
50名未満	19	16.4%
50～100名未満	12	10.3%
100～500名未満	36	31.0%
500～1,000名未満	19	16.4%
1,000～5,000名未満	25	21.6%
5,000名以上	5	4.3%



### 3. 企業対象 採用ニーズ調査結果（続き）

#### 2) 回答企業の新卒採用状況・新卒採用予定数・採用したい学問

■回答企業の平均的な新卒正規社員の採用人数は「1～5名」が23.1%で最も多い。

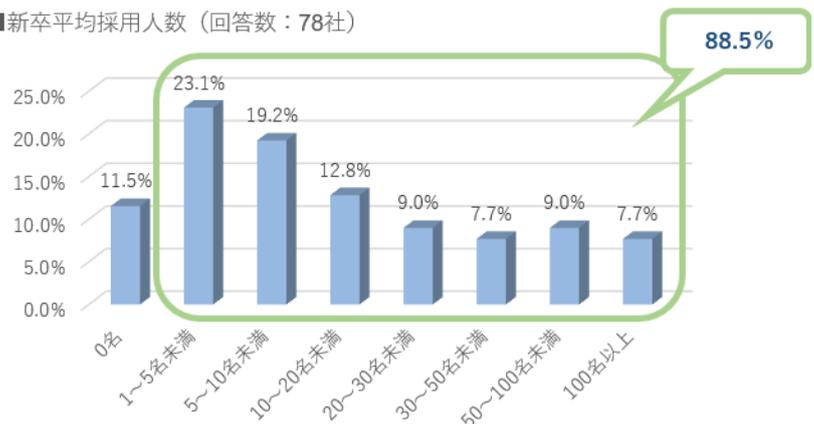
次いで「5～10名未満」が19.2%、「10～20名未満」が12.8%である。

毎年、新卒正規社員を採用している企業が全体の88.5%とほとんどである。

(単位：社)

新卒平均採用数	回答数	
0名	9	11.5%
1～5名未満	18	23.1%
5～10名未満	15	19.2%
10～20名未満	10	12.8%
20～30名未満	7	9.0%
30～50名未満	6	7.7%
50～100名未満	7	9.0%
100名以上	6	7.7%
無回答	38	-

■新卒平均採用人数（回答数：78社）



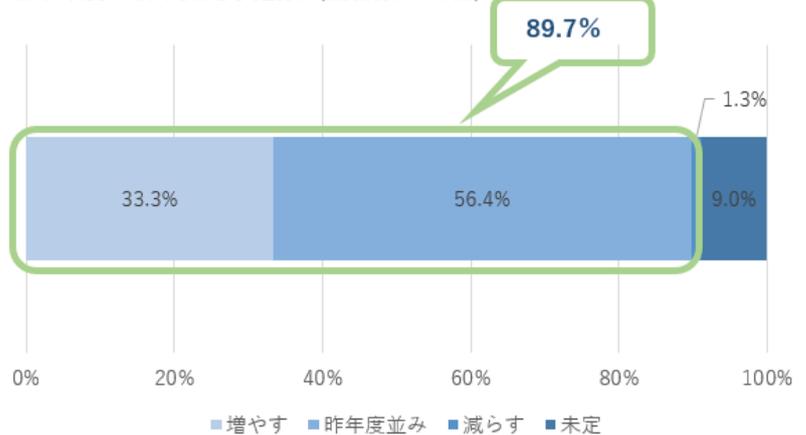
■回答企業の本年度の新卒採用予定数は「昨年度並み」が56.4%で最も多い。

次いで「増やす」が33.3%であり、回答企業の89.7%が昨年と同等かそれ以上の採用が予定されている。

(単位：社)

新卒採用予定数	回答数	
増やす	26	33.3%
昨年度並み	44	56.4%
減らす	1	1.3%
未定	7	9.0%
無回答	38	-

■本年度の新卒採用予定数（回答数：78社）



■回答企業の採用したい学問分野を複数回答で聴取したところ「工学（機械・電気・環境・経営）」の割合が35%と高かった。

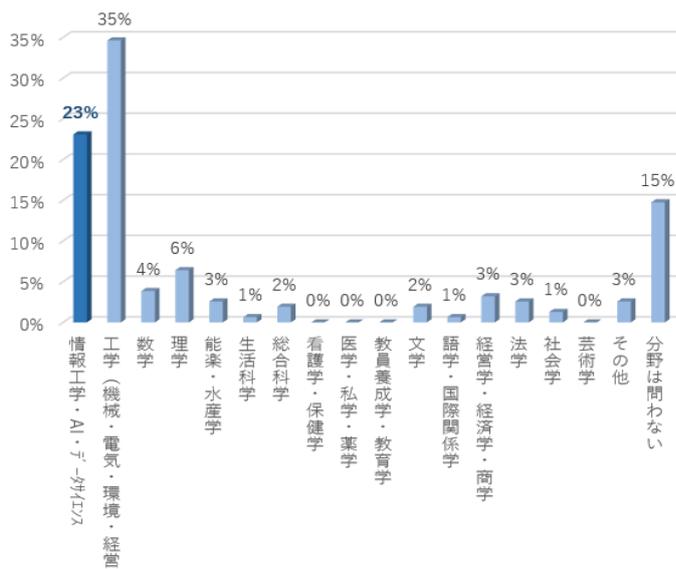
次いで「工学研究部 電子情報システム工学専攻」の学びに関連のある「情報工学・AI・データサイエンス」が23%と続き、採用ニーズは多いと判断できる。

### 3. 企業対象 採用ニーズ調査結果（続き）

※複数回答 （単位：社）

採用したい分野	回答数	採用したい分野	回答数
情報工学・AI・データサイエンス	36 23%	教員養成学・教育学	0 0%
工学（機械・電気・環境・経営）	54 35%	文学	3 2%
数学	6 4%	語学・国際関係学	1 1%
理学	10 6%	経営学・経済学・商学	5 3%
能楽・水産学	4 3%	法学	4 3%
生活科学	1 1%	社会学	2 1%
総合科学	3 2%	芸術学	0 0%
看護学・保健学	0 0%	その他	4 3%
医学・私学・薬学	0 0%	分野は問わない	23 15%

■採用したい学問分野（※複数回答 回答数：156）



### 3) 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」の特色に対する魅力度

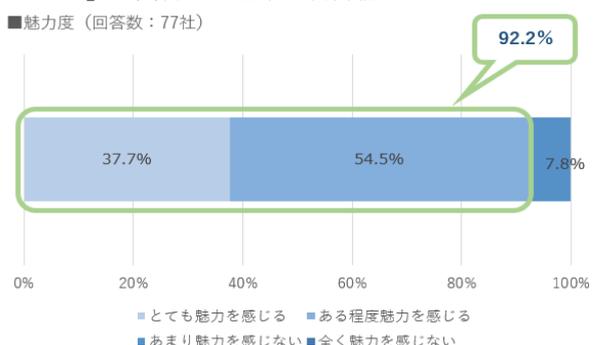
■「久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻」の特色に対する魅力度（※）は92.2%と非常に高い結果となった。

※「魅力度」：「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

（単位：社）

魅力度	回答数	割合
とても魅力	29	37.7%
ある程度魅力	42	54.5%
あまり魅力でない	6	7.8%
全く魅力はない	0	0.0%
無回答	39	—

■魅力度（回答数：77社）



### 3. 企業対象 採用ニーズ調査結果（続き）

#### 4) 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」の社会的必要性

■「久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻」の社会的必要性については99.1%（116社中、115社）が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な専攻であると評価されている結果であった。

（単位：社）

■社会的必要性（回答数：116社）

必要性	回答数	
必要だと思う	115	99.1%
必要だと思わない	1	0.9%
無回答	0	0.0%



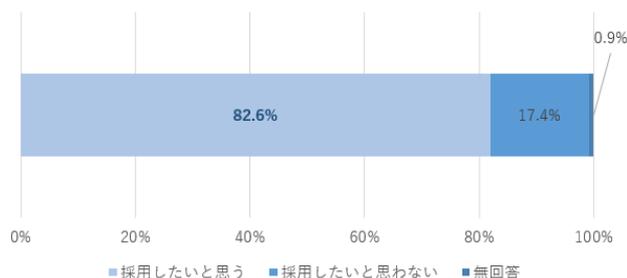
#### 5) 久留米工業大学大学院「工学研究科 電子情報システム工学専攻」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

■「久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は82.6%（115社中、95社）である。

（単位：社）

■採用意向（回答数：115社）

採用意向	回答数	
採用したいと思う	95	82.6%
採用したいと思わない	20	17.4%
無回答	1	0.9%



■「久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻」卒業生を「採用したいと思う」と答えた95社へ卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は178名で予定している増員定員数20名を大きく上回っている。

このことから、安定した人材需要があることが伺える。

採用想定人数	1名	2名	3名	4名	5～9名	10名以上	無回答
回答数 (単位：社)	50 52.6%	20 21.1%	11 11.6%	0 0.0%	7 7.4%	2 2.1%	5 5.3%
採用想定人数 (単位：人)	50	40	33	0	35	20	-

※「5～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

増員定員数20名を大きく上回る

採用意向企業	95 社
毎年の採用想定人数（計）	178 名

### 3. 企業対象 採用ニーズ調査結果（続き）

#### 6) 属性別分析

##### 【属性別】本社所在地別

- 久留米工業大学大学院の所在地である「福岡県」に本社がある企業からの採用意向は68.9%。  
採用想定人数は45名で、予定している増員定員数を2倍以上上回っている。  
また、福岡県以外の九州エリアにおいても採用意向は100%であり、採用想定人数合計は15名。  
九州エリアのほぼ全域において採用ニーズは高い結果。

##### 【属性別】業種別

- 業種が「情報通信業」である企業からの採用意向は100%。  
採用想定人数の合計は28名で、予定している増員定員数を上回っている。

##### 【属性別】従業員数別

- 従業員の多少にかかわらず、すべての層で半数以上の企業で採用意向が見られる。  
従業員数が「100～500名未満」「500～1,000名未満」「1,000～5,000名未満」の企業では90%前後、特に「5,000名以上」では100%の企業で採用意向が見られる。

##### 【属性別】本年度の新卒採用予定数別

- 本年度の新卒採用を「増やす」予定の企業からの採用意向は80.8%（26社中21社）。  
採用想定人数の合計は43名で、予定している増員定員数を2倍以上上回っている。  
「昨年度並み」予定の企業からの採用意向は84.1%（44社中37社）、採用想定人数の合計は57名で  
予定している増員定員数を大きく上回っている。

##### 【属性別】採用したい学問分野別

- 「久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻」の学びと関連する「情報工学・AI・データサイエンス」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は100%（36社中36社）  
で、採用想定人数の合計は63名と定している増員定員数を3倍以上上回っている。

##### 【属性別】特色に対する魅力度別

- 「久留米工業大学大学院 工学研究科 電子情報システム工学専攻」の特色に「とても魅力を感じている」企業の採用意向は96.6%（29社中28社）で、採用人数も60名と予定している増員定員数を大きく上回っている。

### 3. 企業対象 採用ニーズ調査結果（続き）

■「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

属性		回答 企業数	採用意向（％）					採用意向 企業数	採用 想定人数
			0%	20%	40%	60%	80%		
全体		116社	81.9%					95社	178名
本社 所在地別	福岡県	45社	68.9%					31社	45名
	佐賀県	5社	100.0%					5社	7名
	熊本県	2社	100.0%					2社	2名
	宮崎県	3社	100.0%					3社	5名
	鹿児島県	1社	100.0%					1社	1名
業種別	情報通信業	11社	100.0%					11社	28名
従業員数別	50名未満	19社	63.2%					12社	19名
	50～100名未満	12社	66.7%					8社	8名
	100～500名未満	36社	83.3%					30社	44名
	500～1,000名未満	19社	94.7%					18社	38名
	1,000～5,000名未満	25社	88.0%					22社	59名
	5,000名以上	5社	100.0%					5社	10名
新卒採用 予定数別	増やす	26社	80.8%					21社	43名
	昨年度並み	44社	84.1%					37社	57名
採用したい 学問分野別	情報工学・AI・データサイエンス	36社	100.0%					36社	63名
	工学（機械・電気・環境・経営）	54社	70.4%					38社	70名
	理学	10社	20.0%					2社	3名
	その他	4社	25.0%					1社	2名
	分野は問わない	23社	78.3%					18社	40名
魅力度別	とても魅力	29社	96.6%					28社	60名
	ある程度魅力	42社	81.0%					34社	46名
社会的必要性別	必要だと思う	115社	82.6%					95社	178名

※採用想定人数・合計 「5～9名」=5名、「10名以上」=10名を代用し合計値を算出

### 3. 企業対象 採用ニーズ調査結果（続き）

#### 7) 企業よりのご意見

- 情報分野における高度人材がとても少ない事は事実です。
- 販路拡大（地元企業）の支援におけるSNSマーケティング等も含めてシステム工学で企業支援の方法を推進できるよう御学校と様々な「支援づくり」を構築していきたい。
- これからますますの情報化社会への加速の勢いが止まらない日本社会に於きまして、貴大学の取り組みは素晴らしいことと思えました。私も企業側にとりましても採用させて頂きたい人材と思えますので貴専攻修了の学生さんへの需要は高いと存じます。弊社におきましても貴大学院を修了された卒業生の皆さんには企業戦力の一翼を担う存在としてご活躍頂いております。
- AI等、最先端の技術に関しては都市圏に比べ地方は大きく遅れているのが現状だと思います。貴院の学生の皆さんには、専門の知識と技術を身につけていただき地元地域にITを根付かせ、さらに発展させていただけるような人材の育成を期待しております。
- 情報や電子系人材が更に増える事は、喜ばしく思います。
- AI・データサイエンスをはじめとする実践的な教育は、就職後も非常に活かせると思います。
- 非常にレベルが高く魅力を感じる学びであるため、何名でも採用したいという考えです。
- 建設業界では業務量削減のためDX化が進められており、情報系学生を求めています。
- 今後企業はデータサイエンスの分野で、ビッグデータからAIを用いて如何に簡単に必要な情報を取り出し、活用できるかで業績も変わってくると思います。データサイエンティスト、AIを作る（AIの中身を作れる）人の養成をお願いします。
- AIやデータサイエンスといった技術が、幅広く様々な分野の技術革新への大きな鍵のひとつだと感じています。貴取り組みに大いに期待しております。
- より専門的な知識を多く学ばれるのは企業としても役立つ事になります。

【資料 22】株式会社リベルタス・コンサルティング 「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」調査報告書（P96）

令和 3 年 度  
文部科学省委託調査

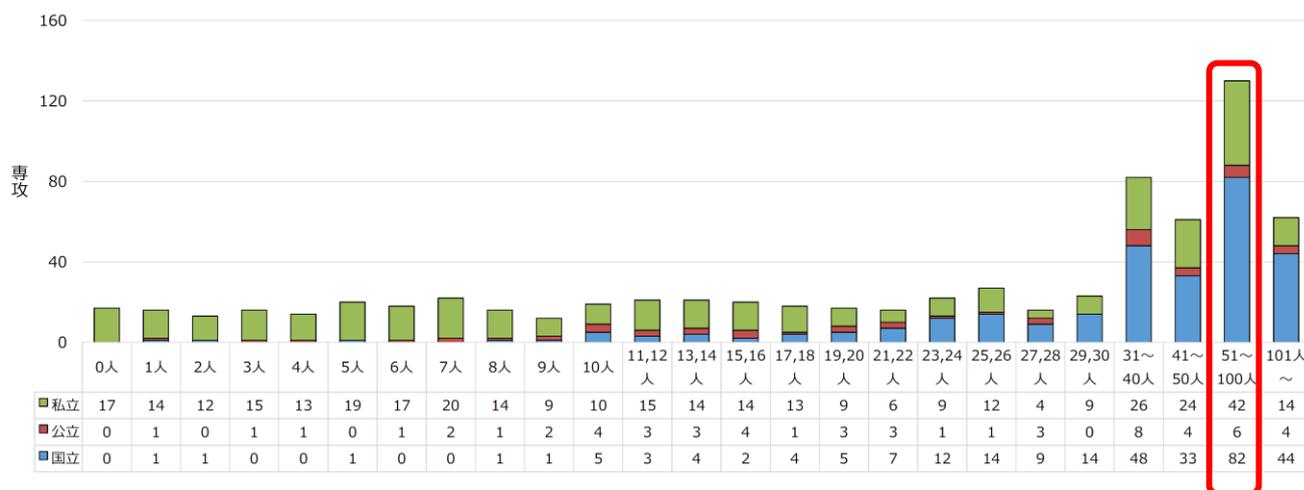
## 大学院における教育改革の 実態把握・分析等に関する調査研究

### 調査報告書

令和4年2月

### 株式会社 リベルタス・コンサルティング

工学：719専攻（国立：291専攻、公立：57専攻、私立：371専攻）



◆株式会社リベルタス・コンサルティング 令和4年2月「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究 調査報告書（P96）」

[https://www.mext.go.jp/content/20220411-mxt\\_daigakuc03-000021818\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220411-mxt_daigakuc03-000021818_01.pdf)

教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	ヒノ シンイチ 目野 伸一 <令和6年4月>	72	工学博士	1,131	久留米工業大学学長 (令和6年4月～令和12年3月)